

I S S N 0386—5878

土木研究所資料第3090号

土 木 研 究 所 資 料

海岸研究室発表論文の目録とその検索法

平成4年2月

建設省土木研究所
河川部海岸研究室

「Copyright © (1992) by P. W. R. I.

All rights reserved. No part of this book may be reproduced by any means, nor transmitted,
nor translated into a machine language without the written permission of the Director General of P. W. R. I.

この報告書は、土木研究所長の承認を得て刊行したものである。したがって、本報告書の全部又は一部の転載、
複製は、土木研究所長の文書による承認を得ずしてこれを行ってはならない。」

海岸研究室発表論文の目録とその検索法

海岸研究室長 宇 多 高 明

要 旨

1973年より1992年1月末までに、土木研究所海岸研究室より発表された論文の目録と、その検索法を示す。

キーワード：海岸研究室，発表論文，目録，論文キーワード

目 次

第1章 はじめに	1
第2章 本目録の利用法	1
第3章 各種雑誌の論文目録	3
(1) 海岸工学論文集	3
(2) 地形	27
(3) 土木技術資料	33
(4) 土木技術資料 (Q & A)	49
(5) 土木研究所資料	55
(6) 共同研究報告書	67
(7) 土木研究所報告	71
(8) 土木学会論文集	77
(9) 海洋開発論文集	83
(10) 海岸実務講義集	91
(11) 海岸	97
(12) 年次学術講演会講演概要集	105
(13) 河川	121
(14) Coastal Eng. in Japan (C E J)	125
(15) I C C E	133
(16) Coastal Sediments	139
(17) 水工学に関する夏期研修会講義集	143
(18) 水理講演会論文集	147
(19) 諸論文	153

第1章 はじめに

海岸研究室では海岸に関して多方面から研究を進めてきており、それらは各種雑誌に発表されたり、あるいは土木研究所報告および土木研究所資料などにまとめられてきている。ところで、海岸保全事業を進める現場で問題が生じ、それらの問題の解決法を調べたいと思うとき、あるいは海岸保全の技術的検討を進める場合において過去の海岸情報を調べたいと思うとき、実際には海岸研究室で種々の検討が進められているにもかかわらず、それらをまとめた資料の所在が不明なため文献をうまく調べるできないことがしばしばあると思われる。これでは折角の資料の活用が不十分となる。そこで、今回、1973年より1992年1月末までの間に海岸研究室において進められた研究のうち、少なくとも筆者が関係した研究の全論文の目録を作るとともに、これらを容易に検索できるよう工夫したものである。

第2章 本目録の利用法

論文の検索法としては、各論文ごとに選ばれた3個のキーワードをもとに、まず海岸名より論文番号が調べられるようにした。そして現地海岸を取り上げる順序は、北海道の太平洋岸より我が国沿岸を時計回りに巡る順とした。併せてそれらの位置図を示した。したがって、対象とする海岸名が分かれば、それよりある雑誌の特定の論文番号を調べることができる。

一方、ある特定の海岸の問題を取り上げるのではなく、論文内容より論文を検索したい場合には、以下の内容より検索できるようにした。

《論文内容による検索》

1. 海岸調査
1.1 漂砂
1.2 海浜流
1.3 リモセン*
2. 波浪（津波含む）
3. 海浜変形
3.1 河口
3.2 砂嘴
3.3 砂浜
3.4 湖浜
4. 海岸構造物
4.1 突堤
4.2 離岸堤・消波堤
4.3 人工リーフ

- 4.4 ヘッドランド（人工岬）
- 4.5 養浜・サンドバイパス
- 4.6 緩傾斜堤
- 4.7 海域制御構造物
- 5. 海岸環境
- 6. 数値モデル
 - 6.1 汀線変化モデル
 - 6.2 経験的海浜変形モデル
 - 6.3 等深線変化モデル
 - 6.4 海浜流モデル
 - 6.5 潮流・津波モデル
- 7. その他

*注 リモートセンシングの略称である。

実際には、海岸名あるいは研究内容を表わすキーワードより全論文が検索できるよう一括して示すことが望ましいが、各雑誌ごとの編数がかなり多く、これでは検索しにくいので、各雑誌ごとに2つの検索法を併用した。また、内容により論文を検索する場合には、単一のキーワードではなく、複数のキーワードより検索できるようにした。最終的に、各雑誌ごとの整理順は次のように定めた。

- [1] 海岸名からの検索
- [2] 研究内容からの検索
- [3] 各論文のキーワード
- [4] 各論文名

したがって、[1] または [2] の方法で論文番号を調べるか、あるいは特定の雑誌の記載内容を簡単に知りたければ、[3] を斜め読みし、最終的に [4] で各論文の正式名を調べればよい。

第3章 各種雑誌の論文目録

(1) 海岸工学論文集

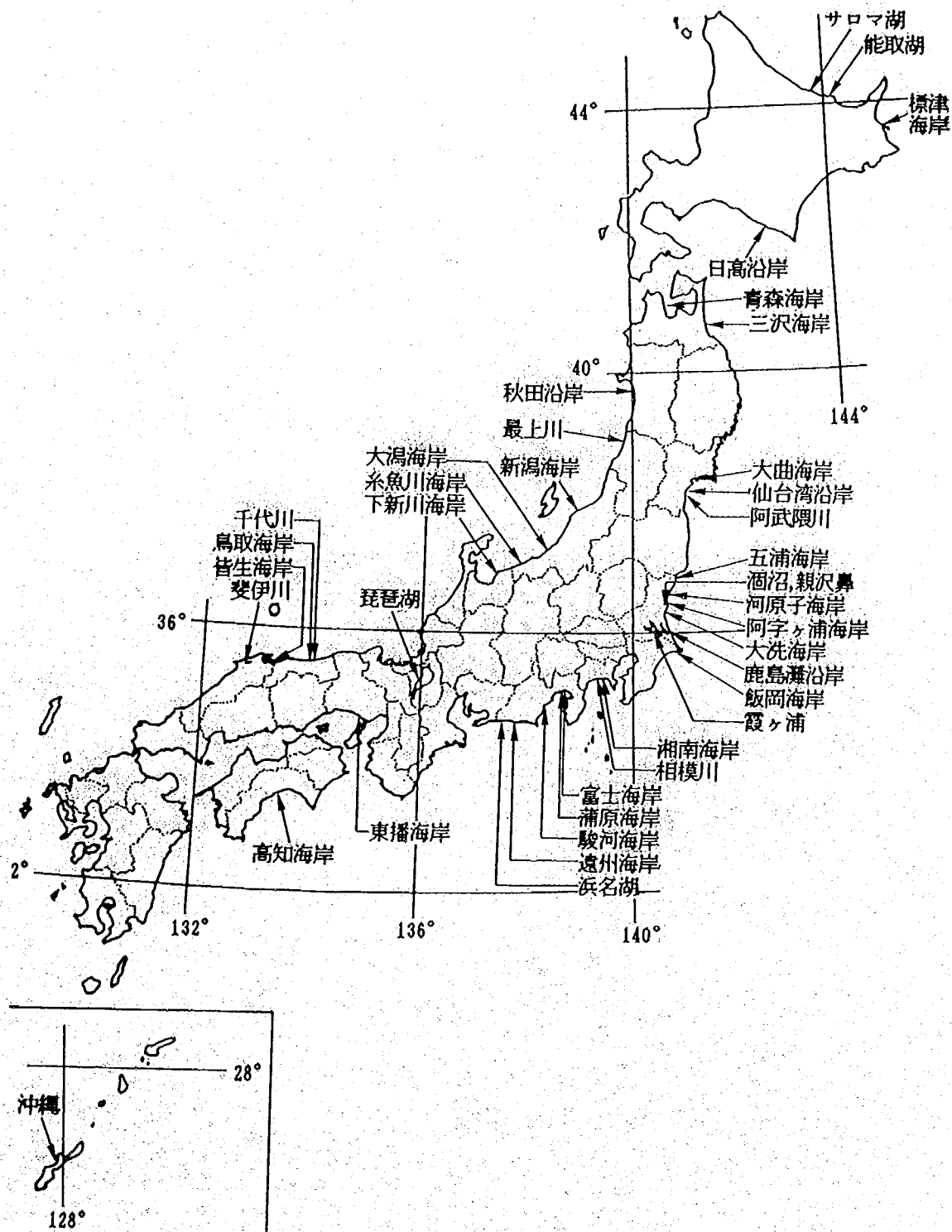


図-1 研究対象海岸の位置

THE UNIVERSITY OF CHICAGO
LIBRARY

1964

1964

1964

1964

1964

1964

1964

1964

1964

1964

1964

1964

1964

1964

1964

1964

1964

1964

1964

1964

1964

〔海岸工学論文集〕：地名別分類

サロマ湖湖口	No.126(1991)	海浜変形, 入退潮流
能取湖湖口	No.111(1990)	導流堤, 海浜変形
標津海岸	No.124(1991)	海岸侵食, 汀線変化
日高沿岸	No.122(1991)	海浜変形, 沿岸漂砂
青森海岸	No.100(1990)	礫養浜, うちあげ高
三沢海岸	No.14 (1979)	経験的海浜変形モデル, 海浜変形
	No.34 (1985)	海浜変形, 汀線変化モデル
	No.118(1990)	海岸侵食, 汀線変化
大曲海岸	No.106(1990)	汀線変化, 海浜変形
仙台湾沿岸	No.113(1990)	海岸侵食, 沿岸漂砂の阻止
阿武隈川河口	No.40 (1986)	河口砂州, 海浜変形
	No.53 (1987)	河口砂州, フラッシュ
	No.86 (1989)	河口テラス, 洪水流
五浦海岸	No.105(1990)	海食崖, 岩石特性
河原子海岸	No.30 (1984)	下新川海岸, 海浜流
涸沼	No.33 (1985)	親沢鼻, 砂嘴
	No.59 (1987)	アーマーコート, 模型実験
親沢鼻	No.33 (1985)	涸沼, 砂嘴
阿字ヶ浦海岸	No. 3 (1975)	漂砂観測, 蛍光砂調査
	No. 4 (1976)	橋脚, 局所洗掘
	No. 5 (1976)	海浜変形, 現地観測
	No. 7 (1977)	海浜変形, 現地観測
	No.10 (1978)	海浜変形, 現地観測
	No.11 (1978)	海浜流, 摩擦係数
	No.12 (1979)	リモセン, 熱拡散係数
	No.13 (1979)	海浜流, 現地観測
	No.15 (1980)	前浜勾配, 底質粒径
	No.17 (1980)	橋脚, 局所洗掘
	No.22 (1982)	リモセン, 海浜流
	No.25 (1983)	リモセン, 海浜流
	No.31 (1984)	波向, 海浜流
	No.68 (1988)	前浜, 海浜変形
	No.85 (1989)	バーム, 底質粒径
	No.129(1991)	海浜変形, 線形応答
大洗海岸	No.18 (1981)	海浜変形, 汀線変化

	No.24 (1983)	海浜変形, 汀線変化
鹿島灘沿岸	No.73 (1988)	ヘッドランド, 海浜変形
飯岡海岸	No.55 (1987)	海岸侵食, 海浜変形
	No.93 (1989)	サンドバイパス, 現地実験
	No.115(1990)	人工リーフ, 消波効果
霞ヶ浦	No.78 (1988)	湖浜変形, 限界水深
湘南海岸	No.6 (1977)	長周期波, 現地観測
	No.92 (1989)	ヘッドランド, 模型実験
相模川河口	No.74 (1988)	海浜変形, 河口テラス
富士海岸	No.38 (1985)	離岸堤, ブロック散乱
	No.43 (1986)	海浜変形, 汀線変化モデル
	No.128(1991)	富士川河口, 海浜変形
蒲原海岸	No.56 (1987)	海岸侵食, 海底谷
駿河海岸	No.29 (1984)	海浜変形, 沿岸漂砂量
	No.32 (1984)	リモセン, ランドサット
	No.39 (1985)	リモセン, ランドサット
	No.41 (1986)	下新川海岸, 海底谷
	No.44 (1986)	サンドバイパス, 海浜変形
	No.50 (1986)	リモセン, ランドサット
	No.52 (1987)	海底谷, 蛍光砂調査
	No.60 (1987)	突堤, 養浜
	No.63 (1987)	リモセン, ランドサット
	No.67 (1988)	海底谷, 海浜変形
	No.89 (1989)	有脚式離岸堤, 洗掘
	No.123(1991)	海岸侵食, 土砂収支
遠州海岸	No.57 (1987)	浜名湖今切口, 海浜変形
	No.69 (1988)	福田漁港, 海浜変形
浜名湖今切口	No.57 (1987)	遠州海岸, 海浜変形
東播海岸	No.114(1990)	礫養浜, 海浜変形
	No.125(1991)	礫養浜, 現地実験
高知海岸	No.36 (1985)	海底掘削, 海浜変形
	No.110(1990)	海岸侵食, 沿岸漂砂
沖縄	No.65 (1988)	リーフ, 海浜流
斐伊川河口	No.76 (1988)	河口デルタ, 湖浜変形
皆生海岸	No.23 (1983)	海浜変形, 離岸堤
	No.58 (1987)	離岸堤, 漂砂観測

	Na.72 (1988)	海浜変形, 等深線変化モデル
鳥取海岸	Na.42 (1986)	海浜変形, 限界水深
千代川河口	Na.75 (1988)	海浜変形, 河口閉塞
琵琶湖	Na.77 (1988)	湖浜変形, 限界水深
下新川海岸	Na.30 (1984)	河原子海岸, 海浜流
	Na.35 (1985)	離岸堤, 現地観測
	Na.41 (1986)	駿河海岸, 海底谷
	Na.45 (1986)	サンドバイパス, 海浜変形
	Na.88 (1989)	海底谷, 土砂流出
	Na.127(1991)	黒部川河口, 海浜変形
糸魚川海岸	Na.121(1991)	人工リーフ, 漂砂特性
大潟海岸	Na.112(1990)	海岸侵食, 海浜変形
新潟海岸	Na.47 (1986)	離岸堤, 沈下対策
	Na.64 (1988)	人工リーフ, 現地実験
	Na.91 (1989)	人工リーフ, 沈下
最上川河口	Na.107(1990)	河口砂州, 砂嘴
秋田沿岸	Na.27 (1984)	日本海中部地震津波, 浸水被害
バリ島	Na.83 (1989)	リーフ, 海浜流
モルディブ	Na.66 (1988)	高潮, 現地調査

[海岸工学論文集] : 内容別分類

《1》海岸調査

1.1 漂砂

- No. 3 (1975) 阿字ヶ浦海岸, 漂砂観測, 蛍光砂調査
- No. 41 (1986) 駿河海岸, 下新川海岸, 海底谷
- No. 52 (1987) 駿河海岸, 海底谷, 蛍光砂調査
- No. 58 (1987) 皆生海岸, 離岸堤, 漂砂観測
- No. 102 (1990) 地形変化の限界水深, 代表波, 確率

1.2 海浜流

- No. 11 (1978) 阿字ヶ浦海岸, 海浜流, 摩擦係数
- No. 13 (1979) 阿字ヶ浦海岸, 海浜流, 現地観測
- No. 22 (1982) 阿字ヶ浦海岸, リモセン, 海浜流
- No. 25 (1983) 阿字ヶ浦海岸, リモセン, 海浜流
- No. 26 (1983) 人工岬, 海浜流, 模型実験
- No. 30 (1984) 河原子海岸, 下新川海岸, 海浜流
- No. 31 (1984) 阿字ヶ浦海岸, 波向, 海浜流
- No. 53 (1987) 阿武隈川河口, 河口砂州, フラッシュ
- No. 65 (1988) 沖縄, リーフ, 海浜流
- No. 83 (1989) バリ島, リーフ, 海浜流
- No. 84 (1989) リーフ, 筋目模様, 数値計算

1.3 リモセン

- No. 12 (1979) 阿字ヶ浦海岸, リモセン, 熱拡散係数
- No. 22 (1982) 阿字ヶ浦海岸, リモセン, 海浜流
- No. 25 (1983) 阿字ヶ浦海岸, リモセン, 海浜流
- No. 32 (1984) 駿河海岸, リモセン, ランドサット
- No. 39 (1985) 駿河海岸, リモセン, ランドサット
- No. 50 (1986) 駿河海岸, リモセン, ランドサット
- No. 63 (1987) 駿河海岸, リモセン, ランドサット
- No. 82 (1988) リモセン, ランドサット, データ補正

《2》波浪 (津波含む)

- No. 6 (1977) 湘南海岸, 長周期波, 現地観測
- No. 27 (1984) 秋田沿岸, 日本海中部地震津波, 浸水被害
- No. 49 (1986) 津波, 離岸堤, 模型実験
- No. 51 (1987) 津波, 数値計算, 模型実験
- No. 66 (1988) モルディブ, 高潮, 現地調査

No.120(1991) 浅水方程式, 数値計算, 波のうちあげ

《3》海浜変形

3.1 河口

- No.40 (1986) 阿武隈川河口, 河口砂州, 海浜変形
- No.53 (1987) 阿武隈川河口, 河口砂州, フラッシュ
- No.74 (1988) 相模川河口, 海浜変形, 河口テラス
- No.75 (1988) 千代川河口, 海浜変形, 河口閉塞
- No.76 (1988) 斐伊川河口, 河口デルタ, 湖浜変形
- No.86 (1989) 阿武隈川河口, 河口テラス, 洪水流
- No.107(1990) 最上川河口, 河口砂州, 砂嘴
- No.111(1990) 能取湖河口, 導流堤, 海浜変形
- No.127(1991) 下新川海岸, 黒部川河口, 海浜変形
- No.128(1991) 富士海岸, 富士川河口, 海浜変形

3.2 砂嘴

- No.33 (1985) 酒沼, 親沢鼻, 砂嘴
- No.107(1990) 最上川河口, 河口砂州, 砂嘴

3.3 砂浜

- No.5 (1976) 阿字ヶ浦海岸, 海浜変形, 現地観測
- No.7 (1977) 阿字ヶ浦海岸, 海浜変形, 現地観測
- No.9 (1978) 人工海浜, 養浜, 海浜変形モデル
- No.10 (1978) 阿字ヶ浦海岸, 海浜変形, 現地観測
- No.15 (1980) 阿字ヶ浦海岸, 前浜勾配, 底質粒径
- No.18 (1981) 大洗海岸, 海浜変形, 汀線変化
- No.20 (1982) 離岸堤, 模型実験, 海浜変形
- No.21 (1982) 人工島, 海浜変形, 汀線変化モデル
- No.23 (1983) 皆生海岸, 海浜変形, 離岸堤
- No.24 (1983) 大洗海岸, 海浜変形, 汀線変化
- No.29 (1984) 駿河海岸, 海浜変形, 沿岸漂砂量
- No.34 (1985) 三沢海岸, 海浜変形, 汀線変化モデル
- No.35 (1985) 下新川海岸, 離岸堤, 現地観測
- No.36 (1985) 高知海岸, 海底掘削, 海浜変形
- No.40 (1986) 阿武隈川河口, 河口砂州, 海浜変形
- No.42 (1986) 鳥取海岸, 海浜変形, 限界水深
- No.43 (1986) 富士海岸, 海浜変形, 汀線変化モデル
- No.44 (1986) 駿河海岸, サンドバイパス, 海浜変形

- No.45 (1986) 下新川海岸, サンドバイパス, 海浜変形
- No.53 (1987) 阿武隈川河口, 河口砂州, フラッシュ
- No.55 (1987) 飯岡海岸, 海岸侵食, 海浜変形
- No.56 (1987) 蒲原海岸, 海岸侵食, 海底谷
- No.57 (1987) 遠州海岸, 浜名湖今切口, 海浜変形
- No.67 (1988) 駿河海岸, 海底谷, 海浜変形
- No.68 (1988) 阿字ヶ浦海岸, 前浜, 海浜変形
- No.69 (1988) 遠州海岸, 福田漁港, 海浜変形
- No.72 (1988) 皆生海岸, 海浜変形, 等深線変化モデル
- No.73 (1988) 鹿島灘沿岸, ヘッドランド, 海浜変形
- No.74 (1988) 相模川河口, 海浜変形, 河口テラス
- No.75 (1988) 千代川河口, 海浜変形, 河口閉塞
- No.85 (1989) 阿字ヶ浦海岸, バーム, 底質粒徑
- No.87 (1989) 模型実験, 波向変動, 海浜変形
- No.88 (1989) 下新川海岸, 海底谷, 土砂流出
- No.106(1990) 大曲海岸, 汀線変化, 海浜変形
- No.110(1990) 高知海岸, 海岸侵食, 沿岸漂砂
- No.112(1990) 大潟海岸, 海岸侵食, 海浜変形
- No.113(1990) 仙台湾沿岸, 海岸侵食, 沿岸漂砂の阻止
- No.114(1990) 東播海岸, 礫養浜, 海浜変形
- No.118(1990) 三沢海岸, 海岸侵食, 汀線変化
- No.122(1991) 日高沿岸, 海浜変形, 沿岸漂砂
- No.123(1991) 駿河海岸, 海岸侵食, 土砂収支
- No.124(1991) 標津海岸, 海岸侵食, 汀線変化
- No.125(1991) 東播海岸, 礫養浜, 現地実験
- No.126(1991) サロマ湖湖口, 海浜変形, 入退潮流
- No.127(1991) 下新川海岸, 黒部川河口, 海浜変形
- No.128(1991) 富士海岸, 富士川河口, 海浜変形
- No.129(1991) 阿字ヶ浦海岸, 海浜変形, 線形応答

3.4 湖浜

- No.76 (1988) 斐伊川河口, 河口デルタ, 湖浜変形
- No.77 (1988) 琵琶湖, 湖浜変形, 限界水深
- No.78 (1988) 霞ヶ浦, 湖浜変形, 限界水深

《4》海岸構造物

4.1 突堤

No.60 (1987) 駿河海岸, 突堤, 養浜

4.2 離岸堤・消波堤

No.1 (1974) 海浜流, 離岸堤, 数値計算

No.19 (1981) 経験的海浜変形モデル, 離岸堤, 模型実験

No.20 (1982) 離岸堤, 模型実験, 海浜変形

No.23 (1983) 皆生海岸, 海浜変形, 離岸堤

No.35 (1985) 下新川海岸, 離岸堤, 現地観測

No.38 (1985) 富士海岸, 離岸堤, ブロック散乱

No.46 (1986) 離岸堤, ブロック散乱, 全国実態

No.47 (1986) 新潟海岸, 離岸堤, 沈下対策

No.48 (1986) 離岸堤, 消波効果, 堆砂効果

No.49 (1986) 津波, 離岸堤, 模型実験

No.58 (1987) 皆生海岸, 離岸堤, 漂砂観測

No.70 (1988) 離岸堤, 人工岬, 模型実験

4.3 人工リーフ

No.28 (1984) 人工リーフ, 模型実験, 消波効果

No.54 (1987) 人工リーフ, 海浜流, 海浜変形

No.64 (1988) 新潟海岸, 人工リーフ, 現地実験

No.71 (1988) 人工リーフ, 模型実験, 沿岸砂州

No.91 (1989) 新潟海岸, 人工リーフ, 沈下

No.98 (1989) 人工リーフ, 被覆材, 所要重量

No.109(1990) 人工リーフ, 養浜, 模型実験

No.115(1990) 糸魚川海岸, 人工リーフ, 消波効果

No.121(1991) 糸魚川海岸, 人工リーフ, 漂砂特性

4.4 ヘッドランド(人工岬)

No.26 (1983) 人工岬, 海浜流, 模型実験

No.70 (1988) 離岸堤, 人工岬, 模型実験

No.73 (1988) 鹿島灘沿岸, ヘッドランド, 海浜変形

No.92 (1989) 湘南海岸, ヘッドランド, 模型実験

4.5 養浜・サンドバイパス

No.37 (1985) サンドバイパス, 養浜, 模型実験

No.44 (1986) 駿河海岸, サンドバイパス, 海浜変形

No.45 (1986) 下新川海岸, サンドバイパス, 海浜変形

No.60 (1987) 駿河海岸, 突堤, 養浜

No.93 (1989) 飯岡海岸, サンドバイパス, 現地実験

No.100(1990) 青森海岸, 磯養浜, うちあげ高

No.109(1990) 人工リーフ, 養浜, 模型実験

No.114(1990) 東播海岸, 礫養浜, 海浜変形

No.125(1991) 東播海岸, 礫養浜, 現地実験

4.6 緩傾斜堤

No.99 (1989) 緩傾斜堤, 設計手法, 手引き書

No.134(1991) 緩傾斜堤, 安定性, 全国調査

No.135(1991) 緩傾斜堤, 被災構造, 模型実験

4.7 海域制御構造物

No.61 (1987) 海域制御構造物, 消波効果, 模型実験

No.62 (1987) 海域制御構造物, フレキシブルマウンド, 消波効果

No.79 (1988) 海域制御構造物, 斜板消波潜堤, 模型実験

No.80 (1988) 海域制御構造物, スリット, 消波効果

No.81 (1988) 海域制御構造物, フレキシブルマウンド, 消波機能

No.89 (1989) 駿河海岸, 有脚式離岸堤, 洗掘

No.90 (1989) 海域制御構造物, 斜板消波潜堤, 洗掘

No.94 (1989) 海域制御構造物, スリット, 波力

No.95 (1989) 海域制御構造物, スリット, 砕波力

No.96 (1989) 海域制御構造物, フレキシブルマウンド, 波力

No.97 (1989) 海域制御構造物, 透過式消波構造物, 波力

No.108(1990) 海域制御構造物, スリット, 洗掘

No.116(1990) 海域制御構造物, サーフ, 静穏域

No.117(1990) 海域制御構造物, 斜板堤, 波力

No.131(1991) 海域制御構造物, 斜板消波潜堤, 海浜変形

No.132(1991) 海域制御構造物, スリット, 洗掘

No.133(1991) 海域制御構造物, 中詰式, ブロック荷重

No.136(1991) 海域制御構造物, サーフ, 揚圧力

《5》海岸環境

No.119(1990) 海岸環境, 明るさ, 地表反射照度

No.137(1991) 海岸の雰囲気, 利用形態, 全国アンケート

No.138(1991) マリンスポーツ, 自然条件, アンケート調査

《6》数値モデル

6.1 汀線変化モデル

No.21 (1982) 人工島, 海浜変形, 数値計算

No.34 (1985) 三沢海岸, 海浜変形, 汀線変化モデル

№43 (1986) 富士海岸, 海浜変形, 汀線変化モデル

6.2 経験的海浜変形モデル

№9 (1978) 人工海浜, 養浜, 海浜変形モデル

№14 (1979) 三沢海岸, 経験的海浜変形モデル, 海浜変形

№16 (1980) 模型実験, 経験的海浜変形モデル, 海浜変形

№19 (1981) 経験的海浜変形モデル, 離岸堤, 模型実験

6.3 等深線変化モデル

№72 (1988) 皆生海岸, 海浜変形, 等深線変化モデル

№103 (1990) 等深線変化モデル, 模型実験, 数値計算

№130 (1991) 等深線変化モデル, 模型実験, 数値計算

6.4 海浜流モデル

№1 (1974) 海浜流, 離岸堤, 数値計算

№84 (1989) リーフ, 筋目模様, 数値計算

№101 (1990) リーフ, 海浜流, 数値計算

6.5 潮流・津波モデル

№2 (1975) 東京湾, 二層潮流, 数値計算

№8 (1977) 潮流, 模型実験, 数値計算

№51 (1987) 津波, 数値計算, 模型実験

《7》その他

№4 (1976) 阿字ヶ浦海岸, 橋脚, 局所洗掘

№17 (1980) 阿字ヶ浦海岸, 橋脚, 局所洗掘

№59 (1987) 涸沼, アーマーコート, 模型実験

№104 (1990) 岩石海岸, ウェッジアクション, 模型実験

№105 (1990) 五浦海岸, 海食崖, 岩石特性

〔海岸工学論文集〕：発行年別分類

- No. 1 (1974) 海浜流, 離岸堤, 数値計算
- No. 2 (1975) 東京湾, 二層潮流, 数値計算
- No. 3 (1975) 阿字ヶ浦海岸, 漂砂観測, 蛍光砂調査
- No. 4 (1976) 阿字ヶ浦海岸, 橋脚, 局所洗掘
- No. 5 (1976) 阿字ヶ浦海岸, 海浜変形, 現地観測
- No. 6 (1977) 湘南海岸, 長周期波, 現地観測
- No. 7 (1977) 阿字ヶ浦海岸, 海浜変形, 現地観測
- No. 8 (1977) 潮流, 模型実験, 数値計算
- No. 9 (1978) 人工海浜, 養浜, 海浜変形モデル
- No. 10 (1978) 阿字ヶ浦海岸, 海浜変形, 現地観測
- No. 11 (1978) 阿字ヶ浦海岸, 海浜流, 摩擦係数
- No. 12 (1979) 阿字ヶ浦海岸, リモセン, 熱拡散係数
- No. 13 (1979) 阿字ヶ浦海岸, 海浜流, 現地観測
- No. 14 (1979) 三沢海岸, 経験的海浜変形モデル, 海浜変形
- No. 15 (1980) 阿字ヶ浦海岸, 前浜勾配, 底質粒径
- No. 16 (1980) 模型実験, 経験的海浜変形モデル, 海浜変形
- No. 17 (1980) 阿字ヶ浦海岸, 橋脚, 局所洗掘
- No. 18 (1981) 大洗海岸, 海浜変形, 汀線変化
- No. 19 (1981) 経験的海浜変形モデル, 離岸堤, 模型実験
- No. 20 (1982) 離岸堤, 模型実験, 海浜変形
- No. 21 (1982) 人工島, 海浜変形, 汀線変化モデル
- No. 22 (1982) 阿字ヶ浦海岸, リモセン, 海浜流
- No. 23 (1983) 笠生海岸, 海浜変形, 離岸堤
- No. 24 (1983) 大洗海岸, 海浜変形, 汀線変化
- No. 25 (1983) 阿字ヶ浦海岸, リモセン, 海浜流
- No. 26 (1983) 人工岬, 海浜流, 模型実験
- No. 27 (1984) 秋田沿岸, 日本海中部地震津波, 浸水被害
- No. 28 (1984) 人工リーフ, 模型実験, 消波効果
- No. 29 (1984) 駿河海岸, 海浜変形, 沿岸漂砂量
- No. 30 (1984) 河原子海岸, 下新川海岸, 海浜流
- No. 31 (1984) 阿字ヶ浦海岸, 波向, 海浜流
- No. 32 (1984) 駿河海岸, リモセン, ランドサット
- No. 33 (1985) 瀬沼, 親沢鼻, 砂嘴
- No. 34 (1985) 三沢海岸, 海浜変形, 汀線変化モデル
- No. 35 (1985) 下新川海岸, 離岸堤, 現地観測

- №36 (1985) 高知海岸, 海底掘削, 海浜変形
- №37 (1985) サンドバイパス, 養浜, 模型実験
- №38 (1985) 富士海岸, 離岸堤, ブロック散乱
- №39 (1985) 駿河海岸, リモセン, ランドサット
- №40 (1986) 阿武隈川河口, 河口砂州, 海浜変形
- №41 (1986) 駿河海岸, 下新川海岸, 海底谷
- №42 (1986) 鳥取海岸, 海浜変形, 限界水深
- №43 (1986) 富士海岸, 海浜変形, 汀線変化モデル
- №44 (1986) 駿河海岸, サンドバイパス, 海浜変形
- №45 (1986) 下新川海岸, サンドバイパス, 海浜変形
- №46 (1986) 離岸堤, ブロック散乱, 全国実態
- №47 (1986) 新潟海岸, 離岸堤, 沈下対策
- №48 (1986) 離岸堤, 消波効果, 堆砂効果
- №49 (1986) 津波, 離岸堤, 模型実験
- №50 (1986) 駿河海岸, リモセン, ランドサット
- №51 (1987) 津波, 数値計算, 模型実験
- №52 (1987) 駿河海岸, 海底谷, 蛍光砂調査
- №53 (1987) 阿武隈川河口, 河口砂州, フラッシュ
- №54 (1987) 人工リーフ, 海浜流, 海浜変形
- №55 (1987) 飯岡海岸, 海岸侵食, 海浜変形
- №56 (1987) 蒲原海岸, 海岸侵食, 海底谷
- №57 (1987) 遠州海岸, 浜名湖今切口, 海浜変形
- №58 (1987) 皆生海岸, 離岸堤, 漂砂観測
- №59 (1987) 渦沼, アーマーコート, 模型実験
- №60 (1987) 駿河海岸, 突堤, 養浜
- №61 (1987) 海域制御構造物, 消波効果, 模型実験
- №62 (1987) 海域制御構造物, フレキシブルマウンド, 消波効果
- №63 (1987) 駿河海岸, リモセン, ランドサット
- №64 (1988) 新潟海岸, 人工リーフ, 現地実験
- №65 (1988) 沖縄, リーフ, 海浜流
- №66 (1988) モルディブ, 高潮, 現地調査
- №67 (1988) 駿河海岸, 海底谷, 海浜変形
- №68 (1988) 阿字ヶ浦海岸, 前浜, 海浜変形
- №69 (1988) 遠州海岸, 福田漁港, 海浜変形
- №70 (1988) 離岸堤, 人工岬, 模型実験
- №71 (1988) 人工リーフ, 模型実験, 沿岸砂州

- Na.72 (1988) 皆生海岸, 海浜変形, 等深線変化モデル
- Na.73 (1988) 鹿島灘沿岸, ヘッドランド, 海浜変形
- Na.74 (1988) 相模川河口, 海浜変形, 河口テラス
- Na.75 (1988) 千代川河口, 海浜変形, 河口閉塞
- Na.76 (1988) 斐伊川河口, 河口デルタ, 湖浜変形
- Na.77 (1988) 琵琶湖, 湖浜変形, 限界水深
- Na.78 (1988) 霞ヶ浦, 湖浜変形, 限界水深
- Na.79 (1988) 海域制御構造物, 斜板消波潜堤, 模型実験
- Na.80 (1988) 海域制御構造物, スリット, 消波効果
- Na.81 (1988) 海域制御構造物, フレキシブルマウンド, 消波機能
- Na.82 (1988) リモセン, ランドサット, データ補正
- Na.83 (1989) バリ島, リーフ, 海浜流
- Na.84 (1989) リーフ, 筋目模様, 数値計算
- Na.85 (1989) 阿字ヶ浦海岸, バーム, 底質粒径
- Na.86 (1989) 阿武隈川河口, 河口テラス, 洪水流
- Na.87 (1989) 模型実験, 波向変動, 海浜変形
- Na.88 (1989) 下新川海岸, 海底谷, 土砂流出
- Na.89 (1989) 駿河海岸, 有脚式離岸堤, 洗掘
- Na.90 (1989) 海域制御構造物, 斜板消波潜堤, 洗掘
- Na.91 (1989) 新潟海岸, 人工リーフ, 沈下
- Na.92 (1989) 湘南海岸, ヘッドランド, 模型実験
- Na.93 (1989) 飯岡海岸, サンドバイパス, 現地実験
- Na.94 (1989) 海域制御構造物, スリット, 波力
- Na.95 (1989) 海域制御構造物, スリット, 砕波力
- Na.96 (1989) 海域制御構造物, フレキシブルマウンド, 波力
- Na.97 (1989) 海域制御構造物, 透過式消波構造物, 波力
- Na.98 (1989) 人工リーフ, 被覆材, 所要重量
- Na.99 (1989) 緩傾斜堤, 設計手法, 手引き書
- Na.100 (1990) 青森海岸, 礫養浜, うちあげ高
- Na.101 (1990) リーフ, 海浜流, 数値計算
- Na.102 (1990) 地形変化の限界水深, 代表波, 確率
- Na.103 (1990) 等深線変化モデル, 模型実験, 数値計算
- Na.104 (1990) 岩石海岸, ウェッジアクション, 模型実験
- Na.105 (1990) 五浦海岸, 海食崖, 岩石特性
- Na.106 (1990) 大曲海岸, 汀線変化, 海浜変形
- Na.107 (1990) 最上川河口, 河口砂州, 砂嘴

- Na.108(1990) 海域制御構造物, スリット, 洗掘
- Na.109(1990) 人工リーフ, 養浜, 模型実験
- Na.110(1990) 高知海岸, 海岸侵食, 沿岸漂砂
- Na.111(1990) 能取湖湖口, 導流堤, 海浜変形
- Na.112(1990) 大潟海岸, 海岸侵食, 海浜変形
- Na.113(1990) 仙台湾沿岸, 海岸侵食, 沿岸漂砂の阻止
- Na.114(1990) 東播海岸, 礫養浜, 海浜変形
- Na.115(1990) 糸魚川海岸, 人工リーフ, 消波効果
- Na.116(1990) 海域制御構造物, サーフ, 静穏域
- Na.117(1990) 海域制御構造物, 斜板堤, 波力
- Na.118(1990) 三沢海岸, 海岸侵食, 汀線変化
- Na.119(1990) 海岸環境, 明るさ, 地表反射照度
- Na.120(1991) 浅水方程式, 数値計算, 波のうちあげ
- Na.121(1991) 糸魚川海岸, 人工リーフ, 漂砂特性
- Na.122(1991) 日高沿岸, 海浜変形, 沿岸漂砂
- Na.123(1991) 駿河海岸, 海岸侵食, 土砂収支
- Na.124(1991) 標津海岸, 海岸侵食, 汀線変化
- Na.125(1991) 東播海岸, 礫養浜, 現地実験
- Na.126(1991) サロマ湖湖口, 海浜変形, 入退潮流
- Na.127(1991) 下新川海岸, 黒部川河口, 海浜変形
- Na.128(1991) 富士海岸, 富士川河口, 海浜変形
- Na.129(1991) 阿字ヶ浦海岸, 海浜変形, 線形応答
- Na.130(1991) 等深線変化モデル, 模型実験, 数値計算
- Na.131(1991) 海域制御構造物, 斜板消波潜堤, 海浜変形
- Na.132(1991) 海域制御構造物, スリット, 洗掘
- Na.133(1991) 海域制御構造物, 中詰式, ブロック荷重
- Na.134(1991) 緩傾斜堤, 安定性, 全国調査
- Na.135(1991) 緩傾斜堤, 被災構造, 模型実験
- Na.136(1991) 海域制御構造物, サーフ, 揚圧力
- Na.137(1991) 海岸の雰囲気, 利用形態, 全国アンケート
- Na.138(1991) マリンスポーツ, 自然条件, アンケート調査

[海岸工学論文集] : 発行論文

- 1) 橋本 宏・宇多高明(1974):海浜流の数値計算法とその応用, 第21回海岸工学講演会論文集, pp. 355-360.
- 2) 橋本 宏・宇多高明(1975):二層潮流の計算法, 第22回海岸工学講演会論文集, pp. 155-160.
- 3) 橋本 宏・宇多高明(1975):蛍光砂を用いた漂砂の現地観測, 第22回海岸工学講演会論文集, pp. 335-338.
- 4) 堀田新太郎・宇多高明・佐々木民雄(1976):砕波帯内の橋脚周辺の洗掘地形の現地観測, 第23回海岸工学講演会論文集, pp. 240-244.
- 5) 橋本 宏・宇多高明(1976):阿字ヶ浦における海浜過程(第1報), 第23回海岸工学講演会論文集, pp. 245-249.
- 6) 橋本 宏・山口 修・宇多高明・高木守夫(1977):平塚海岸における長周期波の現地観測, 第24回海岸工学講演会論文集, pp. 127-131.
- 7) 橋本 宏・宇多高明(1977):阿字ヶ浦における海浜過程(第2報), 第24回海岸工学講演会論文集, pp. 216-220.
- 8) 橋本 宏・宇多高明(1977):潮流の再現性に関する研究, 第24回海岸工学講演会論文集, pp. 567-571.
- 9) 田中常義・野呂清司・末広忠雄・宇多高明(1978):海浜変形モデルの人工海浜計画への応用, 第25回海岸工学講演会論文集, pp. 213-217.
- 10) 橋本 宏・宇多高明(1978):阿字ヶ浦における海浜過程(第3報), 第25回海岸工学講演会論文集, pp. 269-273.
- 11) 橋本 宏・宇多高明(1978):海浜流と摩擦係数の現地観測, 第25回海岸工学講演会論文集, pp. 435-439.
- 12) 橋本 宏・宇多高明・田中邦一(1979):熱映像による砕波帯の熱拡散係数の測定法, 第26回海岸工学講演会論文集, pp. 119-123.
- 13) 橋本 宏・宇多高明(1979):砕波帯における波浪・海浜流・潮汐・地形の相互関連について, 第26回海岸工学講演会論文集, pp. 157-161.
- 14) 橋本 宏・宇多高明(1979):経験的海浜変形モデルの小川原湖海岸への適用, 第26回海岸工学講演会論文集, pp. 215-219.
- 15) 橋本 宏・宇多高明(1980):前浜勾配, 粒径および波高の動的関係について, 第27回海岸工学講演会論文集, pp. 221-225.
- 16) 橋本 宏・宇多高明(1980):経験的海浜変形モデルの移動床実験への適用, 第27回海岸工学講演会論文集, pp. 250-254.
- 17) 橋本 宏・宇多高明・竹淵 勉(1980):砕波帯における橋脚の洗掘特性, 第27回海岸工学講演会論文集, pp. 265-269.
- 18) 針貝聡一・宇多高明・鶴川義郎(1981):大洗海岸における地形変化の観測, 第28回海岸工学講演会論文集, pp. 271-275.

- 19) 橋本 宏・宇多高明・竹渕 勉(1981): 経験的海浜変形モデルによる構造物周辺の地形変化予測, 第28回海岸工学講演会論文集, pp. 300-304.
- 20) 橋本 宏・宇多高明・竹渕 勉(1982): 離岸堤周辺の海浜地形変化と沿岸漂砂量の岸沖分布について, 第29回海岸工学講演会論文集, pp. 284-288.
- 21) 宇多高明(1982): 砂でできた人工島の変形予測, 第29回海岸工学講演会論文集, pp. 289-293.
- 22) 橋本 宏・宇多高明・新行内利隆(1982): リモートセンシングによる海浜流循環の観測, 第29回海岸工学講演会論文集, pp. 351-355.
- 23) 石橋正穂・宇多高明・岸田正人・清水生一(1983): 皆生海岸における海浜地形変化の解析, 第30回海岸工学講演会論文集, pp. 234-238.
- 24) 堀川清司・宇多高明・針貝聡一・久保田 進(1983): 構造物周辺の地形変化の観測, 第30回海岸工学講演会論文集, pp. 259-263.
- 25) 宇多高明・竹渕 勉・橋本 宏(1983): リモートセンシングによる海浜流と波向の観測, 第30回海岸工学講演会論文集, pp. 475-479.
- 26) 宇多高明・山本幸次・橋本 宏(1983): 人工岬に波が斜め入射するときの海浜循環流, 第30回海岸工学講演会論文集, pp. 490-494.
- 27) 小笠原道夫・宇多高明・川村 徹(1984): 日本海中部地震津波による河口および家屋密集地域の浸水被害, 第31回海岸工学講演会論文集, pp. 262-266.
- 28) 宇多高明・田中茂信・筒井保博(1984): 人工リーフによる波浪と漂砂の制御, 第31回海岸工学講演会論文集, pp. 340-344.
- 29) 武内達夫・宇多高明・中島秀樹・青山春男(1984): 駿河海岸における海浜地形変化の解析, 第31回海岸工学講演会論文集, pp. 360-364.
- 30) 宇多高明・古川博一・神田康嗣(1984): 離岸堤および岬周辺における海浜流の現地観測, 第31回海岸工学講演会論文集, pp. 416-420.
- 31) 宇多高明(1984): 波向・海浜流の長期・短期観測データの比較, 第31回海岸工学講演会論文集, pp. 421-425.
- 32) 宇多高明・古川博一・竹渕 勉(1984): ランドサット・航空機・船の同時観測による沿岸海域特性の把握, 第31回海岸工学講演会論文集, pp. 690-694.
- 33) 宇多高明・山本幸次(1985): 瀬沼親沢鼻の変形過程について, 第32回海岸工学講演会論文集, pp. 370-374.
- 34) 斉藤晴雄・宇多高明・網田政芳・沢田善治・林 秀治(1985): 小川原湖海岸の海岸侵食とその予測, 第32回海岸工学講演会論文集, pp. 380-384.
- 35) 須山 洋・宇多高明・吉村敏明・若田茂和(1985): 副離岸堤周辺の波, 流れ, 地形変化の観測, 第32回海岸工学講演会論文集, pp. 405-409.
- 36) 宇多高明・上森千秋・中條徳翁(1985): 海底掘削にともなう海底変形, 第32回海岸工学講演会論文集, pp. 410-414.
- 37) 宇多高明・小俣 篤・山本幸次(1985): サンドバイパスにおける投入砂の流出制御, 第32回海岸

工学講演会論文集, pp. 415-419.

- 38) 河野 宏・宇多高明・藪崎義之・水野益宏(1985): 離岸堤, 消波堤の異形ブロックの散乱実態, 第32回海岸工学講演会論文集, pp. 475-479.
- 39) 宇多高明・古川博一・竹渕 勉(1985): ランドサットによる沿岸水理の観測, 第32回海岸工学講演会論文集, pp. 772-776.
- 40) 野村和正・宇多高明・因幡昭義・宮内利夫(1986): 阿武隈川河口砂州の変形について, 第33回海岸工学講演会論文集, pp. 267-271.
- 41) 宇多高明・小俣 篤・堤 博志・吉村敏明(1986): 深海への土砂流出実態の現地調査, 第33回海岸工学講演会論文集, pp. 277-281.
- 42) 宇多高明・岡村 真・西村洋人(1986): 鳥取海岸の沖合部における地形変化, 第33回海岸工学講演会論文集, pp. 282-286.
- 43) 河野 宏・宇多高明・藪崎義之・水野益宏(1986): 富士海岸の侵食実態と地形変化予測, 第33回海岸工学講演会論文集, pp. 287-291.
- 44) 滝澤俊二・宇多高明・堤 博志・中山 修(1986): 駿河海岸におけるサンドバイパスの現地実験, 第33回海岸工学講演会論文集, pp. 302-306.
- 45) 須山 洋・宇多高明・吉村敏明・若田茂和・中山 修(1986): 離岸堤背後への土砂投入による海浜変形, 第33回海岸工学講演会論文集, pp. 307-311.
- 46) 宇多高明・藪崎義之・村上由高・水野益宏(1986): 離岸堤の異形ブロック散乱の全国実態, 第33回海岸工学講演会論文集, pp. 417-421.
- 47) 糖沢宏二・宇多高明・宮崎光弘(1986): 離岸堤の沈下対策に関する現地実験, 第33回海岸工学講演会論文集, pp. 422-426.
- 48) 清治真人・田中茂信・宇多高明(1986): 離岸堤の効果と安定性, 第33回海岸工学講演会論文集, pp. 432-436.
- 49) 宇多高明・小俣 篤・横山揚久(1986): 離岸堤の津波遡上抑制効果, 第33回海岸工学講演会論文集, pp. 461-465.
- 50) 宇多高明・村井禎美・竹渕 勉(1986): ランドサットによる沿岸流況調査, 第33回海岸工学講演会論文集, pp. 591-595.
- 51) 宇多高明・小俣 篤・横山揚久・山本 滋(1987): 津波遡上の数値計算と実験との比較, 第34回海岸工学講演会論文集, pp. 197-201.
- 52) 宇多高明・堤 博志・小俣 篤・酒井佳治(1987): 海底谷への土砂移動の現地観測, 第34回海岸工学講演会論文集, pp. 307-311.
- 53) 佐々木隆士・宇多高明・刀爾 賢・菅原信雄・海野 仁(1987): 洪水流による河口砂州のフラッシュの観測, 第34回海岸工学講演会論文集, pp. 327-331.
- 54) 宇多高明・小俣 篤・横山揚久(1987): 人工リーフ周辺に生ずる海浜流と地形変化, 第34回海岸工学講演会論文集, pp. 337-341.
- 55) 宇多高明・桜本 弘・久保田 進(1987): 千葉県飯岡海岸の海岸侵食について, 第34回海岸工学

講演会論文集, pp. 342-346.

- 56) 滝澤俊二・宇多高明・堤 博志・大長良昭(1987): 蒲原海岸の海岸侵食実態, 第34回海岸工学講演会論文集, pp. 347-351.
- 57) 富谷 雄・宇多高明・酒井佳治・山本武司(1987): 浜名湖今切口導流堤周りの海浜変形, 第34回海岸工学講演会論文集, pp. 367-371.
- 58) 梶 太郎・宇多高明・陶山幸夫・中村正敏(1987): 離岸堤周りの海浜流と漂砂の現地観測, 第34回海岸工学講演会論文集, pp. 382-386.
- 59) 宇多高明・酒井佳治・竹淵 勉(1987): アーマーコートによる安定海浜の形成, 第34回海岸工学講演会論文集, pp. 421-425.
- 60) 滝澤俊二・宇多高明・渋谷輝敏・筒井保博(1987): 短突堤群による投入土砂の流出制御, 第34回海岸工学講演会論文集, pp. 426-430.
- 61) 宇多高明・村井禎美・松尾和男・藤原隆一(1987): 透過性消波構造物の消波効果から見た分類, 第34回海岸工学講演会論文集, pp. 441-446.
- 62) 田中正博・三俣正和・大山 巧・清川哲志・宇多高明・村井禎美(1987): フレキシブルマウンドによる透過・反射特性の実験的検討, 第34回海岸工学講演会論文集, pp. 492-496.
- 63) 宇多高明・村井禎美・竹淵 勉(1987): ランドサットによる沿岸海域調査における有効データの取得確率, 第34回海岸工学講演会論文集, pp. 690-694.
- 64) 浜口達男・宇多高明・井上 力・五十嵐 晃・中山 修(1988): 人工リーフの波浪制御効果に関する現地実験, 第35回海岸工学講演会論文集, pp. 128-132.
- 65) 谷本修志・中野泰雄・大月和義・宇多高明・小俣 篤(1988): 沖縄県仲泊地区のリーフ周辺での波と流れの観測, 第35回海岸工学講演会論文集, pp. 207-211.
- 66) 宇多高明(1988): モルディブにおける高潮災害の現地調査, 第35回海岸工学講演会論文集, pp. 212-216.
- 67) 宇多高明・堤 博志・小俣 篤・酒井佳治(1988): 海底谷周辺での土砂移動の機構, 第35回海岸工学講演会論文集, pp. 327-331.
- 68) 宇多高明・小俣 篤・竹淵 勉(1988): 波による前浜地変化の支配要因, 第35回海岸工学講演会論文集, pp. 337-341.
- 69) 富谷 雄・宇多高明・山本武司(1988): 遠州海岸, 福田漁港周辺の海浜変形, 第35回海岸工学講演会論文集, pp. 382-386.
- 70) 宇多高明・小俣 篤・横山揚久(1988): 離岸堤による人工岬の形成手法, 第35回海岸工学講演会論文集, pp. 422-426.
- 71) 宇多高明・小俣 篤・横山揚久(1988): 沿岸砂州を模倣した人工リーフの海浜安定化効果, 第35回海岸工学講演会論文集, pp. 427-431.
- 72) 宇多高明・陶山幸夫・中村正敏・富士川洋一(1988): 皆生海岸の沖合部における地形変化とその予測, 第35回海岸工学講演会論文集, pp. 432-436.
- 73) 住谷勉夫・園部武正・宇多高明・伊藤 隆・猿田正則・横田喜一郎(1988): 鹿島灘沿岸における

ヘッドランドの建設による海浜の安定化, 第35回海岸工学講演会論文集, pp. 437-441.

- 74) 藤井友竝・宇多高明・綿貫布征・鴨下山男・木村慎二(1988): 相模川河口部の地形変化実態, 第35回海岸工学講演会論文集, pp. 447-451.
- 75) 宇多高明・福井次郎・笠原章之(1988): 千代川河口における波と流れによるダイナミックな地形変化の観測, 第35回海岸工学講演会論文集, pp. 452-456.
- 76) 福成孝三・宇多高明・山根武紀・新高庸介・酒井佳治(1988): 斐伊川河口におけるデルタ地形の発達過程, 第35回海岸工学講演会論文集, pp. 457-461.
- 77) 安川 歩・宇多高明・田村徳郎・加本 実・富士川洋一(1988): 琵琶湖における風波による湖浜変形の実態, 第35回海岸工学講演会論文集, pp. 472-476.
- 78) 宇多高明・赤穂俊作・大谷靖郎(1988): 湖浜地形変化から見た霞ヶ浦全域の漂砂特性, 第35回海岸工学講演会論文集, pp. 477-481.
- 79) 小山文男・清水正巳・中塚健司・宇多高明・村井禎美(1988): 斜板を有する新型潜堤(SURF)の開発, 第35回海岸工学講演会論文集, pp. 512-516.
- 80) 萩原運弘・藤原隆男・宇多高明(1988): スリット型海域制御構造物の透過率, 反射率および全波力の解析, 第35回海岸工学講演会論文集, pp. 532-536.
- 81) 大山 巧・田中正博・清川哲志・宇多高明・村井禎美(1988): フレキシブルマウンドの反射・透過特性の解析, 第35回海岸工学講演会論文集, pp. 562-566.
- 82) 宇多高明・村井禎美・竹淵 勉(1988): 海域調査における衛星リモセンデータの実用的補正法, 第35回海岸工学講演会論文集, pp. 787-791.
- 83) 谷本修志・宇多高明・桜本 弘(1989): バリ島のリーフ周りの波, 流れ, 地形変化の観測, 海岸工学論文集, 第36巻, pp. 60-64.
- 84) 谷本修志・宇多高明・高木利光(1989): リーフの筋目模様から予見された流れの数値計算による検証, 海岸工学論文集, 第36巻, pp. 229-233.
- 85) 宇多高明・小俣 篤・竹淵 勉(1989): 前浜における底質粒径の時空間変化とバームの形成機構, 海岸工学論文集, 第36巻, pp. 359-363.
- 86) 竹内俊夫・宇多高明・小野田章男・佐藤隆志(1989): 洪水流によって形成された阿武隈川河口前面テラスの変形実態, 海岸工学論文集, 第36巻, pp. 364-368.
- 87) 宇多高明・坂野 章(1989): 波向が周期的に変化する場における海浜地形変化, 海岸工学論文集, 第36巻, pp. 369-373.
- 88) 宇多高明・中田定男・小俣 篤(1989): 下新川海岸における深海への土砂流出実態, 海岸工学論文集, 第36巻, pp. 374-378.
- 89) 宇多高明・中村瑛佳・村井禎美・松永博史(1989): 有脚式離岸堤周りの初期洗掘の現地観測, 海岸工学論文集, 第36巻, pp. 409-413.
- 90) 上野成三・小山文男・石野和夫・宇多高明・村井禎美(1989): 斜板消波堤(SURF)のマウンド内の浸透流場と洗掘特性について, 海岸工学論文集, 第36巻, pp. 424-428.
- 91) 浜口達男・宇多高明・市ノ瀬栄彦・五十嵐 晃(1989): 新潟海岸の人工リーフの沈下実態調査

海岸工学論文集, 第36巻, pp. 434-438.

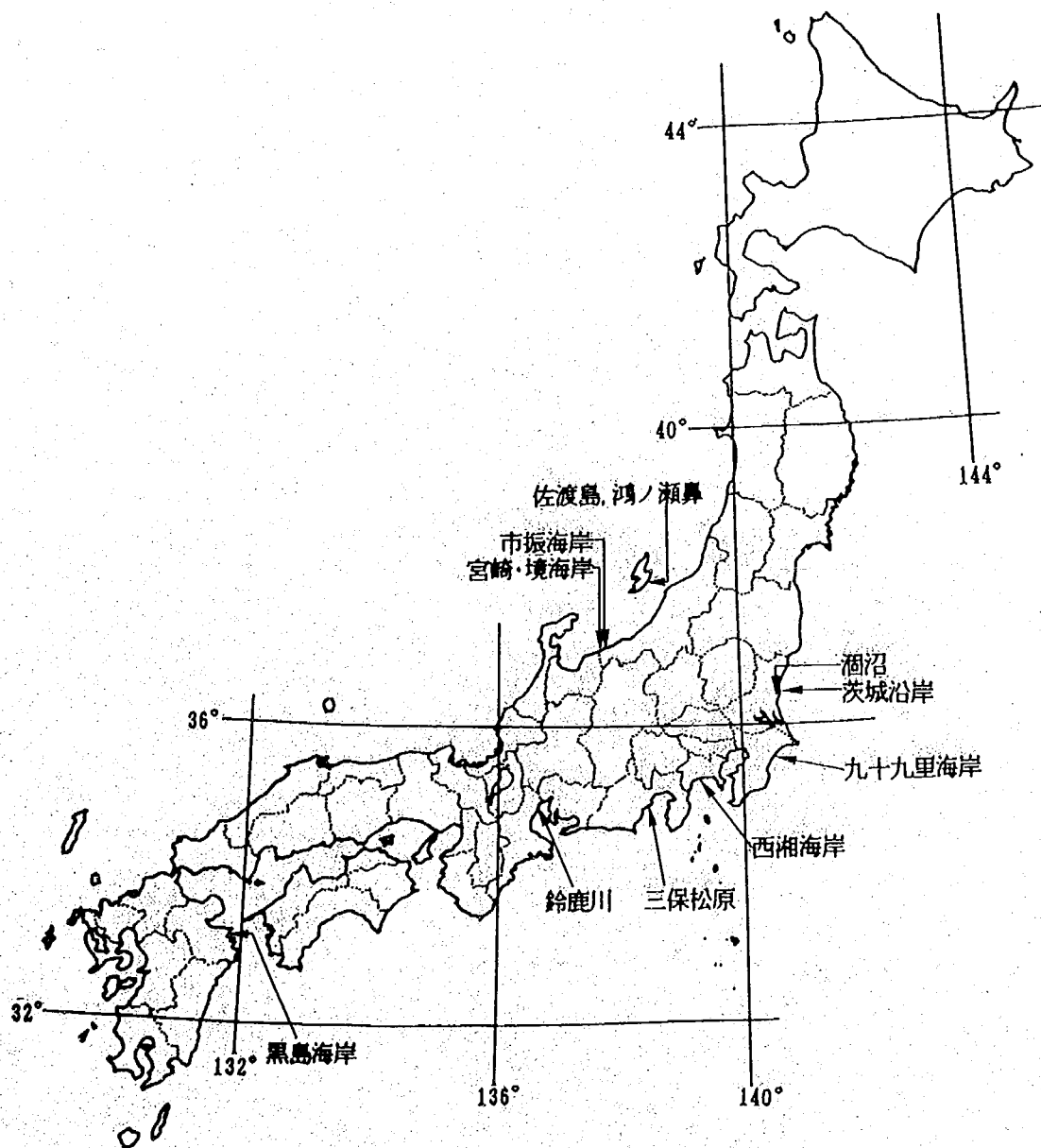
- 92) 佐々木大造・日吉 功・宇多高明・中山 修(1989): 大規模ヘッドランドの形成手法に関する実験的検討, 海岸工学論文集, 第36巻, pp. 454-458.
- 93) 内藤公夫・宇多高明・山田 尚・神田康嗣(1989): 飯岡海岸沖におけるサンドバイパスの現地実験, 海岸工学論文集, 第36巻, pp. 459-463.
- 94) 宇多高明・村井禎美・館 克彦(1989): スリット式構造物に作用する波力の特性, 海岸工学論文集, 第36巻, pp. 504-508.
- 95) 萩原運弘・藤原隆男・宇多高明・村井禎美(1989): スリット型海域制御構造物の碎波力特性と設計波力, 海岸工学論文集, 第36巻, pp. 514-518.
- 96) 田中正博・大山 巧・清川哲志・宇多高明・村井禎美(1989): フレキシブルマウンドに作用する波力, 海岸工学論文集, 第36巻, pp. 554-558.
- 97) 国栖広志・近藤浩右・清水正巳・宇多高明・村井禎美(1989): 透過式消波構造物の波力特性に関する実験的研究, 海岸工学論文集, 第36巻, pp. 569-574.
- 98) 宇多高明・小俣 篤・横山揚久(1989): 人工リーフの被覆材料の所要重量算定法, 海岸工学論文集, 第36巻, pp. 648-652.
- 99) 青木東雄・芦田義則・森 吉尚・宇多高明・小俣 篤(1989): 緩傾斜堤の設計手法について, 海岸工学論文集, 第36巻, pp. 658-662.
- 100) 村岡憲司・宇多高明・渥美雅裕(1990): 青森海岸における礫養浜および雑石斜面のうちあげ高・飛沫に関する現地実験, 海岸工学論文集, 第37巻, pp. 76-80.
- 101) 宇多高明・谷本修志・坂野 章・高木利光(1990): リーフ上およびリーフギャップ周辺におけるサンゴ砂の移動機構, 海岸工学論文集, 第37巻, pp. 215-219.
- 102) 宇多高明(1990): 波による移動限界水深を定める代表波について, 海岸工学論文集, 第37巻, pp. 294-298.
- 103) 宇多高明・山本幸次・河野茂樹(1990): 沿岸漂砂量の水深方向分布を考慮した海浜変形モデル, 海岸工学論文集, 第37巻, pp. 304-308.
- 104) 山本幸次・砂村継夫・宇多高明(1990): 重複波作用時における岩盤の割れ目内の圧力上昇に関する実験的研究, 海岸工学論文集, 第37巻, pp. 314-318.
- 105) 宇多高明・山本幸次・砂村継夫・前原隆生(1990): 茨城県, 五浦海岸(岩石海岸)の地形学的特徴について, 海岸工学論文集, 第37巻, pp. 364-368.
- 106) 望月倫也・宇多高明・大類光男・大谷靖郎(1990): 仙台湾北部沿岸の海浜変形の実態, 海岸工学論文集, 第37巻, pp. 369-373.
- 107) 西川廣和・佐々木充・前川勝郎・宇多高明・国松広志(1990): 最上川河口砂州の変形機構について, 海岸工学論文集, 第37巻, pp. 374-378.
- 108) 宇多高明・小俣 篤・峯松麻成(1990): 透過式消波構造物沖合の地形変化機構に関する実験的研究, 海岸工学論文集, 第37巻, pp. 409-413.
- 109) 宇多高明・坂野 章・横山揚久(1990): 人工リーフによる養浜砂の安定化に関する実験的検討,

海岸工学論文集, 第37巻, pp. 459-463.

- 110) 山口 修・宇多高明・原 俊哉・田中金春・土井寛幸(1990): 台風8911, 8912号による高知海岸の海岸決壊, 海岸工学論文集, 第37巻, pp. 464-468.
- 111) 菊地健三・宇多高明・川森 晃(1990): 能取湖々口における漁港建設に伴う海浜地形変化, 海岸工学論文集, 第37巻, pp. 469-473.
- 112) 宇多高明・野口賢二(1990): 大潟海岸の侵食機構に関する一考察, 海岸工学論文集, 第37巻, pp. 474-478.
- 113) 宇多高明・小俣 篤・峯松麻成(1990): 仙台湾沿岸における砂浜消失の危機, 海岸工学論文集 第37巻, pp. 479-483.
- 114) 門松 武・宇多高明・藤原 要・時沢真一(1990): 東播海岸における養浜後の海浜地形変化, 海岸工学論文集, 第37巻, pp. 484-488.
- 115) 宇多高明・森下 襄・早津誠一(1990): 糸魚川海岸における人工リーフ周りの波, 流れ, 漂砂の現地観測, 海岸工学論文集, 第37巻, pp. 489-493.
- 116) 上野成三・加藤雅也・斉藤栄一・宇多高明・小俣 篤(1990): 斜板消波潜堤(SURF)による静穏域の創出効果と海浜流特性, 海岸工学論文集, 第37巻, pp. 569-573.
- 117) 山下誠也・櫻井清一・竹内浩一・宇多高明・小俣 篤(1990): 斜板堤の消波・波力特性の実用的推定法, 海岸工学論文集, 第37巻, pp. 574-578.
- 118) 佐々木幹夫・宇多高明・小野菊蔵・高橋陽一・難波嘉幸(1990): 三沢海岸の被災実態と今後の対策の方向性, 海岸工学論文集, 第37巻, pp. 878-882.
- 119) 宇多高明・小俣 篤・浅対 享(1990): 明るさと海岸環境について, 海岸工学論文集, 第37巻, pp. 888-892.
- 120) 宇多高明・伊藤弘之(1991): 浅水方程式を用いた波のうちあげ計算—海岸護岸・消波工のある場合—, 海岸工学論文集, 第38巻, pp. 36-40.
- 121) 宇多高明・浅香恵則・湯田 寛(1991): 糸魚川海岸における人工リーフ周辺の波, 流れ, 漂砂の現地観測(2)—水位上昇とリーフ上の冲向き漂砂に注目して—, 海岸工学論文集, 第38巻, pp. 151-155.
- 122) 宇多高明・北上勝彦・山本幸次・河野茂樹(1991): 北海道, 日高沿岸における海浜変形, 海岸工学論文集, 第38巻, pp. 276-280.
- 123) 村田 守・宇多高明・片岡賢一・大石英雄・山本幸次(1991): 駿河海岸の海浜変形と土砂収支, 海岸工学論文集, 第38巻, pp. 281-285.
- 124) 宇多高明・山本幸次・河野茂樹(1991): 北海道標津海岸の侵食実態, 海岸工学論文集, 第38巻, pp. 286-290.
- 125) 門松 武・宇多高明・大杉広徳・伊藤弘之(1991): 東播海岸の西島地区における礫養浜の現地実験, 海岸工学論文集, 第38巻, pp. 301-305.
- 126) 菊地健三・宇多高明・川森 晃・佐々木哲士(1991): サロマ湖における海浜変形, 海岸工学論文集, 第38巻, pp. 341-345.

- 127) 佐々木庸介・宇多高明・山本 清・伊藤佳晴・山本幸次(1991) : 黒部川河口部における海浜変形, 海岸工学論文集, 第38巻, pp. 346-350.
- 128) 宇多高明・望月誠一・渡辺勝彦・野口賢二(1991) : 富士川河口における海浜変形, 海岸工学論文集, 第38巻, pp. 351-355.
- 129) 宇多高明・伊藤弘之・齋藤友伸(1991) : 波高・周期・波向の時系列変動に対する汀線の線形応答解析, 海岸工学論文集, 第38巻, pp. 381-385.
- 130) 宇多高明・山本幸次・河野茂樹(1991) : 沿岸漂砂による3次元海浜地形変化の予測法, 海岸工学論文集, 第38巻, pp. 386-390.
- 131) 上野成三・斉藤栄一・加藤雅也・宇多高明・小俣 篤(1991) : 斜板消波潜堤(SURF)周辺の地形変化の特性, 海岸工学論文集, 第38巻, pp. 431-435.
- 132) 宇多高明・小俣 篤・桂川哲行(1991) : スリット式消波構造物周辺の3次元流れに起因する大規模洗掘, 海岸工学論文集, 第38巻, pp. 441-445.
- 133) 錦織和紀郎・山本方人・根本建治・宇多高明・小俣 篤(1991) : 中詰式構造物に作用するブロック荷重に関する実験的研究, 海岸工学論文集, 第38巻, pp. 621-625.
- 134) 宇多高明・小菅 晋・柳沢 修(1991) : 緩傾斜堤の安定性に関する全国実態調査, 海岸工学論文集, 第38巻, pp. 651-655.
- 135) 宇多高明・柳沢 修(1991) : 緩傾斜堤の被災機構と安定化のための方策, 海岸工学論文集, 第38巻, pp. 656-660.
- 136) 佐藤明美・上野成三・斉藤栄一・宇多高明・小俣 篤(1991) : 斜板消波潜堤(SURF)の揚圧力低減工法, 海岸工学論文集, 第38巻, pp. 676-680.
- 137) 宇多高明・小俣 篤(1991) : 海岸の雰囲気と利用形態に関する全国アンケート, 海岸工学論文集, 第38巻, pp. 986-990.
- 138) 宇多高明・小俣 篤・富田秋成・羽成英臣(1991) : マリンスポーツに適する自然条件に関する研究, 海岸工学論文集, 第38巻, pp. 991-995.

(2) 地 形



図一 2 研究対象海岸の位置



〔地形〕：地名別分類

酒沼	No. 1 (1986) 砂嘴, 模型実験
	No. 9 (1989) 親沢鼻, 海浜変形
茨城沿岸	No. 2 (1986) 海岸侵食, 汀線変化
九十九里海岸	No.10 (1989) 海浜変形, 長期変動
西湘海岸	No. 3 (1987) 海岸侵食, 汀線変化
三保松原	No.13 (1991) 砂嘴, 海浜変形
鈴鹿川河口	No. 7 (1989) 海岸侵食, 汀線変化
	No. 8 (1989) 沿岸漂砂量, 漂砂の移動高
黒島海岸	No. 5 (1988) 島, 海岸侵食
宮崎・境海岸	No.12 (1990) 海浜変形, 沿岸漂砂の阻止
市振海岸	No. 4 (1988) 海岸侵食, 沿岸漂砂の阻止
佐渡島	No.11 (1990) 鴻ノ瀬鼻, 海浜変形
鴻ノ瀬鼻	No.11 (1990) 佐渡島, 海浜変形

[地形] : 内容別分類

《3》海浜変形

3.1 河口

Na 7 (1989) 鈴鹿川河口, 海岸侵食, 汀線変化

Na 8 (1989) 鈴鹿川河口, 沿岸漂砂量, 漂砂の移動高

3.2 砂嘴

Na 1 (1986) 潤沼, 砂嘴, 模型実験

Na 5 (1988) 黒島海岸, 島, 海岸侵食

Na 6 (1988) 砂嘴, 現地データ, 模型実験

Na 9 (1989) 潤沼, 親沢鼻, 湖浜変形

Na11 (1990) 佐渡島, 鴻ノ瀬鼻, 海浜変形

Na13 (1991) 三保松原, 砂嘴, 海浜変形

Na14 (1991) 複合砂嘴, 形成過程, 模型実験

3.3 砂浜

Na 2 (1986) 茨城沿岸, 海岸侵食, 汀線変化

Na 3 (1987) 西湘海岸, 海岸侵食, 汀線変化

Na 4 (1988) 市振海岸, 海岸侵食, 沿岸漂砂の阻止

Na 5 (1988) 黒島海岸, 島, 海岸侵食

Na 6 (1988) 砂嘴, 現地データ, 模型実験

Na 7 (1989) 鈴鹿川河口, 海岸侵食, 汀線変化

Na 8 (1989) 鈴鹿川河口, 沿岸漂砂量, 漂砂の移動高

Na10 (1989) 九十九里海岸, 海浜変形, 長期変動

Na11 (1990) 佐渡島, 鴻ノ瀬鼻, 海浜変形

Na12 (1990) 宮崎・境海岸, 海浜変形, 沿岸漂砂の阻止

Na13 (1991) 三保松原, 砂嘴, 海浜変形

Na14 (1991) 複合砂嘴, 形成過程, 模型実験

3.4 湖浜

Na 1 (1986) 潤沼, 砂嘴, 模型実験

Na 9 (1989) 潤沼, 親沢鼻, 湖浜変形

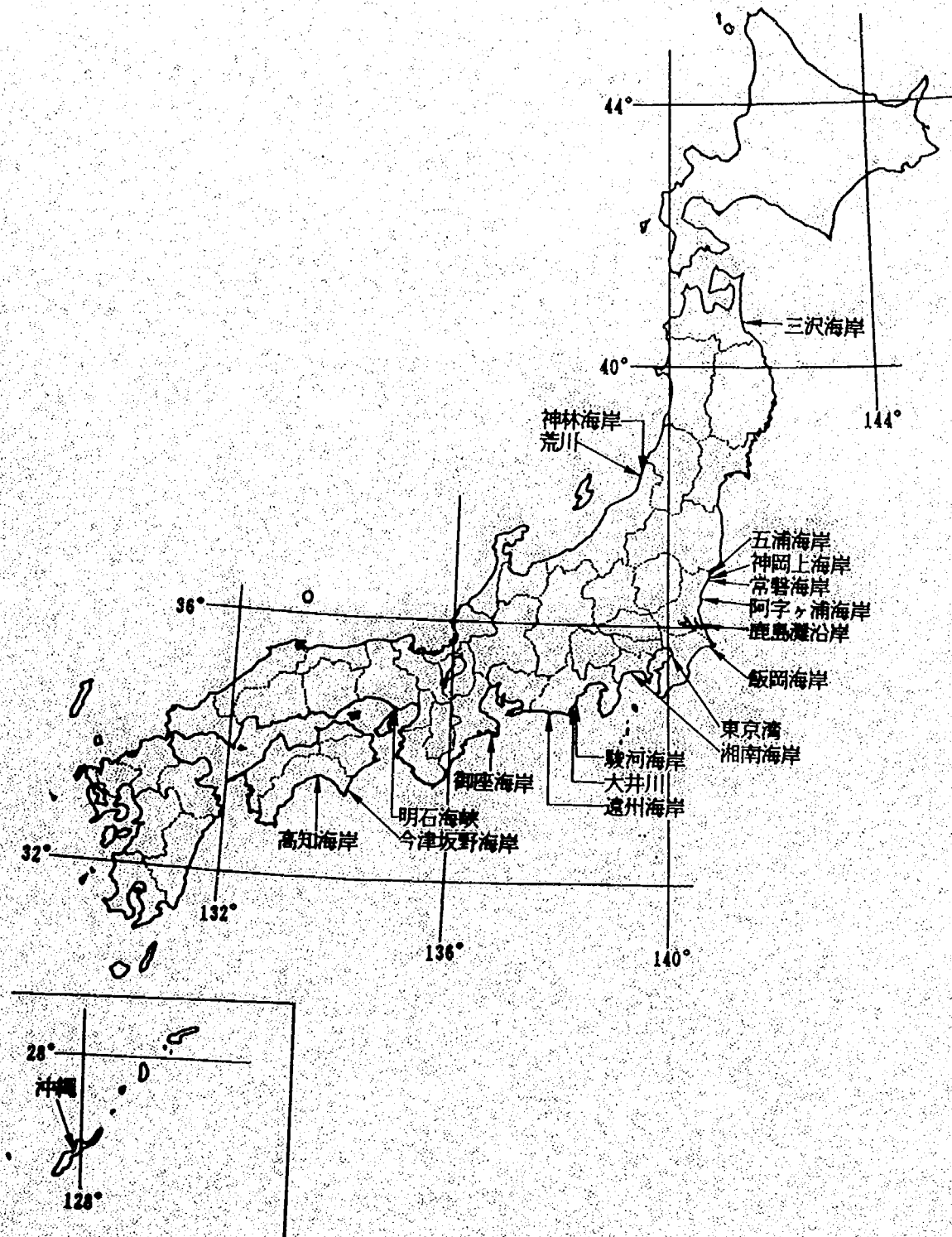
〔地形〕：発行年別分類

- No. 1 (1986) 濁沼, 砂嘴, 模型実験
- No. 2 (1986) 茨城沿岸, 海岸侵食, 汀線変化
- No. 3 (1987) 西湘海岸, 海岸侵食, 汀線変化
- No. 4 (1988) 市振海岸, 海岸侵食, 沿岸漂砂の阻止
- No. 5 (1988) 黒島海岸, 島, 海岸侵食
- No. 6 (1988) 砂嘴, 現地データ, 模型実験
- No. 7 (1989) 鈴鹿川河口, 海岸侵食, 汀線変化
- No. 8 (1989) 鈴鹿川河口, 沿岸漂砂量, 漂砂の移動高
- No. 9 (1989) 濁沼, 親沢鼻, 湖浜変形
- No.10 (1989) 九十九里海岸, 海浜変形, 長期変動
- No.11 (1990) 佐渡島, 鴻ノ瀬鼻, 海浜変形
- No.12 (1990) 宮崎・境海岸, 海浜変形, 沿岸漂砂の阻止
- No.13 (1991) 三保松原, 砂嘴, 海浜変形
- No.14 (1991) 複合砂嘴, 形成過程, 模型実験

[地形] : 発行論文

- 1) 宇多高明・山本幸次(1986): 湖および湾内に発達する砂嘴地形の変形特性, 地形, Vol. 7, No. 1, pp. 1-22.
- 2) 宇多高明・住谷勉夫・小林洋三(1986): 茨城県における海浜変形の実態, 地形, Vol. 7, No. 3, pp. 141-163.
- 3) 宇多高明・矢野 滋(1987): 相模湾西湘海岸の侵食実態について, 地形, Vol. 8, No. 1, pp. 1-19.
- 4) 宇多高明・小林正一・種岡虎男(1988): 新潟県市振海岸における海岸構造物設置に伴う海浜変形, 地形, Vol. 9, No. 1, pp. 35-52.
- 5) 宇多高明・山本幸次(1988): 黒島海岸の侵食機構に関する実験的研究, 地形, Vol. 9, No. 2, pp. 105-119.
- 6) 宇多高明・山本幸次(1988): 砂嘴地形の形成過程- 現地観測と模型実験 -, 地形, Vol. 9, No. 4, pp. 295-307.
- 7) 宇多高明・山本幸次(1989): 鈴鹿川河口周辺海岸の経年的地形変化, 地形, Vol. 10, No. 1, pp. 53-62.
- 8) 宇多高明・山本幸次(1989): 鈴鹿川河口周辺海岸における沿岸漂砂量と漂砂の移動高, 地形, Vol. 10, No. 2, pp. 113-119.
- 9) 宇多高明・山本幸次(1989): 酒沼北岸, 親沢鼻砂嘴の1983年-1988年における変形特性, 地形, Vol. 10, No. 3, pp. 209-217.
- 10) 宇多高明(1989): 九十九里海岸における過去6000年間の海浜形成と近年の海浜変形との関係, 地形, Vol. 10, No. 4, pp. 343-355.
- 11) 宇多高明・山本幸次(1990): 佐渡島, 鴻ノ瀬鼻における海浜の変形, 地形, Vol. 11, No. 1, pp. 13-28.
- 12) 宇多高明・野口賢二(1990): 富山県東部宮崎・境海岸における海浜変形の実態, 地形, Vol. 11, No. 4, pp. 337-347.
- 13) 宇多高明・山本幸次・河野茂樹(1991): 砂嘴地形周りの海浜変形-三保松原を例として-, 地形, Vol. 12, No. 2, pp. 117-134.
- 14) 宇多高明・山本幸次(1991): 複合砂嘴の形成過程に関する実験的研究, 地形, Vol. 12, No. 4, pp. 357-365.

(3) 土木技術資料



図－3 研究対象海岸の位置

图 1-1-1 (C)



图 1-1-1 (C)

〔土木技術資料〕：地名別分類

三沢海岸	Na. 8 (1979) 経験的海浜変形モデル, 海浜変形 Na.17 (1986) 海岸侵食, 汀線変化
五浦海岸	Na.67 (1991) 岩石海岸, 調査方法 Na.74 (1991) 岩石海岸, 海食崖
神岡上海岸	Na.76 (1992) 海浜変形, 海岸災害
常盤海岸	Na.29 (1987) ヘッドランド, 安定海浜
阿字ヶ浦海岸	Na. 2 (1975) 観測システム, 漂砂観測 Na. 5 (1978) 固有関数, 海浜変形 Na. 6 (1978) 海浜流, 現地観測 Na. 7 (1979) リモセン, 海浜流 Na. 9 (1980) 海浜流, 現地観測 Na.11 (1981) 水温・気温, 海水浴場 Na.34 (1988) 現地観測, 前浜地形変化 Na.48 (1989) 海浜地形, 長期変化
鹿島灘沿岸	Na.41 (1988) 海洋空間利用, ケーススタディ Na.47 (1989) ヘッドランド, 汀線変化
飯岡海岸	Na.42 (1989) 侵食対策, 歴史
東京湾	Na.40 (1988) 幕張人工海浜, 海浜変形
湘南海岸	Na.45 (1989) 適地選定, ケーススタディ
駿河海岸	Na.16 (1985) 海浜変形, 等深線距離 Na.26 (1987) サンドバイパス, 侵食対策 Na.37 (1988) 海底谷, 土砂損失 Na.57 (1990) 新型離岸堤, 魚礁効果
大井川河口	Na.32 (1988) リモセン, 濁度
遠州海岸	Na.50 (1989) 汀線変化, 沿岸漂砂 Na.71 (1991) 汀線変化, 海浜変形
御座海岸	Na.53 (1990) ポケットビーチ, 海浜変形
明石海峡	Na.21 (1986) 海浜変形, 汀線変化 Na.24 (1987) 潮流, 模型実験
今津坂野海岸	Na.38 (1988) 霞ヶ浦, 砂嘴
高知海岸	Na.20 (1986) 海底掘削, 汀線変化 Na.46 (1989) 人工リーフ, 海浜変形
沖縄	Na.43 (1989) リーフ, 波浪変形
荒川河口	Na.54 (1990) 海浜変形, 河口閉塞
神林海岸	Na.73 (1991) 海岸侵食, 浜崖

インドネシア	No.27 (1987) バリ島, 海岸侵食
オーストラリア	No.75 (1991) 日豪共同研究, 安定海浜
スペイン	No.44 (1989) I C C E, コスタ・デル・ソル
バリ島	No.27 (1987) インドネシア, 海岸侵食
ハワイ	No.68 (1991) 津波ワークショップ, 津波対策
ブラジル	No.61 (1990) 海岸調査, 海浜変形
モルディブ	No.30 (1987) 現地調査, 高潮災害

[土木技術資料] : 内容別分類

《1》海岸調査

1.1 漂砂

Na 2 (1975) 阿字ヶ浦海岸, 観測システム, 漂砂観測

Na37 (1988) 駿河海岸, 海底谷, 土砂損失

1.2 海浜流

Na 6 (1978) 阿字ヶ浦海岸, 海浜流, 現地観測

Na 7 (1979) 阿字ヶ浦海岸, リモセン, 海浜流

Na 9 (1980) 阿字ヶ浦海岸, 海浜流, 現地観測

Na43 (1989) 沖縄, リーフ, 波浪変形

Na59 (1990) サンゴ礁, 海浜流, 筋目模様

1.3 リモセン

Na 7 (1979) 阿字ヶ浦海岸, リモセン, 海浜流

Na11 (1981) 阿字ヶ浦海岸, 水温・気温, 海水浴場

Na15 (1984) リモセン, ランドサット, 測得率

Na32 (1988) リモセン, 大井川河口, 濁度

《2》波浪 (津波含む)

Na13 (1983) 日本海中部地震, 津波, 災害調査

Na22 (1986) 震災復旧, マニュアル, 研究紹介

Na30 (1987) モルディブ, 現地調査, 高潮災害

Na68 (1991) ハワイ, 津波ワークショップ, 津波対策

《3》海浜変形

3.1 河口

Na15 (1984) リモセン, ランドサット, 測得率

Na54 (1990) 荒川河口, 海浜変形, 河口閉塞

3.2 砂嘴

Na38 (1988) 今津坂野海岸, 霞ヶ浦, 砂嘴

3.3 砂浜

Na 5 (1978) 阿字ヶ浦海岸, 固有関数, 海浜変形

Na 8 (1979) 三沢海岸, 経験的海浜変形モデル, 海浜変形

Na10 (1980) 経験的海浜変形モデル, 模型実験, 海浜変形

Na12 (1983) 模型実験, 岸沖漂砂, タイプ分類

Na14 (1984) 砂突堤, 海浜変形モデル, 数値計算

Na16 (1985) 駿河海岸, 海浜変形, 等深線距離

- No.17 (1986) 三沢海岸, 海岸侵食, 汀線変化
- No.20 (1986) 高知海岸, 海底掘削, 汀線変化
- No.21 (1986) 明石海峡, 海浜変形, 汀線変化
- No.26 (1987) 駿河海岸, サンドバイパス, 侵食対策
- No.27 (1987) インドネシア, バリ島, 海岸侵食
- No.29 (1987) 常盤海岸, ヘッドランド, 安定海浜
- No.34 (1988) 阿字ヶ浦海岸, 現地観測, 前浜地形変化
- No.35 (1988) 模型実験, 砂突堤, 海浜変形
- No.40 (1988) 東京湾, 幕張人工海浜, 海浜変形
- No.42 (1989) 飯岡海岸, 侵食対策, 歴史
- No.46 (1989) 高知海岸, 人工リーフ, 海浜変形
- No.47 (1989) 鹿島灘沿岸, ヘッドランド, 汀線変化
- No.48 (1989) 阿字ヶ浦海岸, 海浜地形, 長期変化
- No.49 (1989) 海岸侵食, 深淺測量, 移動高
- No.50 (1989) 遠州海岸, 汀線変化, 沿岸漂砂
- No.53 (1990) 御座海岸, ポケットビーチ, 海浜変形
- No.54 (1990) 荒川河口, 海浜変形, 河口閉塞
- No.58 (1990) 模型実験, 安定海浜, 離岸堤
- No.61 (1990) ブラジル, 海岸調査, 海浜変形
- No.64 (1991) 海岸侵食, 全国実態, 分類
- No.65 (1991) 海水準変動, 沿岸漂砂, 海浜変形
- No.70 (1991) 海面上昇, 海岸保全, 海浜変形
- No.71 (1991) 遠州海岸, 汀線変化, 海浜変形
- No.72 (1991) 人工リーフ, 斜め入射, 海浜変形
- No.73 (1991) 神林海岸, 海岸侵食, 浜崖
- No.75 (1991) オーストラリア, 日豪共同研究, 安定海浜
- No.76 (1992) 神岡上海岸, 海浜変形, 海岸災害

《4》海岸構造物

4.1 突堤

- No.25 (1987) 直技, 人工リーフ, 突堤
- No.35 (1988) 模型実験, 砂突堤, 海浜変形

4.2 離岸堤・消波堤

- No.1 (1974) 海浜流, 数値計算, 離岸堤
- No.19 (1986) 直技, 離岸堤, 汀線変化
- No.58 (1990) 模型実験, 安定海浜, 離岸堤

4.3 人工リーフ

- №18 (1986) 人工リーフ, 消波効果, 海浜流
- №25 (1987) 直枝, 人工リーフ, 突堤
- №31 (1987) 人工リーフ, 設計法, 海岸保全
- №46 (1989) 高知海岸, 人工リーフ, 海浜変形
- №72 (1991) 人工リーフ, 斜め入射, 海浜変形

4.4 ヘッドランド (人工岬)

- №29 (1987) 常盤海岸, ヘッドランド, 安定海浜
- №47 (1989) 鹿島灘沿岸, ヘッドランド, 汀線変化

4.5 養浜・サンドバイパス

- №26 (1987) 駿河海岸, サンドバイパス, 侵食対策
- №36 (1988) 直枝, 緩傾斜堤, 礫養浜
- №40 (1988) 東京湾, 幕張人工海浜, 海浜変形

4.6 緩傾斜堤

- №36 (1988) 直枝, 緩傾斜堤, 礫養浜
- №56 (1990) 緩傾斜堤, 設計手法, 手引き書
- №66 (1991) 緩傾斜堤, 沿岸漂砂, 浜崖

4.7 海域制御構造物

- №23 (1987) 海域制御構造物, 消波効果, スリット
- №28 (1987) 海域制御構造物, 消波効果, 波浪変形
- №33 (1988) 海域制御構造物, 鋼板セル, 消波・漂砂制御効果
- №39 (1988) 海域制御構造物, 鋼板セル, 消波効果
- №57 (1990) 駿河海岸, 新型離岸堤, 魚礁効果
- №62 (1990) 海域制御構造物, 研究紹介, 構造形式
- №69 (1991) 海域制御構造物, 消波効果, 波力

《5》海岸環境

- №41 (1988) 鹿島灘沿岸, 海洋空間利用, ケーススタディ
- №45 (1989) 湘南海岸, 適地選定, ケーススタディ
- №52 (1989) 海洋性レク, 沿岸域, 類型化
- №60 (1990) 海洋性レク, 沿岸域, 類型化
- №63 (1991) 海岸環境, 研究紹介, 海岸利用

《6》数値モデル

6.1 汀線変化モデル

- №14 (1984) 砂突堤, 海浜変形モデル, 数値計算

6.2 経験的海浜変形モデル

Na 8 (1979) 三沢海岸, 経験的海浜変形モデル, 海浜変形

Na.10 (1980) 経験的海浜変形モデル, 模型実験, 海浜変形

6.4 海浜流モデル

Na 1 (1974) 海浜流, 数値計算, 離岸堤

Na. 4 (1978) 海浜流, 模型実験, 数値モデル

6.5 潮流・津波モデル

Na51 (1989) 砕波帯, 波浪変形, 数値計算

《7》その他

Na 3 (1976) I C C E, 研究紹介, 砂突堤

Na.24 (1987) 明石海峡, 潮流, 模型実験

Na.44 (1989) スペイン, I C C E, コスタ・デル・ソル

Na.55 (1990) 紹介, 研究内容, 技術指導

Na.67 (1991) 五浦海岸, 岩石海岸, 調査方法

Na.74 (1991) 五浦海岸, 岩石海岸, 海食崖

Na.75 (1991) オーストラリア, 日豪共同研究, 安定海浜

〔土木技術資料〕：発行年別分類

- № 1 (1974) 海浜流, 数値計算, 離岸堤
- № 2 (1975) 阿字ヶ浦海岸, 観測システム, 漂砂観測
- № 3 (1976) I C C E, 研究紹介, 砂突堤
- № 4 (1978) 海浜流, 模型実験, 数値モデル
- № 5 (1978) 阿字ヶ浦海岸, 固有関数, 海浜変形
- № 6 (1978) 阿字ヶ浦海岸, 海浜流, 現地観測
- № 7 (1979) 阿字ヶ浦海岸, リモセン, 海浜流
- № 8 (1979) 三沢海岸, 経験的海浜変形モデル, 海浜変形
- № 9 (1980) 阿字ヶ浦海岸, 海浜流, 現地観測
- № 10 (1980) 経験的海浜変形モデル, 模型実験, 海浜変形
- № 11 (1981) 阿字ヶ浦海岸, 水温・気温, 海水浴場
- № 12 (1983) 模型実験, 岸沖漂砂, タイプ分類
- № 13 (1983) 日本海中部地震, 津波, 災害調査
- № 14 (1984) 砂突堤, 海浜変形モデル, 数値計算
- № 15 (1984) リモセン, ランドサット, 測得率
- № 16 (1985) 駿河海岸, 海浜変形, 等深線距離
- № 17 (1986) 三沢海岸, 海岸侵食, 汀線変化
- № 18 (1986) 人工リーフ, 消波効果, 海浜流
- № 19 (1986) 直枝, 離岸堤, 汀線変化
- № 20 (1986) 高知海岸, 海底掘削, 汀線変化
- № 21 (1986) 明石海峡, 海浜変形, 汀線変化
- № 22 (1986) 震災復旧, マニュアル, 研究紹介
- № 23 (1987) 海域制御構造物, 消波効果, スリット
- № 24 (1987) 明石海峡, 潮流, 模型実験
- № 25 (1987) 直枝, 人工リーフ, 突堤
- № 26 (1987) 駿河海岸, サンドバイパス, 侵食対策
- № 27 (1987) インドネシア, バリ島, 海岸侵食
- № 28 (1987) 海域制御構造物, 消波効果, 波浪変形
- № 29 (1987) 常盤海岸, ヘッドランド, 安定海浜
- № 30 (1987) モルディブ, 現地調査, 高潮災害
- № 31 (1987) 人工リーフ, 設計法, 海岸保全
- № 32 (1988) 大井川河口, リモセン, 濁度
- № 33 (1988) 海域制御構造物, 鋼板セル, 消波・漂砂制御効果
- № 34 (1988) 阿字ヶ浦海岸, 現地観測, 前浜地形変化
- № 35 (1988) 模型実験, 砂突堤, 海浜変形

- №36 (1988) 直技, 緩傾斜堤, 礫養浜
- №37 (1988) 駿河海岸, 海底谷, 土砂損失
- №38 (1988) 今津坂野海岸, 霞ヶ浦, 砂嘴
- №39 (1988) 海域制御構造物, 鋼板セル, 消波効果
- №40 (1988) 東京湾, 幕張人工海浜, 海浜変形
- №41 (1988) 鹿島灘沿岸, 海洋空間利用, ケーススタディ
- №42 (1989) 飯岡海岸, 侵食対策, 歴史
- №43 (1989) 沖縄, リーフ, 波浪変形
- №44 (1989) スペイン, I C C E, コスタ・デル・ソル
- №45 (1989) 湘南海岸, 適地選定, ケーススタディ
- №46 (1989) 高知海岸, 人工リーフ, 海浜変形
- №47 (1989) 鹿島灘沿岸, ヘッドランド, 汀線変化
- №48 (1989) 阿字ヶ浦海岸, 海浜地形, 長期変化
- №49 (1989) 海岸侵食, 深浅測量, 移動高
- №50 (1989) 遠州海岸, 汀線変化, 沿岸漂砂
- №51 (1989) 碎波帯, 波浪変形, 数値計算
- №52 (1989) 海洋性レク, 沿岸域, 類型化
- №53 (1990) 御座海岸, ポケットビーチ, 海浜変形
- №54 (1990) 荒川河口, 海浜変形, 河口閉塞
- №55 (1990) 紹介, 研究内容, 技術指導
- №56 (1990) 緩傾斜堤, 設計手法, 手引き書
- №57 (1990) 駿河海岸, 新型離岸堤, 魚礁効果
- №58 (1990) 模型実験, 安定海浜, 離岸堤
- №59 (1990) サンゴ礁, 海浜流, 筋目模様
- №60 (1990) 海洋性レク, 沿岸域, 類型化
- №61 (1990) ブラジル, 海岸調査, 海浜変形
- №62 (1990) 海域制御構造物, 研究紹介, 構造形式
- №63 (1991) 海岸環境, 研究紹介, 海岸利用
- №64 (1991) 海岸侵食, 全国実態, 分類
- №65 (1991) 海水準変動, 沿岸漂砂, 海浜変形
- №66 (1991) 緩傾斜堤, 沿岸漂砂, 浜崖
- №67 (1991) 五浦海岸, 岩石海岸, 調査方法
- №68 (1991) ハワイ, 津波ワークショップ, 津波対策
- №69 (1991) 海域制御構造物, 消波効果, 波力
- №70 (1991) 海面上昇, 海岸保全, 海浜変形
- №71 (1991) 遠州海岸, 汀線変化, 海浜変形

№72 (1991) 人工リーフ, 斜め入射, 海浜変形

№73 (1991) 神林海岸, 海岸侵食, 浜崖

№74 (1991) 五浦海岸, 岩石海岸, 海食崖

№75 (1991) オーストラリア, 日豪共同研究, 安定海浜

№76 (1992) 神岡上海岸, 海浜変形, 海岸災害

[土木技術資料] : 発行論文

- 1) 宇多高明(1974) : 海浜流の数値計算, 土木技術資料, Vol.16, No.9, 21-26.
- 2) 宇多高明・橋本 宏(1975) : 波浪・海浜流・漂砂の観測システムとその応用, 土木技術資料, Vol.17, No.1, pp.31-37.
- 3) 橋本 宏・宇多高明(1976) : 第14回海岸工学国際会議報告(紹介), 土木技術資料, Vol.18, No.2, pp.45-48.
- 4) 橋本 宏・宇多高明・林 敏夫(1978) : 海浜流の再現性に関する研究, 土木技術資料, Vol.20, No.1, pp.15-20.
- 5) 宇多高明(1978) : 経験関数による海浜地形解析(第一報), 土木技術資料, Vol.20, No.9, pp.5-10.
- 6) 宇多高明(1978) : ソリを利用した海浜流観測, 土木技術資料, Vol.20, No.12, pp.25-29.
- 7) 橋本 宏・宇多高明(1979) : リモートセンシングによる沿岸水理調査, 土木技術資料, Vol.21, No.4, pp.18-23.
- 8) 宇多高明(1979) : 経験的海浜変形モデルによる現地データの解析, 土木技術資料, Vol.21, No.11, pp.3-7.
- 9) 宇多高明(1980) : 砕波帯における波浪と海浜流の現地観測, 土木技術資料, Vol.22, No.2, pp.3-7.
- 10) 橋本 宏・宇多高明(1980) : 経験的海浜変形モデルの消波堤模型実験への適用, 土木技術資料, Vol.22, No.10, pp.36-41.
- 11) 宇多高明・竹淵 勉(1981) : 海水浴場の持つ気象・海象条件のダイナミックな変化過程, 土木技術資料, Vol.23, No.8, pp.33-37.
- 12) 宇多高明(1983) : 移動床実験において生ずる岸沖漂砂に起因する地形変化の特性, 土木技術資料, Vol.25, No.6, pp.9-14.
- 13) 佐々木 康・川島一彦・宇多高明(1983) : 日本海中部地震被害調査速報(速報), 土木技術資料, Vol.25, No.7, pp.55-60.
- 14) 宇多高明(1984) : 砂突堤の汀線変化予測, 土木技術資料, Vol.26, No.7, pp.28-33.
- 15) 宇多高明・古川博一・竹淵 勉(1984) : ランドサットデータを用いた河口流出流調査時期の検討, 土木技術資料, Vol.26, No.12, pp.16-21.
- 16) 宇多高明・筒井保博(1985) : 駿河海岸の侵食実態の解析, 土木技術資料, Vol.27, No.7, pp.40-45.
- 17) 宇多高明(1986) : 小川原湖海岸の侵食実態の解析, 土木技術資料, Vol.28, No.1, pp.8-13.
- 18) 宇多高明・小俣 篤(1986) : 人工リーフの波浪減衰機能と海浜流場の形成に関する考察, 土木技術資料, Vol.28, No.2, pp.32-37.
- 19) 宇多高明(1986) : 第39回建設省技術研究会報告-離岸堤の効果及び安定性に関する研究, 土木技術資料, Vol.28, No.4, pp.47-49.
- 20) 宇多高明(1986) : 沖浜の海底掘削に伴う海浜変形, 土木技術資料, Vol.28, No.8, pp.3-8.
- 21) 宇多高明(1986) : 明石海峡周辺海岸の海浜地形変化, 土木技術資料, Vol.28, No.9, pp.9-14.
- 22) 宇多高明・浅井涌太郎・古賀泰之・佐々木 康・伊藤良弘(1986) : 河川・海岸・砂防施設の震災復旧技術, 土木技術資料, Vol.28, No.12, pp.15-21.

- 23) 宇多高明・村井禎美・松尾和男・藤原隆一(1987)：海域制御構造物に関する実験的研究，土木技術資料，Vol. 29, No.2, pp. 9-14.
- 24) 宇多高明・小俣 篤・横山揚久(1987)：明石海峡潮流模型実験，土木技術資料，Vol. 29, No.3, pp. 3-8.
- 25) 宇多高明(1987)：第40回建設省技術研究会報告－海岸保全に対する工法－，土木技術資料，Vol. 29, No.3, pp. 42-44.
- 26) 宇多高明・小俣 篤・山本幸次(1987)：駿河海岸安定化手法，土木技術資料，Vol. 29, No.5, pp. 27-32.
- 27) 宇多高明・池野秀嗣・吉田延雄(1987)：バリ島の海岸侵食(紹介)，土木技術資料，Vol. 29, No.6, pp. 51-56 .
- 28) 宇多高明・村井禎美・藤原隆一・松尾和男(1987)：海域制御構造物による静穏域の創出効果，土木技術資料，Vol. 29, No.8, pp. 51-56.
- 29) 宇多高明・山本幸次(1987)：海浜安定化工法に関する 2, 3 の検討，土木技術資料，Vol. 29, No.9, pp. 21-26.
- 30) 宇多高明・佐合純造(1987)：モルディブにおける高潮災害の緊急調査(速報)，土木技術資料，Vol. 29, No.10, pp. 44-49.
- 31) 宇多高明・小俣 篤(1987)：人工リーフの設計法，土木技術資料，Vol. 29, No.12, pp. 26-31.
- 32) 宇多高明・村井禎美・竹渕 勉(1988)：沿岸海域調査への衛星リモセン利用の現状と課題，土木技術資料，Vol. 30, No.1, pp. 2-7.
- 33) 宇多高明・村井禎美・小国嘉之・飯村 修・高瀬幸紀(1988)：根入れ式鋼板セル離岸堤の消波及び漂砂制御効果に関する実験的検討，土木技術資料，Vol. 30, No.2, pp. 9-14.
- 34) 宇多高明・小俣 篤・竹渕 勉(1988)：阿字ヶ浦海岸における波による前浜地形の変化，土木技術資料，Vol. 30, No.4, pp. 15-20.
- 35) 宇多高明・竹渕 勉(1988)：砂突堤の変形に関する移動床模型実験，土木技術資料，Vol. 30, No. 5, pp. 8-13 .
- 36) 宇多高明(1988)：第41回建設省技術研究会報告－海岸保全工法に関する研究－，土木技術資料，Vol. 30, No.5, pp. 39-42.
- 37) 宇多高明・堤 博志・小俣 篤・酒井佳治(1988)：海岸から海底谷への土砂流出現象の観測，土木技術資料，Vol. 30, No.6, pp. 44-49.
- 38) 宇多高明・山本幸次(1988)：砂嘴地形周りの侵食，堆積域の普遍的断面形状特性，土木技術資料，Vol. 30, No.7, pp. 15-20.
- 39) 宇多高明・村井禎美・柳本泰伴・本山喜章(1988)：遊水室を有する鋼板セル式海域制御構造物に関する実験的検討，土木技術資料，Vol. 30, No.9, pp. 17-22.
- 40) 宇多高明(1988)：幕張人工海浜における養浜後の海浜変形，土木技術資料，Vol. 30, No.10, pp. 33-39.
- 41) 宇多高明・村井禎美・松永博史・羽成英臣(1988)：海洋空間の保全・利用計画手法の検討－鹿島

- 灘沿岸におけるケーススタディー，土木技術資料，Vol. 30, No. 11, pp. 41-46.
- 42) 宇多高明・小俣 篤(1989)：飯岡海岸の侵食の歴史と対策工の変遷，土木技術資料，Vol. 31, No. 1, pp. 15-22.
- 43) 谷本修志・宇多高明(1989)：沖縄本島大宜味地区における天然リーフ上の波浪変形の現地観測，土木技術資料，Vol. 31, No. 3, pp. 3-8.
- 44) 宇多高明(1989)：スペインの海岸事情，土木技術資料，Vol. 31, No. 3, pp. 55-59.
- 45) 宇多高明・村井禎美・武中信之(1989)：湘南海岸の利用と保全に関する検討，土木技術資料，Vol. 31, No. 4, pp. 31-38.
- 46) 宇多高明・坂野 章・竹淵 勉(1989)：人工リーフの消波効果と構造物周りの海浜変形に関する実験的検討，土木技術資料，Vol. 31, No. 5, pp. 38-43.
- 47) 宇多高明(1989)：海岸侵食を防ぐーヘッドランド工法の効果と適用ー，土木技術資料，Vol. 31, No. 7, pp. 2-3.
- 48) 宇多高明・小俣 篤(1989)：海浜地形の長期的変動をつかむ，土木技術資料，Vol. 31, No. 8, pp. 12-13.
- 49) 宇多高明・山本幸次(1989)：海岸侵食調査における2, 3の留意点，土木技術資料，Vol. 31, No. 8, pp. 60-66.
- 50) 宇多高明・坂野 章(1989)：遠州海岸のマクロ的に見た海浜変形，土木技術資料，Vol. 31, No. 9, pp. 34-40.
- 51) 宇多高明・小俣 篤・羽成英臣(1989)：砕波帯および波打帯における波浪変形の数値計算，土木技術資料，Vol. 31, No. 10, pp. 56-61.
- 52) 宇多高明・武中信之(1989)：海洋性レクの適性基準から見た全国沿岸域の類型化，土木技術資料，Vol. 31, No. 11, pp. 43-49.
- 53) 宇多高明(1990)：三重県御座海岸における離岸堤建設による海浜変形とその予測，土木技術資料，Vol. 32, No. 4, pp. 55-61.
- 54) 宇多高明・斉藤健一・清水清文(1990)：新潟県，荒川河口周辺の地形変化実態，土木技術資料，Vol. 32, No. 5, pp. 61-66.
- 55) 宇多高明(1990)：我は海の子，土木技術資料，Vol. 32, No. 7, p. 18.
- 56) 宇多高明・小俣 篤(1990)：緩傾斜堤の設計の手引き，土木技術資料，Vol. 32, No. 8, pp. 60-65.
- 57) 村田 守・宇多高明・中村瑛佳(1990)：駿河海岸における新型離岸堤の建設とその後の追跡調査，土木技術資料，Vol. 32, No. 8, pp. 66-72.
- 58) 宇多高明・小俣 篤・山本幸次(1990)：突堤，離岸堤群の沿岸漂砂制御効果に関する実験的検討，土木技術資料，Vol. 32, No. 9, pp. 46-52.
- 59) 宇多高明(1990)：サンゴ礁海岸を探るー所報「サンゴ礁海岸における波，流れ，地形変化に関する研究」よりー，土木技術資料，Vol. 32, No. 10, pp. 16-17.
- 60) 宇多高明(1990)：海洋性レクリエーション利用の見地から見た全国沿岸域の分類・評価，土木技術資料，Vol. 32, No. 11, pp. 16-19.

- 61) 宇多高明(1990) : 発展途上国における海岸調査手法ーブラジル南部・イタジャイ川河口周辺海岸を例としてー, 土木技術資料, Vol. 32, No.11, pp. 74-79.
- 62) 宇多高明・小俣 篤(1990) : 海域制御構造物の開発, 土木技術資料, Vol. 32, No.12, pp. 2-5.
- 63) 宇多高明・小俣 篤(1991) : 良好な海岸環境の整備指針を求めて, 土木技術資料, Vol. 33, No.2, pp. 12-13.
- 64) 宇多高明(1991) : 我が国の海岸侵食の実態とその本質的問題点, 土木技術資料, Vol. 33, No.2, pp. 27-31.
- 65) 宇多高明・坂野 章(1991) : 潮位(海水準)変動と沿岸漂砂による海浜地形変化の関係, 土木技術資料, Vol. 33, No.2, pp. 32-36.
- 66) 宇多高明・坂野 章(1991) : 沿岸漂砂の卓越する場における緩傾斜堤下手側の侵食とその対策, 土木技術資料, Vol. 33, No.2, pp. 37-42.
- 67) 宇多高明・山本幸次(1991) : 岩石海岸の侵食状況の調査手法ー茨城県五浦海岸を例としてー, 土木技術資料, Vol. 33, No.2, pp. 43-48.
- 68) 宇多高明(1991) : 第2回日米津波ワークショップ報告, 土木技術資料, Vol. 33, No.3, pp. 60-64.
- 69) 宇多高明・小俣 篤・川村哲也(1991) : スリット型消波構造物の消波および波力特性とそれらの推定法, 土木技術資料, Vol. 33, No.5, pp. 51-57.
- 70) 宇多高明・小俣 篤(1991) : 海岸保全に及ぼす海面上昇の影響, 土木技術資料, Vol. 33, No.8, pp. 62-65.
- 71) 宇多高明・山本幸次(1991) : 遠州海岸の1960年代以降における海浜変形, 土木技術資料, Vol. 33, No.10, pp. 10-11 .
- 72) 宇多高明・坂野 章(1991) : 斜め入射波作用時における人工リーフ周辺の海浜変形, 土木技術資料, Vol. 33, No.10, pp. 56-61 .
- 73) 宇多高明・野口賢二(1991) : 新潟県北部, 岩船港周辺における海浜地形変化, 土木技術資料, Vol. 33, No.11, pp. 28-33.
- 74) 宇多高明・山本幸次(1991) : 岩石海岸の侵食調査法ー茨城県の五浦海岸を例としてー, 土木技術資料, Vol. 33, No.12, pp. 12-13.
- 75) 宇多高明(1991) : 日豪共同研究に伴う西オーストラリア大学での研究討論, 土木技術資料, Vol. 33, No.12, pp. 60-63.
- 76) 宇多高明・野口賢二(1992) : 茨城県北部, 神岡上海岸の侵食機構, 土木技術資料, Vol. 34, No.1, pp. 49-53.
- 77) 宇多高明・小俣 篤(1992) : 総合技術開発プロジェクト「海洋利用空間の創成・保全技術の開発」の概要, 土木技術資料, Vol. 34, No. 2, pp. 29-30.
- 78) 宇多高明・小俣 篤(1992) : 新しい海域制御構造物の開発研究, 土木技術資料, Vol. 34, No. 2, pp. 31-36 .
- 79) 宇多高明・小俣 篤・桂川哲行(1992) : スリット式消波構造物周辺の洗掘に関する実験的研究, 土木技術資料, Vol. 34, No. 2, pp. 49-54.

(4) 土木技術資料 (Q & A)

[土木技術資料 Q & A] : 地名別分類

青海海岸 No. 4 (1991) 緩傾斜堤, 被災

[土木技術資料 Q & A] : 内容別分類

《1》海岸調査

1.1 漂砂

No. 5 (1991) ポケットビーチ, 海岸侵食, 調査法

No. 8 (1991) 深浅測量, 漂砂特性, 判読法

2.2 海浜流

No. 7 (1991) サンゴ礁, 海浜流, 空中写真

1.3 リモセン

No. 7 (1991) サンゴ礁, 海浜流, 空中写真

《3》海浜変形

3.3 砂浜

No. 1 (1991) 汀線変化モデル, 予測精度, 留意点

No. 2 (1991) ポケットビーチ, 海岸侵食, 対策

No. 3 (1991) 人工リーフ, 安定海浜, 模型実験

No. 4 (1991) ポケットビーチ, 海岸侵食, 調査法

No. 5 (1991) 深浅測量, 漂砂特性, 判読法

《4》海岸構造物

4.3 人工リーフ

No. 3 (1991) 人工リーフ, 安定海浜, 模型実験

No. 6 (1991) 人工リーフ, 適地選定, 工法比較

4.6 緩傾斜堤

No. 4 (1991) 青海海岸, 緩傾斜堤, 被災

《6》数値モデル

6.1 汀線変化モデル

No. 1 (1991) 汀線変化モデル, 予測精度, 留意点

[土木技術資料 Q & A] : 発行年別分類

No. 1 (1991) 汀線変化モデル, 予測精度, 留意点

- No. 2 (1991) ポケットビーチ, 海岸侵食, 対策
- No. 3 (1991) 人工リーフ, 安定海浜, 模型実験
- No. 4 (1991) 青海海岸, 緩傾斜堤, 被災
- No. 5 (1991) ポケットビーチ, 海岸侵食, 調査法
- No. 6 (1991) 人工リーフ, 適地選定, 工法比較
- No. 7 (1991) サンゴ礁, 海浜流, 空中写真
- No. 8 (1991) 深淺測量, 漂砂特性, 判読法

[土木技術資料 Q & A] : 発行論文

- 1) 宇多高明(1991): 建設技術Q&A [汀線変化モデルを現地海岸へ適用する場合の予測精度の向上法について教えてください], 土木技術資料, Vol. 33, No.1, pp. 18-19 .
- 2) 宇多高明(1991): 建設技術Q&A [ポケットビーチ内での海岸侵食とその対策法について教えてください], 土木技術資料, Vol. 33, No.4, pp. 14-15.
- 3) 宇多高明・山本幸次(1991): 建設技術Q&A [人工リーフにより安定海浜を形成させることは可能ですか], 土木技術資料, Vol. 33, No.7, pp. 16-17.
- 4) 宇多高明・野口賢二(1991): 建設技術Q&A [緩傾斜堤の望ましい使用法について教えてください], 土木技術資料, Vol. 33, No.9, pp. 10-11.
- 5) 宇多高明(1991): 建設技術Q&A [ポケットビーチ内での海岸侵食の調査において注意すべき点について教えてください], 土木技術資料, Vol. 33, No.9, pp. 12-13.
- 6) 宇多高明・野口賢二(1991): 建設技術Q&A [最近各地で人工リーフが造られていますが, 人工リーフはどのような条件の海岸に最も適するのでしょうか], 土木技術資料, Vol. 33, No.10, pp. 12-13.
- 7) 宇多高明・山本幸次(1991): 建設技術Q&A [サンゴ礁上の流れの特性を簡便に調べることでできる方法があれば教えてください], 土木技術資料, Vol. 33, No.11, pp. 8-9.
- 8) 宇多高明(1991): 建設技術Q&A [深淺測量によって得られたコンター図より漂砂特性を判読する方法について教えてください], 土木技術資料, Vol. 33, No.12, pp. 14-15.
- 9) 宇多高明(1992): 建設技術Q&A [波による海底地形変化が収束する限界水深はどの程度の値を持つのでしょうか], 土木技術資料, Vol. 34, No.1, pp. 22-23.

(5) 土木研究所資料

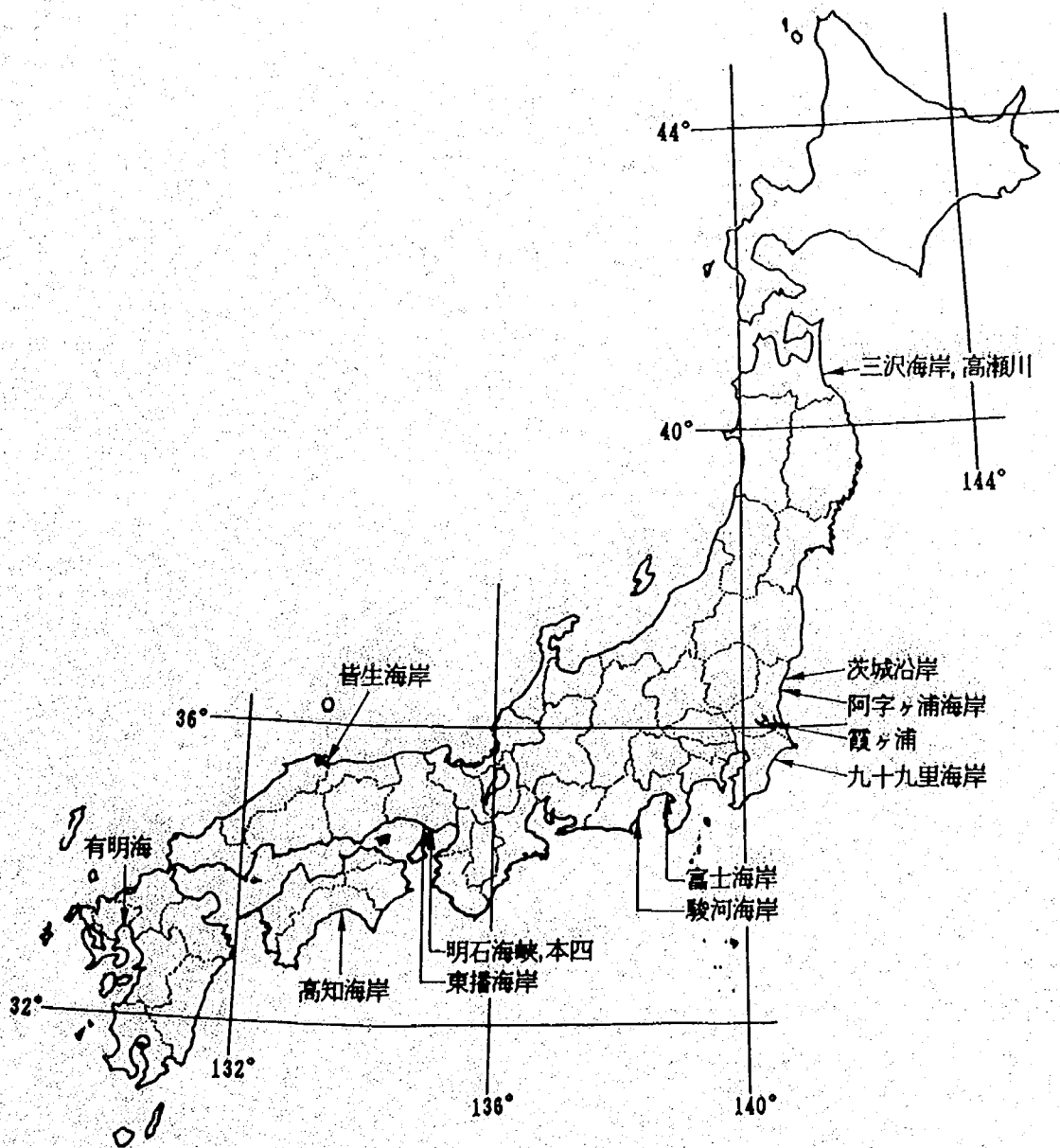
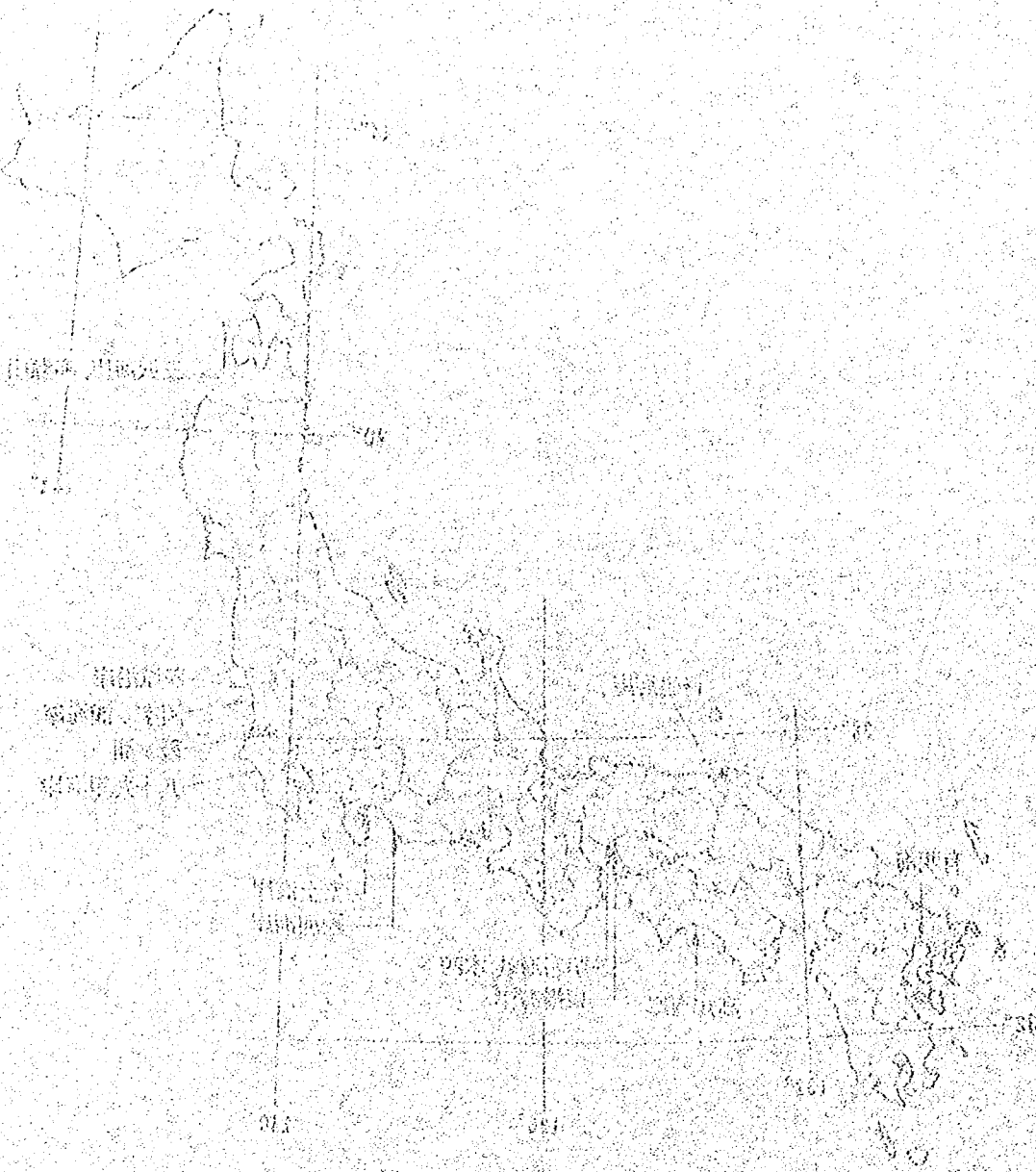


図-4 研究対象海岸の位置

中国气候图 (一)



中国气候图 (一) 图

〔土木研究所資料〕：地名別分類

高瀬川放水路	No. 2 (1983) 三沢海岸, 模型実験
三沢海岸	No. 2 (1983) 高瀬川放水路, 模型実験
茨城沿岸	No.14 (1987) 海岸侵食, 汀線変化
阿字ヶ浦海岸	No. 9 (1986) 海浜変形, 現地観測 No.28 (1988) 現地観測, 浮遊砂 No.39 (1990) 海浜変形, 現地観測
霞ヶ浦	No.20 (1987) 湖岸堤, 模型実験
九十九里海岸	No.21 (1988) 侵食対策, 海岸侵食 No.41 (1991) 海洋開発, 海洋空間利用
富士海岸	No.10 (1986) 離岸堤, 模型実験
駿河海岸	No. 8 (1986) 侵食対策, 模型実験 No.12 (1987) リモセン, ランドサット No.44 (1991) 海岸侵食, 土砂流出対策工
明石海峡	No. 5 (1984) 本四, 模型実験 No. 7 (1985) 本四, 模型実験 No.11 (1986) 潮流, 模型実験
本四	No. 5 (1984) 明石海峡, 模型実験 No. 7 (1985) 明石海峡, 模型実験
東播海岸	No. 3 (1983) 養浜工, 模型実験 No.35 (1990) 人工リーフ, 養浜
高知海岸	No. 1 (1983) 離岸堤, 模型実験 No.32 (1989) 人工リーフ, 模型実験
有明海	No. 4 (1984) 模型実験, 数値計算
皆生海岸	No.25 (1988) 沖合侵食, 海浜変形モデル

[土木研究所資料] : 内容別分類

《1》海岸調査

1.1 漂砂

№28 (1988) 阿字ヶ浦海岸, 現地観測, 浮遊砂

№31 (1989) 海底谷, 土砂損失, 現地調査

1.2 海浜流

№31 (1989) 海底谷, 土砂損失, 現地調査

1.3 リモセン

№12 (1987) 駿河海岸, リモセン, ランドサット

《2》波浪 (津波含む)

№4 (1984) 有明海, 模型実験, 数値計算

№6 (1985) 離岸堤, 模型実験, 数値計算

№16 (1987) 津波, 離岸堤, 模型実験

№20 (1987) 霞ヶ浦, 湖岸堤, 模型実験

№24 (1988) 非線形長波, マッハシステム, エッジボア

№46 (1991) 越波, 飛来塩分量, 計算モデル

《3》海浜変形

3.1 河口

№2 (1983) 三沢海岸, 高瀬川放水路, 模型実験

3.3 砂浜

№2 (1983) 三沢海岸, 高瀬川放水路, 模型実験

№3 (1983) 東播海岸, 養浜工, 模型実験

№8 (1986) 駿河海岸, 侵食対策, 模型実験

№9 (1986) 阿字ヶ浦海岸, 海浜地形, 現地観測

№10 (1986) 富士海岸, 離岸堤, 模型実験

№14 (1987) 茨城沿岸, 海岸侵食, 汀線変化

№17 (1987) 沿岸漂砂, 離岸堤, 突堤

№21 (1988) 九十九里海岸, 侵食対策, 海岸侵食

№25 (1988) 皆生海岸, 沖合侵食, 海浜変形モデル

№39 (1990) 阿字ヶ浦海岸, 海浜地形, 現地観測

№44 (1991) 駿河海岸, 海岸侵食, 土砂流出対策工

《4》海岸構造物

4.1 突堤

No.17 (1987) 沿岸漂砂, 離岸堤, 突堤

No.44 (1991) 駿河海岸, 海岸侵食, 土砂流出対策工

4.2 離岸堤・消波堤

No. 1 (1983) 高知海岸, 離岸堤, 模型実験

No. 6 (1985) 離岸堤, 模型実験, 数値計算

No.10 (1986) 富士海岸, 離岸堤, 模型実験

No.16 (1987) 津波, 離岸堤, 模型実験

No.17 (1987) 沿岸漂砂, 離岸堤, 突堤

4.3 人工リーフ

No.20 (1987) 霞ヶ浦, 湖岸堤, 模型実験

No.29 (1988) 人工リーフ, 設計法, 機能性・安定性

No.32 (1989) 高知海岸, 人工リーフ, 模型実験

No.35 (1990) 東播海岸, 人工リーフ, 養浜

No.38 (1990) 人工リーフ, 被覆材, 所要重量

4.5 養浜・サンドバイパス

No. 3 (1983) 東播海岸, 養浜工, 模型実験

No.35 (1990) 東播海岸, 人工リーフ, 養浜

4.7 海域制御構造物

No.13 (1987) 海域制御構造物, 鋼板セル, 漂砂制御

No.15 (1987) 海域制御構造物, 共同研究, 機能性・安定性

No.18 (1987) 海域制御構造物, 共同研究, 機能性・安定性

No.19 (1987) 海域制御構造物, 共同研究, フィージビリティ・スタディー

No.22 (1988) 海域制御構造物, 共同研究, 機能性・安定性

No.23 (1988) 海域制御構造物, 共同研究, フィージビリティ・スタディー

No.26 (1988) 海域制御構造物, 共同研究, 波力

No.27 (1988) 海域制御構造物, 共同研究, 機能性・安定性

No.30 (1989) 海域制御構造物, 共同研究, 機能性・安定性

No.33 (1989) 海域制御構造物, 共同研究, 機能性・安定性

No.36 (1990) 海域制御構造物, 洗掘, 地形変化予測

No.37 (1990) スリット, 消波効果, 波力

No.43 (1991) スリット, 消波・波力, 洗掘

《5》海岸環境

No.34 (1989) 海岸環境, 海岸利用, 海岸の雰囲気

No.40 (1991) 海岸の雰囲気, 海岸利用, 現地調査

No.41 (1991) 九十九里海岸, 海洋開発, 海洋空間利用

No.42 (1991) 海岸環境, 温熱環境, 空間規模

《6》数値モデル

6.3 等深線変化モデル

No.25 (1988) 皆生海岸, 沖合侵食, 海浜変形モデル

6.4 海浜流モデル

No.32 (1989) 高知海岸, 人工リーフ, 模型実験

《7》その他

No. 5 (1984) 本四, 明石海峡, 模型実験

No. 7 (1985) 明石海峡, 本四, 模型実験

No.11 (1986) 明石海峡, 潮流, 模型実験

No.45 (1991) 海面上昇, 長期変化, 黒潮

〔土木研究所資料〕：発行年別分類

- № 1 (1983) 高知海岸, 離岸堤, 模型実験
- № 2 (1983) 三沢海岸, 高瀬川放水路, 模型実験
- № 3 (1983) 東播海岸, 養浜工, 模型実験
- № 4 (1984) 有明海, 模型実験, 数値計算
- № 5 (1984) 明石海峡, 本四, 模型実験
- № 6 (1985) 離岸堤, 模型実験, 数値計算
- № 7 (1985) 本四, 明石海峡, 模型実験
- № 8 (1986) 駿河海岸, 侵食対策, 模型実験
- № 9 (1986) 阿字ヶ浦海岸, 海浜地形, 現地観測
- №10 (1986) 富士海岸, 離岸堤, 模型実験
- №11 (1986) 明石海峡, 潮流, 模型実験
- №12 (1987) 駿河海岸, リモセン, ランドサット
- №13 (1987) 海域制御構造物, 鋼板セル, 漂砂制御
- №14 (1987) 茨城沿岸, 海岸侵食, 汀線変化
- №15 (1987) 海域制御構造物, 共同研究, 機能性・安定性
- №16 (1987) 津波, 離岸堤, 模型実験
- №17 (1987) 沿岸漂砂, 離岸堤, 突堤
- №18 (1987) 海域制御構造物, 共同研究, 機能性・安定性
- №19 (1987) 海域制御構造物, 共同研究, フィージビリティ・スタディー
- №20 (1987) 霞ヶ浦, 湖岸堤, 模型実験
- №21 (1988) 九十九里海岸, 侵食対策, 海岸侵食
- №22 (1988) 海域制御構造物, 共同研究, 機能性・安定性
- №23 (1988) 海域制御構造物, 共同研究, フィージビリティ・スタディー
- №24 (1988) 非線形長波, マッハシステム, エッジボア
- №25 (1988) 皆生海岸, 沖合侵食, 海浜変形モデル
- №26 (1988) 海域制御構造物, 共同研究, 波力
- №27 (1988) 海域制御構造物, 共同研究, 機能性・安定性
- №28 (1988) 阿字ヶ浦海岸, 現地観測, 浮遊砂
- №29 (1988) 人工リーフ, 設計法, 機能性・安定性
- №30 (1989) 海域制御構造物, 共同研究, 機能性・安定性
- №31 (1989) 海底谷, 土砂損失, 現地調査
- №32 (1989) 高知海岸, 人工リーフ, 模型実験
- №33 (1989) 海域制御構造物, 共同研究, 機能性・安定性
- №34 (1989) 海岸環境, 海岸利用, 海岸の雰囲気
- №35 (1990) 東播海岸, 人工リーフ, 養浜

- No.36 (1990) 海域制御構造物, 洗掘, 地形変化予測
- No.37 (1990) スリット, 消波効果, 波力
- No.38 (1990) 人工リーフ, 被覆材, 所要重量
- No.39 (1990) 阿字ヶ浦海岸, 海浜地形, 現地観測
- No.40 (1991) 海岸の雰囲気, 海岸利用, 現地調査
- No.41 (1991) 九十九里海岸, 海洋開発, 海洋空間利用
- No.42 (1991) 海岸環境, 温熱環境, 空間規模
- No.43 (1991) スリット, 消波・波力, 洗掘
- No.44 (1991) 駿河海岸, 海岸侵食, 土砂流出対策工
- No.45 (1991) 海面上昇, 長期変化, 黒潮
- No.46 (1991) 越波, 飛来塩分量, 計算モデル

〔土木研究所資料〕：発行論文

- 1) 橋本 宏・宇多高明・竹淵 勉(1983)：高知海岸離岸堤模型実験報告書，土木研究所資料，第1931号，112p.
- 2) 橋本 宏・宇多高明・竹淵 勉(1983)：高瀬川放水路導流堤模型実験報告書，土木研究所資料，第1932号，109p.
- 3) 宇多高明・山本幸次(1983)：東播海岸移動床模型実験報告書，土木研究所資料，第2020号，75p.
- 4) 宇多高明・田中茂信・弘田英人(1984)：有明海鹿島・有明海岸波浪模型実験報告書，土木研究所資料，第2048号，116p.
- 5) 宇多高明・古川博一・山本幸次(1984)：本州四国連絡橋の設計施工に関する研究報告，第9章海中構造物に関する調査試験，土木研究所資料，第2086号，pp.162-180.
- 6) 宇多高明・古川博一・筒井保博(1985)：離岸堤模型実験報告書，土木研究所資料，第2219号，115p.
- 7) 宇多高明・古川博一・横山揚久(1985)：本州四国連絡橋の設計施工に関する研究報告，第8章海中構造物に関する調査試験，土木研究所資料，第2220号，pp.150-193.
- 8) 宇多高明・小俣 篤・山本幸次(1986)：駿河海岸安定化手法調査報告書，土木研究所資料，第2285号，67p.
- 9) Uda.Takaaki, and Yoshiharu Sakai (1986) :Summarized data of beach profiles and wave observations at Ajigaura Beach. Technical Memorandum of PWRI, No.2294, 286p.
- 10) 宇多高明・村井禎美・竹淵 勉(1986)：富士海岸離岸堤模型実験報告書，土木研究所資料，第2337号，97p.
- 11) 宇多高明・小俣 篤・横山揚久(1986)：本州四国連絡橋の設計施工に関する研究報告，第5章海中構造物に関する調査試験，土木研究所資料，第2357号，pp.115-156.
- 12) 宇多高明・村井禎美・竹淵 勉(1987)：ランドサットデータの沿岸海域調査への利用法，土木研究所資料，第2427号，115p.
- 13) 宇多高明・村井禎美・小国嘉之・飯村 修・高瀬幸紀(1987)：根入れ式鋼板セル離岸堤に関する共同研究報告書，土木研究所資料，第2435号，89p.
- 14) 宇多高明(1987)：茨城県沿岸侵食対策計画調査報告書，土木研究所資料，第2452号，64p.
- 15) 宇多高明・村井禎美 ほか(1987)：海域制御構造物の開発に関する共同研究報告書(1)，土木研究所資料，第2454号，173p.
- 16) 宇多高明・小俣 篤・横山揚久(1987)：津波遡上に関する実験報告書－構造物の効果を中心として－，土木研究所資料，第2486号，122p.
- 17) 宇多高明・小俣 篤・山本幸次(1987)：沿岸漂砂制御実験報告書，土木研究所資料，第2507号，39p.
- 18) 宇多高明・村井禎美 ほか(1987)：海域制御構造物の開発に関する共同研究報告書(2)，土木研究所資料，第2510号，137p.
- 19) 宇多高明・村井禎美 ほか(1987)：海域制御構造物の開発に関する共同研究報告書(3)，－第1ク

ループ F.S. 調査報告書一, 土木研究所資料, 第2511号, 168p.

- 20) 宇多高明・小俣 篤(1987): 霞ヶ浦湖岸堤越波模型実験報告書, 土木研究所資料, 第2519号, 82p.
- 21) 宇多高明・小俣 篤(1988): 九十九里海岸侵食対策調査報告書, 土木研究所資料, 第2569号, 76p.
- 22) 宇多高明・村井禎美 ほか(1988): 海域制御構造物の開発に関する共同研究報告書(4), 土木研究所資料, 第2577号, 232p.
- 23) 宇多高明・村井禎美 ほか(1988): 海域制御構造物の開発に関する共同研究報告書(5), 一皆生海岸 F.S. 調査報告書一, 土木研究所資料, 第2609号, 285p.
- 24) 宇多高明・小俣 篤・横山揚久(1988): 斜面上を進行する非線形長波の2次元変形に関する実験報告書, 土木研究所資料, 第2627号, 113p.
- 25) 宇多高明・村井禎美・山本幸次(1988): 皆生海岸の沖合部の侵食実態とその予測手法, 土木研究所資料, 第2655号, 35p.
- 26) 宇多高明・村井禎美 ほか(1988): 海域制御構造物の開発に関する共同研究報告書(6), 一波力実験報告書一, 土木研究所資料, 第2658号, 111p.
- 27) 宇多高明・村井禎美・山本幸次 ほか(1988): 海域制御構造物の開発に関する共同研究報告書(7), 土木研究所資料, 第2661号, 185p.
- 28) 宇多高明・小俣 篤・竹淵 勉・斉藤友伸(1988): 前浜地形変化と碎波帯内における浮遊砂の発生・輸送機構に関する現地観測報告書, 土木研究所資料, 第2672号, 62p.
- 29) 宇多高明・小俣 篤・横山揚久(1988): 人工リーフの機能と設計法, 土木研究所資料, 第2696号, 79p.
- 30) 宇多高明・村井禎美・山本幸次 ほか(1989): 海域制御構造物の開発に関する共同研究報告書(8), 土木研究所資料, 第2701号, 217p.
- 31) 宇多高明・小俣 篤(1989): 海岸から深海への土砂損失機構調査報告書, 土木研究所資料, 第2730号, 80p.
- 32) 宇多高明・坂野 章・竹淵 勉(1989): 高知海岸人工リーフ水理模型実験報告書, 土木研究所資料, 第2782号, 42p.
- 33) 宇多高明・小俣 篤・村井禎美 ほか(1989): 海域制御構造物の開発に関する共同研究報告書(9), 土木研究所資料, 第2788号, 209p.
- 34) 宇多高明・小俣 篤・浅対 享(1989): 海岸環境の構成要素および海岸の利用形態に関する研究, 土木研究所資料, 第2807号, 51p.
- 35) 宇多高明・坂野 章(1990): 人工リーフによる養浜砂の安定化に関する実験的検討, 土木研究所資料, 第2880号, 79p.
- 36) 宇多高明・小俣 篤・峯松麻成(1990): 透過式消波構造物の設置に伴う沖合海底地形の変化機構に関する実験的研究, 土木研究所資料, 第2890号, 57p.
- 37) 宇多高明・小俣 篤・川村哲也(1990): スリット型消波構造物の消波および波力特性に関する実

- 験的研究, 土木研究所資料, 第2891号, 54p.
- 38) 宇多高明・小俣 篤・齋藤友伸(1990): 人工リーフ被覆材の所要重量算定法, 土木研究所資料, 第2893号, 48p.
- 39) Uda, Takaaki, Hiroyuki Ito and Tomonobu Saito(1990): Summarized data of beach profiles and wave observations at Ajigaura Beach (2), Technical Memorandum of PWRI, No.2900, 438p.
- 40) 宇多高明・小俣 篤・浅対 享(1991): 海岸の雰囲気と利用形態に関する全国調査報告書, 土木研究所資料, 第2925号, 213p.
- 41) 宇多高明(1991): 海洋利用空間の創成についてー侵食性海岸を例にとってー [土木研究所講演会講演集], 土木研究所資料, 第2928号, pp.89-116.
- 42) 宇多高明・小俣 篤・浅対 享(1991): 海岸の温熱環境と快適性の関係および海岸の空間規模の評価法に関する研究, 土木研究所資料, 第2939号, 64p.
- 43) 宇多高明・小俣 篤・川村哲也・桂川哲行(1991): スリット式消波構造物の消波性能, 作用波力および洗掘機構に関する研究, 土木研究所資料, 第3020号, 76p.
- 44) 宇多高明・山本幸次(1991): 駿河海岸の侵食実態と海底谷への土砂流出対策工に関する調査報告書, 土木研究所資料, 第3032号, 62p.
- 45) 宇多高明・伊藤弘之(1991): 地球温暖化調査報告書ー潮位, 波浪, 海浜地形の長期変動に着目してー, 土木研究所資料, 第3034号, 99p.
- 46) 宇多高明・小俣 篤・小西正純(1991): 越波状況の分類および飛来塩分量の計算モデル, 土木研究所資料, 第3036号, 47p.

(6) 共同研究報告書

附註 (a)

〔共同研究報告書〕：内容別分類

《4》海岸構造物

4.7 海域制御構造物

No. 1 (1990) 海域制御構造物, 共同研究, 機能性・安定性

No. 2 (1990) 海域制御構造物, 共同研究, 機能性・安定性

No. 3 (1990) 海域制御構造物, 共同研究, 施工

No. 5 (1991) 海域制御構造物, 共同研究, 機能性・安定性

《5》海岸環境

No. 4 (1990) 海岸の雰囲気, 海岸利用, マリンスポーツ

No. 6 (1991) 海岸の雰囲気, 現地調査, 心理実験

〔共同研究報告書〕：発行年別分類

No. 1 (1990) 海域制御構造物, 共同研究, 機能性・安定性

No. 2 (1990) 海域制御構造物, 共同研究, 機能性・安定性

No. 3 (1990) 海域制御構造物, 共同研究, 施工

No. 4 (1991) 海岸の雰囲気, 海岸利用, マリンスポーツ

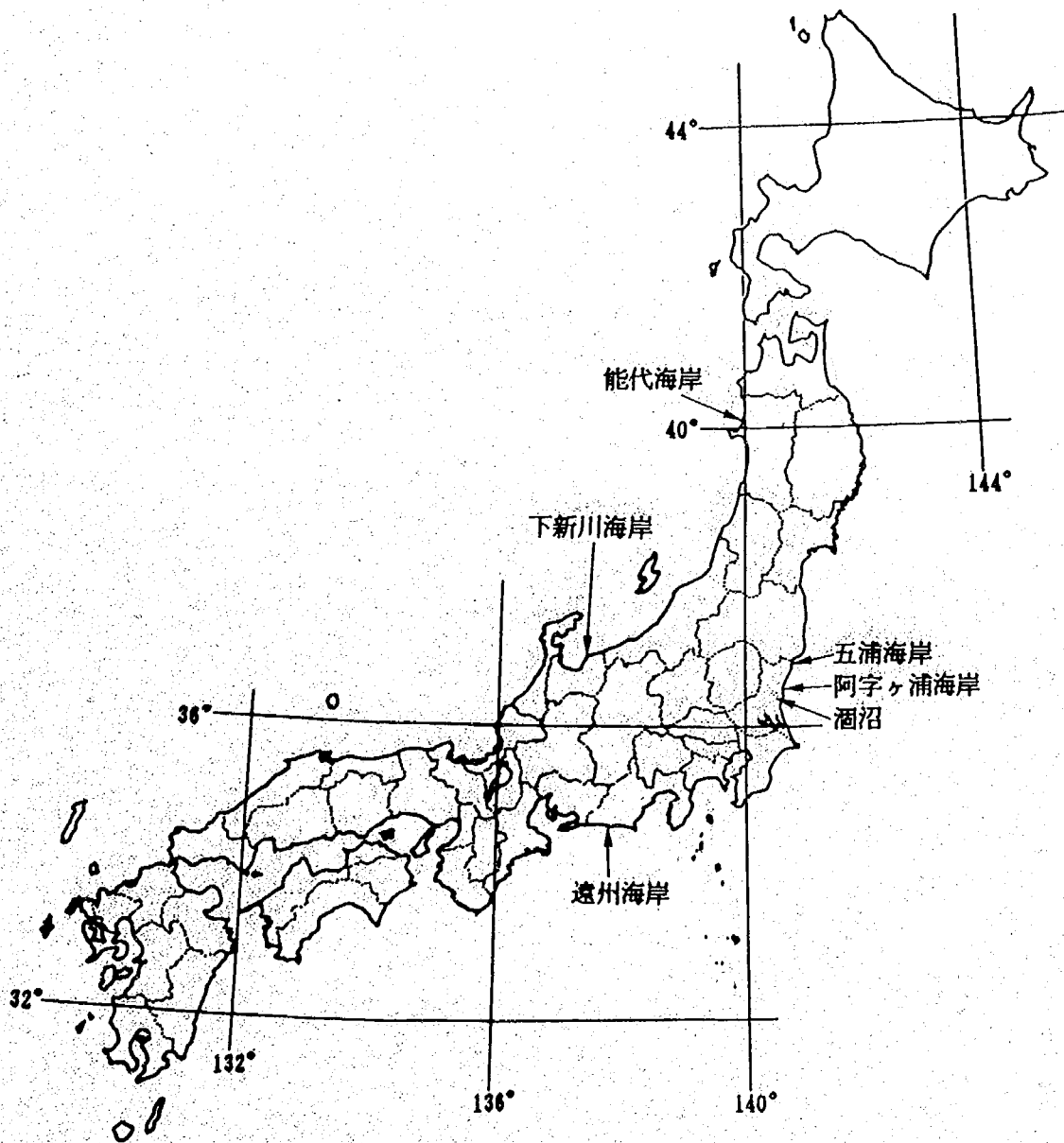
No. 5 (1990) 海域制御構造物, 共同研究, 機能性・安定性

No. 6 (1990) 海岸の雰囲気, 現地調査, 心理実験

〔共同研究報告書〕：発行論文

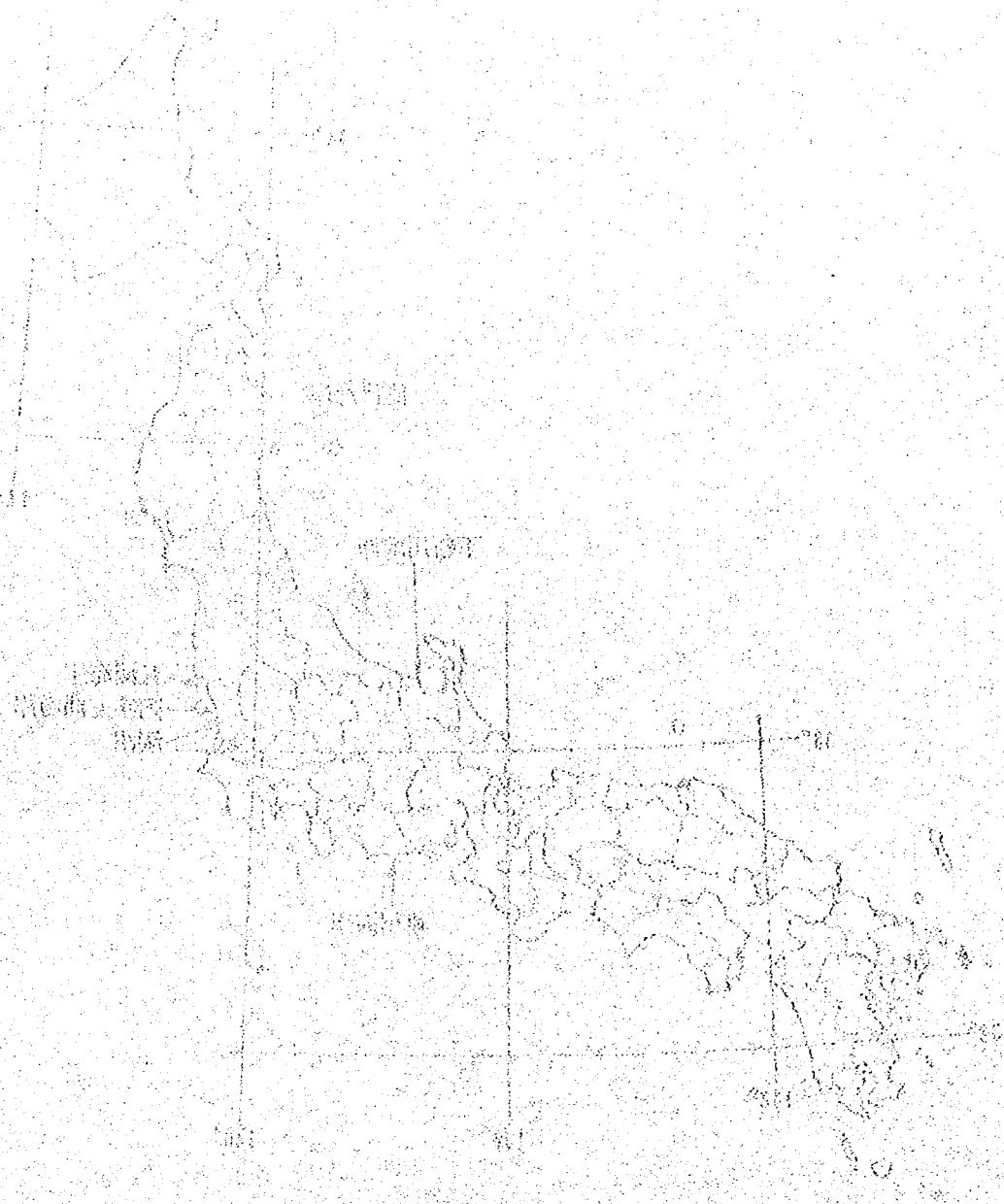
- 1) 宇多高明・小俣 篤・山本幸次 ほか(1990): 海域制御構造物の開発に関する共同研究報告書(10), 共同研究報告書, 第37号, 126p.
- 2) 宇多高明・小俣 篤 ほか(1990): 海域制御構造物の開発に関する共同研究報告書(11), 共同研究報告書, 第46号, 208p.
- 3) 宇多高明・小俣 篤 ほか(1990): 海域制御構造物の開発に関する共同研究報告書(12), 共同研究報告書, 第48号, 140p.
- 4) 宇多高明・小俣 篤 ほか(1990): 海岸の雰囲気, 利用形態およびマリンスポーツに適する自然条件に関する研究, 共同研究報告書, 第49号, 123p.
- 5) 宇多高明・小俣 篤 ほか(1991): 海域制御構造物の開発に関する共同研究報告書(13), 共同研究報告書, 第56号, 243p.
- 6) 宇多高明・小俣 篤 ほか(1991): 海岸の物理指標と海岸の雰囲気の関係, 共同研究報告書, 第61号, 71p.

(7) 土木研究所報告



図－5 研究対象海岸の位置

（一）



（一）

〔土木研究所報告〕：地名別分類

- 五浦海岸 No. 8 (1991) 岩石海岸, 崖侵食
阿字ヶ浦海岸 No. 3 (1989) 海浜地形, 長期変化
濁沼 No. 9 (1992) 下新川海岸, 模型実験
遠州海岸 No. 7 (1991) 海浜変形, 汀線変化
下新川海岸 No. 9 (1992) 濁沼, 模型実験
能代沿岸 No. 1 (1985) 日本海中部地震, 津波
 No. 2 (1985) 日本海中部地震, 津波

〔土木研究所報告〕：発行年別分類

- No. 1 (1985) 能代沿岸, 日本海中部地震, 津波
No. 2 (1985) 能代沿岸, 日本海中部地震, 津波
No. 3 (1989) 阿字ヶ浦海岸, 海浜地形, 長期変化
No. 4 (1990) 波向変動, 海浜変形, 模型実験
No. 5 (1990) サング礁, 海浜流, 地形変化
No. 6 (1991) 海洋性レクリエーション, 適地, 類型化
No. 7 (1991) 遠州海岸, 海浜変形, 汀線変化
No. 8 (1991) 五浦海岸, 岩石海岸, 崖侵食
No. 9 (1992) 濁沼, 下新川海岸, 模型実験

〔土木研究所報告〕：内容別分類

《1》海岸調査

1.2 海浜流

- No. 5 (1990) サング礁, 海浜流, 地形変化

《2》波浪（津波含む）

- No. 1 (1985) 能代沿岸, 日本海中部地震, 津波
No. 2 (1985) 能代沿岸, 日本海中部地震, 津波

《3》海浜変形

3.1 河口

- No. 7 (1991) 遠州海岸, 海浜変形, 汀線変化

3.3 砂浜

- No. 3 (1989) 阿字ヶ浦海岸, 海浜地形, 長期変化

- № 4 (1990) 波向変動, 海浜変形, 模型実験
- № 5 (1990) サンゴ礁, 海浜流, 地形変化
- № 7 (1991) 遠州海岸, 海浜変形, 汀線変化

《5》海岸環境

- № 6 (1991) 海洋性レクリエーション, 適地, 類型化

《6》数値モデル

6.4 海浜流モデル

- № 5 (1990) サンゴ礁, 海浜流, 地形変化

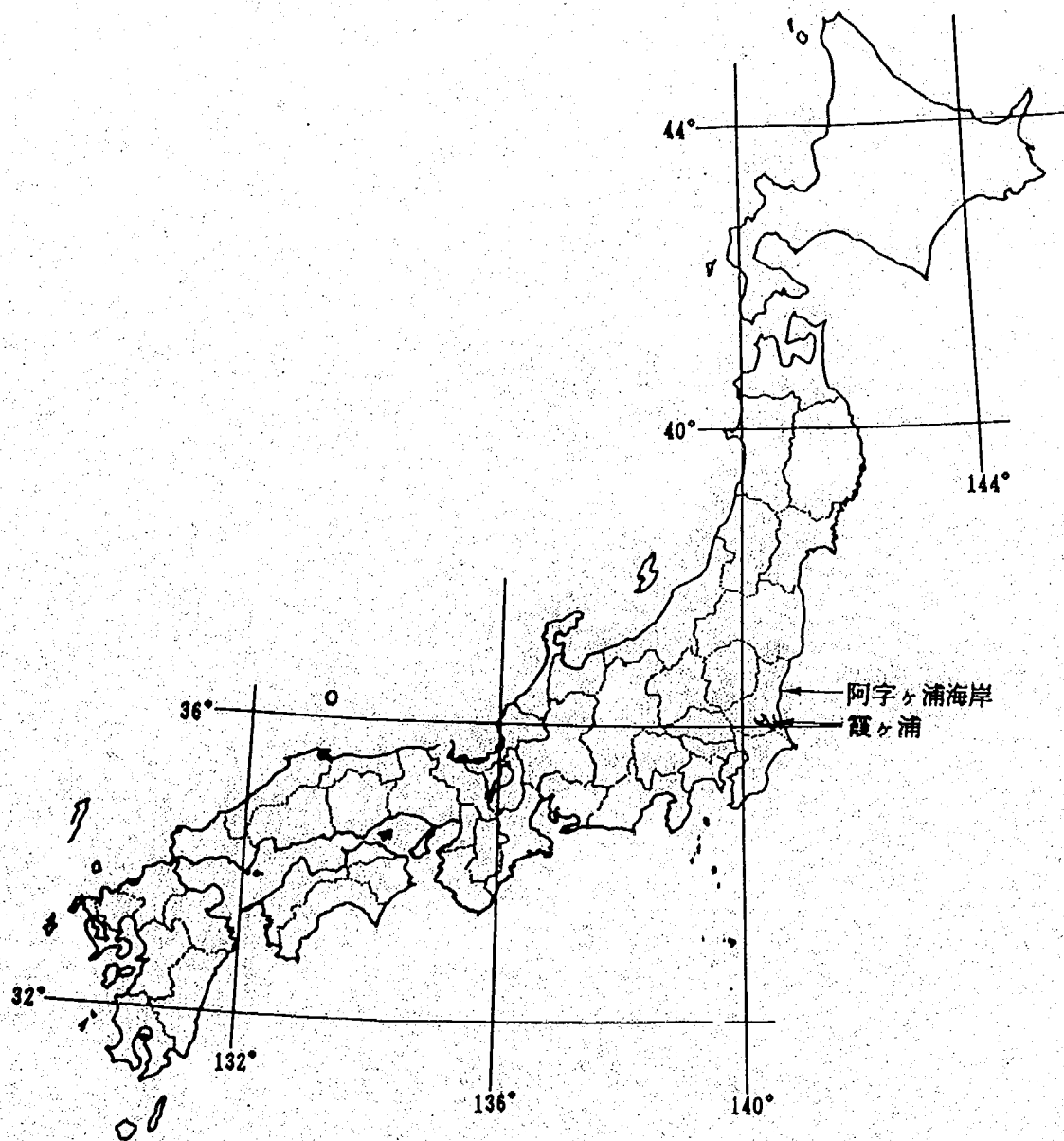
《7》その他

- № 8 (1991) 五浦海岸, 岩石海岸, 崖侵食

〔土木研究所報告〕：発行論文

- 1) 宇多高明(1985)：1983年日本海中部地震災害調査報告，第2編 津波，土木研究所報告，第165号 pp. 17-54
- 2) 宇多高明(1985)：1983年日本海中部地震災害調査報告，第9編 河川構造物と海岸保全施設の津波被害，土木研究所報告，第165号，pp. 209-230.
- 3) 宇多高明・小俣 篤・斉藤友伸(1989)：阿字ヶ浦海岸における海浜地形の長期的変動とその原因，土木研究所報告，第179号，pp. 1-12.
- 4) 宇多高明・坂野 章(1990)：波向が周期的に変化する場における海浜地形変化，土木研究所報告，第181号，pp. 61-83.
- 5) 谷本修志・宇多高明(1990)：サンゴ礁海岸における波，流れ，地形変化に関する研究，土木研究所報告，第181号，pp. 85-182.
- 6) 宇多高明・武中信之(1991)：海洋性レクリエーション利用から見た全国沿岸域の類型化，土木研究所報告，第183号，pp. 1-22.
- 7) 宇多高明・坂野 章・山本幸次(1991)：遠州海岸の1960年代以降における海浜変形，土木研究所報告，第183号，pp. 23-70.
- 8) 宇多高明・山本幸次(1991)：茨城県，五浦海岸(岩石海岸)の地形学的特徴と侵食実態，土木研究所報告，第185号，pp. 1-15.
- 9) Uda, Takaaki and Koji Yamamoto(1992): Spit formation in lake and bay, Jour. Res., Public Works Res. Inst., Min. of Construction, pp. 1-24.

(8) 土木学会論文集



図－6 研究対象海岸の位置

[土木学会論文集] : 地名別分類

- 阿字ヶ浦海岸 No. 2 (1981) 固有関数, 海浜変形
No. 3 (1981) 固有関数, 海浜変形
No. 7 (1988) 海浜地形, 長期変化
No. 8 (1989) 前浜地形, 現地観測
霞ヶ浦 No. 6 (1987) 湖浜変形, 汀線変化

[土木学会論文集] : 内容別分類

《1》海岸調査

1.1 漂砂

- No. 1 (1975) 振動流, 理論解, 砂漣

1.2 海浜流

- No. 5 (1982) 海浜流, 理論解, 砂嘴

《3》海浜変形

3.1 河口

- No. 4 (1982) 海浜変形, 河口砂州, 汀線変化モデル

3.2 砂嘴

- No. 5 (1982) 海浜流, 理論解, 砂嘴

3.3 砂浜

- No. 2 (1981) 阿字ヶ浦海岸, 固有関数, 海浜変形

- No. 3 (1981) 阿字ヶ浦海岸, 固有関数, 海浜変形

- No. 7 (1988) 阿字ヶ浦海岸, 海浜地形, 長期変化

- No. 8 (1989) 阿字ヶ浦海岸, 前浜地形, 現地観測

3.4 湖浜

- No. 6 (1987) 霞ヶ浦, 湖浜変形, 汀線変化

《6》数値モデル

6.1 汀線変化モデル

- No. 4 (1982) 海浜変形, 河口砂州, 海浜変形モデル

[土木学会論文集] : 発行年別分類

- No. 1 (1975) 振動流, 理論解, 砂漣

- No. 2 (1981) 阿字ヶ浦海岸, 固有関数, 海浜変形

- No. 3 (1981) 阿字ヶ浦海岸, 固有関数, 海浜変形

Na 4 (1982) 海浜変形, 河口砂州, 汀線変化モデル

Na 5 (1982) 海浜流, 理論解, 砂嘴

Na 6 (1987) 霞ヶ浦, 湖浜変形, 汀線変化

Na 7 (1988) 阿字ヶ浦海岸, 海浜地形, 長期変化

Na 8 (1989) 阿字ヶ浦海岸, 前浜地形, 現地観測

〔土木学会論文集〕：発行論文

- 1) 宇多高明・日野幹雄(1975)：波状曲面上の層流振動流れの理論，土木学会論文報告集，第237号，pp. 27-36.
- 2) 橋本 宏・宇多高明(1981)：経験的固有関数による海浜地形変化の解析，土木学会論文報告集，第305号，pp. 59-71.
- 3) 橋本 宏・宇多高明(1981)：海浜地形と外力の動的応答関係について，土木学会論文報告集，第310号，pp. 77-87.
- 4) 宇多高明(1982)：新しい海浜変形モデルによる河口砂州の変形予測，土木学会論文報告集，第320号，pp. 77-87.
- 5) 宇多高明(1982)：円弧状および大規模カスプを有する海岸における海浜流循環，土木学会論文報告集，第326号，pp. 63-82.
- 6) 宇多高明・赤穂俊作・今井武雄(1987)：霞ヶ浦における風波による湖浜変形の実態，土木学会論文集，No.381/Ⅱ7，pp. 161-170.
- 7) 宇多高明・小俣 篤・齋藤友伸(1988)：阿字ヶ浦海岸における海浜地形の長期的変動とその原因，土木学会論文集，No.399/Ⅱ10，pp. 165-174.
- 8) 宇多高明・小俣 篤・竹渕 勉(1989)：前浜地形変化の支配要因とバームの形成過程，土木学会論文集，No.411/Ⅱ12，pp. 227-236.

(9) 海洋開発論文集

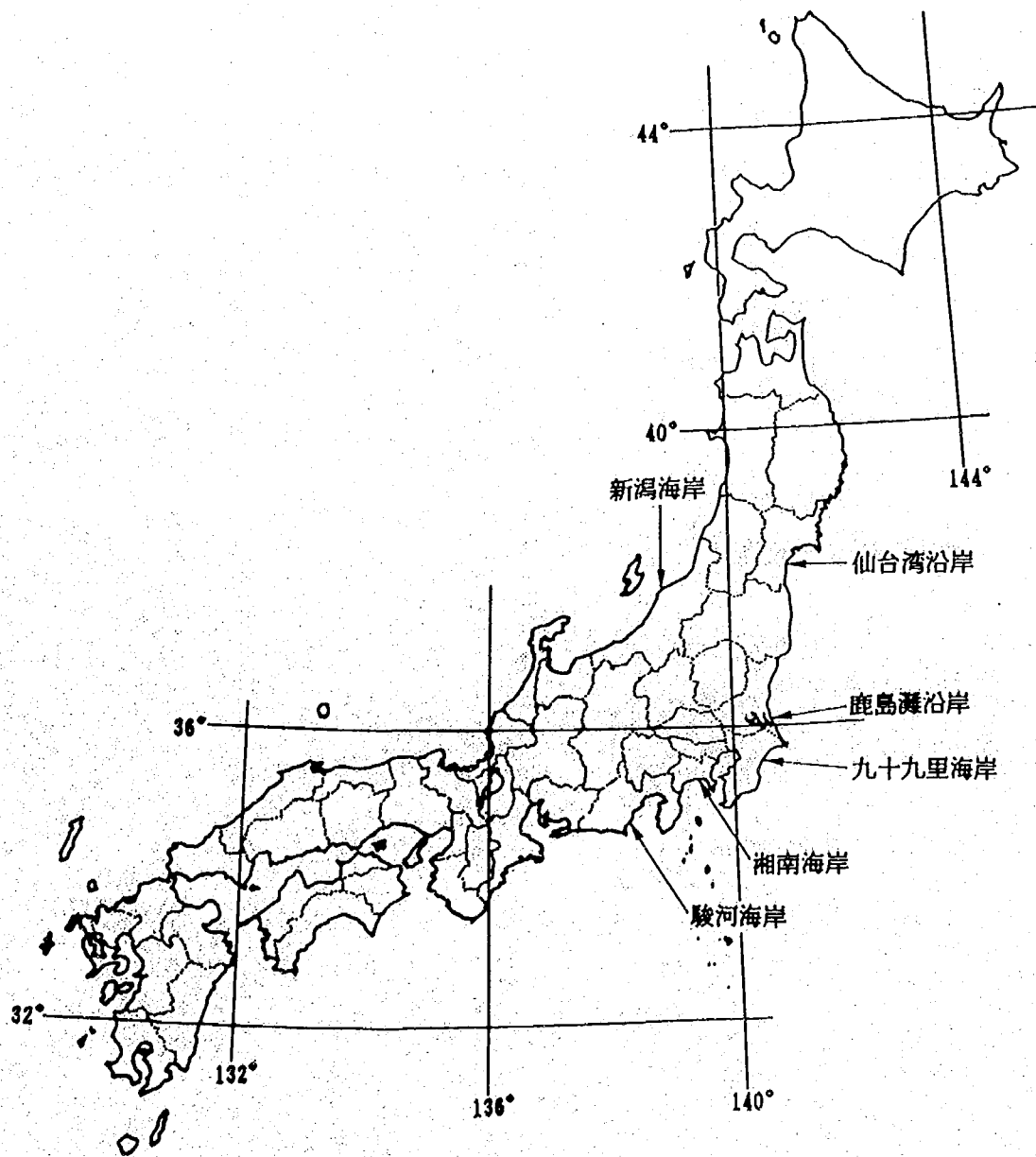


図-7 研究対象海岸の位置

Figure 1: Map of the study area



Figure 1: Map of the study area

[海洋開発論文集]：地名別分類

仙台湾沿岸	No.19 (1990) 沿岸域利用, 適地選定
鹿島灘沿岸	No.11 (1988) 適地選定, 利用・保全
九十九里海岸	No.12 (1988) 適地選定, 利用・保全
	No.27 (1991) MMZ構想, ケーススタディ
湘南海岸	No.13 (1988) 適地選定, 利用・保全
	No.17 (1989) 適地選定, 利用・保全
駿河海岸	No.16 (1989) 適地選定, 利用・保全
	No.18 (1989) 新型離岸堤, 施工
新潟海岸	No.15 (1989) 適地選定, 利用・保全
米国西海岸	No.28 (1991) 海岸事情, 比較
モルディブ	No.20 (1990) サンゴ礁, ウォーターフロント

《4》海岸構造物

4.7 海域制御構造物

- Na 3 (1986) 海域制御構造物, 消波効果, 研究紹介
- Na 4 (1987) 海域制御構造物, 消波効果, 複合消波
- Na 5 (1987) 海域制御構造物, 消波効果, 波浪場の計算
- Na 6 (1988) 海洋技術総合研究施設, 洗掘, 現地調査
- Na 7 (1988) 海域制御構造物, 水平板付スリット, 消波と波力
- Na 8 (1988) 海域制御構造物, 消波効果, 複合消波
- Na 9 (1988) 海域制御構造物, 消波効果, 漂砂制御
- Na18 (1989) 駿河海岸, 新型離岸堤, 施工
- Na21 (1990) 新型離岸堤, 魚礁効果, 現地調査
- Na22 (1990) 海域制御構造物, カルモス, 消波効果
- Na23 (1990) 海域制御構造物, 斜板堤, 消波効果・波力
- Na24 (1990) 海域制御構造物, 人工海浜, 漂砂制御
- Na25 (1991) 海域制御構造物, サーフ, 消波効果

《5》海岸環境

- Na10 (1988) 海洋性レク, 適地選定, 水温・気温
- Na11 (1988) 鹿島灘沿岸, 適地選定, 利用・保全
- Na12 (1988) 九十九里海岸, 適地選定, 利用・保全
- Na13 (1988) 湘南海岸, 適地選定, 利用・保全
- Na14 (1989) 海洋性レク, 沿岸域, 類型化
- Na15 (1989) 新潟海岸, 適地選定, 利用・保全
- Na16 (1989) 駿河海岸, 適地選定, 利用・保全
- Na17 (1989) 湘南海岸, 適地選定, 利用・保全
- Na19 (1990) 仙台湾沿岸, 沿岸域利用, 適地選定
- Na20 (1990) モルディブ, サンゴ礁, ウォーターフロント
- Na26 (1991) 海岸の雰囲気, 海岸利用, アンケート
- Na27 (1991) 九十九里海岸, MMZ構想, ケーススタディ
- Na28 (1991) 米国西海岸, 海岸事情, 比較

《7》その他

- Na 1 (1976) 濁り, グラブ, 模型実験
- Na 2 (1977) 濁り, グラブ, 模型実験

〔海洋開発論文集〕：発行年別分類

- № 1 (1976) 濁り, グラブ, 模型実験
- № 2 (1977) 濁り, グラブ, 模型実験
- № 3 (1986) 海域制御構造物, 消波効果, 研究紹介
- № 4 (1987) 海域制御構造物, 消波効果, 複合消波
- № 5 (1987) 海域制御構造物, 消波効果, 波浪場の計算
- № 6 (1988) 海洋技術総合研究施設, 洗掘, 現地調査
- № 7 (1988) 海域制御構造物, 水平板付スリット, 消波と波力
- № 8 (1988) 海域制御構造物, 消波効果, 複合消波
- № 9 (1988) 海域制御構造物, 消波効果, 漂砂制御
- №10 (1988) 海洋性レク, 適地選定, 水温・気温
- №11 (1988) 鹿島灘沿岸, 適地選定, 利用・保全
- №12 (1988) 九十九里海岸, 適地選定, 利用・保全
- №13 (1988) 湘南海岸, 適地選定, 利用・保全
- №14 (1989) 海洋性レク, 沿岸域, 類型化
- №15 (1989) 新潟海岸, 適地選定, 利用・保全
- №16 (1989) 駿河海岸, 適地選定, 利用・保全
- №17 (1989) 湘南海岸, 適地選定, 利用・保全
- №18 (1989) 駿河海岸, 新型離岸堤, 施工
- №19 (1990) 仙台湾沿岸, 沿岸域利用, 適地選定
- №20 (1990) モルディブ, サンゴ礁, ウォーターフロント
- №21 (1990) 新型離岸堤, 魚礁効果, 現地調査
- №22 (1990) 海域制御構造物, カルモス, 消波効果
- №23 (1990) 海域制御構造物, 斜板堤, 消波効果・波力
- №24 (1990) 海域制御構造物, 人工海浜, 漂砂制御
- №25 (1991) 海域制御構造物, サーフ, 消波効果
- №26 (1991) 海岸の雰囲気, 海岸利用, アンケート
- №27 (1991) 九十九里海岸, MMZ構想, ケーススタディ
- №28 (1991) 米国西海岸, 海岸事情, 比較

[海洋開発論文集] : 発行論文

- 1) 首藤伸夫・橋本 宏・宇多高明・戸沢孝吉(1976): グラブ浚渫にともなう浮遊土砂の生産について, 第7回海洋開発シンポジウム講演集, pp. 50-55.
- 2) 橋本 宏・宇多高明(1977): 海中工事に伴う汚濁の拡散予測, 第8回海洋開発シンポジウム講演集, pp. 24-32.
- 3) 宇多高明・村井禎美・藤原隆一・松尾和男(1986): 海洋空間創生のための海域制御構造物の開発, 海洋開発論文集, Vol. 2, pp. 121-126.
- 4) 宇多高明・村井禎美・藤沢康雄・増田光一(1987): 複合消波機能を有する海域制御構造物に関する実験的研究, 海洋開発論文集, Vol. 3, pp. 1-6.
- 5) 宇多高明・村井禎美・藤原隆一・松尾和男(1987): 海域制御構造物による静穏域の創出効果, 海洋開発論文集, Vol. 3, pp. 71-76.
- 6) 宇多高明・堤 博志・村井禎美・藤原隆一(1988): 杭式海洋構造物周りの洗掘実態調査, 海洋開発論文集, Vol. 4, pp. 123-128.
- 7) 高木春生・吉川雅人・田村直明・宇多高明・村井禎美(1988): 水平板付スリット型海域制御構造物の消波および波力特性, 海洋開発論文集, Vol. 4, pp. 201-206.
- 8) 藤沢康雄・宇多高明・村井禎美・増田光一・林 秀郎(1988): 複合消波構造物の水理特性に関する実験的研究, 海洋開発論文集, Vol. 4, pp. 207-212.
- 9) 宇多高明・村井禎美・山本幸次・武中信之(1988): 海域制御構造物の波, 流れ, 漂砂制御効果に関する実験的検討, 海洋開発論文集, Vol. 4, pp. 213-218.
- 10) 宇多高明・村井禎美・武中信之(1988): 海洋利用空間創成のための適地選定手法の検討, 海洋開発論文集, Vol. 4, pp. 219-224.
- 11) 宇多高明・村井禎美・松永博史・羽成英臣(1988): 鹿島灘沿岸の地理的, 海岸工学的諸条件に関する検討, 海洋開発論文集, Vol. 4, pp. 225-230.
- 12) 宇多高明・村井禎美・武中信之(1988): 海岸工学的諸条件から見た九十九里海岸の評価, 海洋開発論文集, Vol. 4, pp. 231-236.
- 13) 宇多高明・村井禎美・武中信之(1988): 湘南海岸の地理的, 海岸工学的諸条件に関する検討, 海洋開発論文集, Vol. 4, pp. 237-242.
- 14) 宇多高明・村井禎美・武中信之(1989): 海洋性レクの適性基準から見た全国沿岸域の類型化, 海洋開発論文集, Vol. 5, pp. 125-130.
- 15) 宇多高明・村井禎美・武中信之(1989): 新潟海岸の保全および利用に係る諸条件の検討, 海洋開発論文集, Vol. 5, pp. 131-136.
- 16) 宇多高明・村井禎美・館 克彦(1989): 海岸利用・海岸保全面から見た駿河海岸の特性, 海洋開発論文集, Vol. 5, pp. 137-142.
- 17) 宇多高明・村井禎美・武中信之(1989): 湘南海岸の沿岸域利用の現状と開発にかかる2, 3の問題点, 海洋開発論文集, Vol. 5, pp. 149-154.
- 18) 浦田健一・中村瑛佳・大石英男・宇多高明・村井禎美(1989): 駿河海岸における新型離岸堤の建

設とその後の追跡調査, 海洋開発論文集, Vol. 5, pp. 309-314.

- 19) 宇多高明・小俣 篤・峯松麻成(1990): 沿岸域利用から見た仙台湾沿岸の特性, 海洋開発論文集, Vol. 6, pp. 1-6.
- 20) 宇多高明(1990): サンゴ礁海岸でのウォーターフロント 利用と海岸保全, 海洋開発論文集, Vol. 6, pp. 13-18.
- 21) 宇多高明・松永博史(1990): 有脚式離岸堤の魚礁効果に関する現地調査, 海洋開発論文集, Vol. 6, pp. 31-36.
- 22) 佐藤敏文・高橋陽一・宇多高明・小俣 篤(1990): H型スリット板式海域制御構造物(CALM O S)の水理特性, 海洋開発論文集, Vol. 6, pp. 119-124.
- 23) 櫻井清一・竹内浩一・山下誠也・宇多高明・小俣 篤(1990): 大水深における斜板堤の消波特性および波力低減に関する実験的検討, 海洋開発論文集, Vol. 6, pp. 125-130.
- 24) 宇多高明・山本幸次(1990): 海域制御構造物の背後域に造られた人工海浜の安定性, 海洋開発論文集, Vol. 6, pp. 263-268.
- 25) 上野成三・佐藤明美・加藤雅也・宇多高明・小俣 篤(1991): 斜板消波潜堤(SURF)の消波効果と機能設計, 海洋開発論文集, Vol. 7, pp. 131-136.
- 26) 宇多高明・小俣 篤・富田成秋・羽成英臣(1991): 海岸の雰囲気と利用形態に関する茨城県民アンケート調査, 海洋開発論文集, Vol. 7, pp. 247-252.
- 27) 宇多高明・半田真理子(1991): マリーナ・マルチ・ゾーン構想の実海域を対象としたケーススタディ, 海洋開発論文集, Vol. 7, pp. 253-258.
- 28) 宇多高明(1991): 米国西海岸と我が国の海岸事情の比較, 海洋開発論文集, Vol. 7, pp. 271-276.

(10) 海岸実務講義集

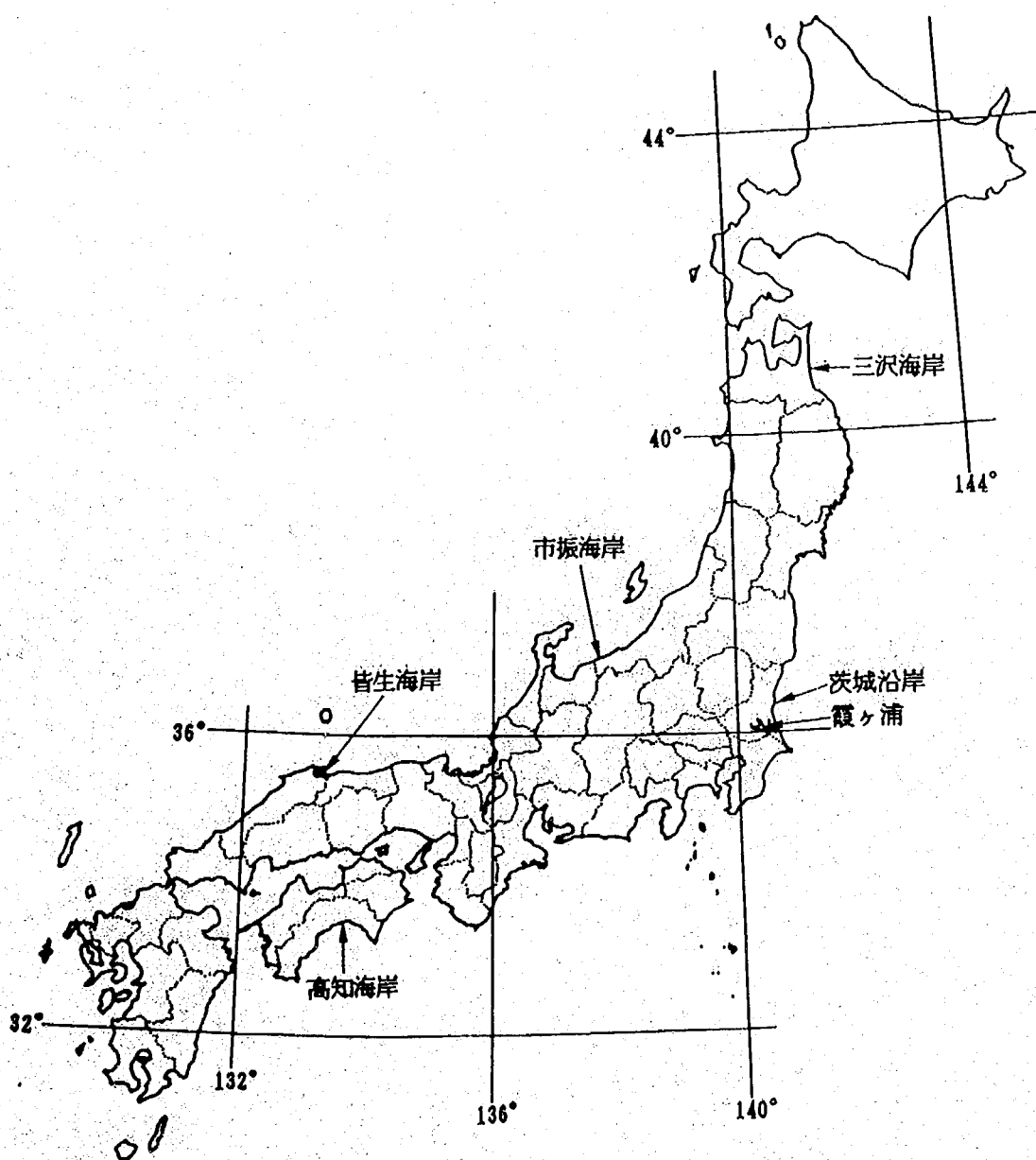


図-8 研究対象海岸の位置

17-000000 (10)



17-000000 (10)

〔海岸実務講義集〕：地名別分類

- 三沢漁港 No. 2 (1984) 沿岸漂砂, 模型実験
No. 4 (1986) 霞ヶ浦, 海岸侵食
茨城沿岸 No. 3 (1985) 海浜変形, 汀線変化
霞ヶ浦 No. 4 (1986) 三沢漁港, 海岸侵食
高知海岸 No. 7 (1989) 移動限界水深, 確率波
皆生海岸 No. 1 (1983) 深淺データ, 等深線距離
市振海岸 No. 5 (1987) 海浜変形, 沿岸漂砂

〔海岸実務講義集〕：内容別分類

《3》海浜変形

3.3 砂浜

- No. 1 (1983) 皆生海岸, 深淺データ, 等深線距離
No. 2 (1984) 三沢漁港, 沿岸漂砂, 模型実験
No. 3 (1985) 茨城沿岸, 海浜変形, 汀線変化
No. 4 (1986) 三沢海岸, 霞ヶ浦, 海岸侵食
No. 5 (1987) 市振海岸, 海浜変形, 沿岸漂砂
No. 7 (1989) 高知海岸, 移動限界水深, 確率波
No. 8 (1990) 人工リーフ, ポケットビーチ, 例え話
No. 9 (1991) ポケットビーチ, Q & A, 地形変化の限界水深

3.4 湖浜

- No. 4 (1986) 三沢海岸, 霞ヶ浦, 海岸侵食

《4》海岸構造物

4.3 人工リーフ

- No. 6 (1988) 海浜安定化工法, 人工リーフ, 海浜変形
No. 8 (1990) 人工リーフ, ポケットビーチ, 例え話

〔海岸実務講義集〕：発行年別分類

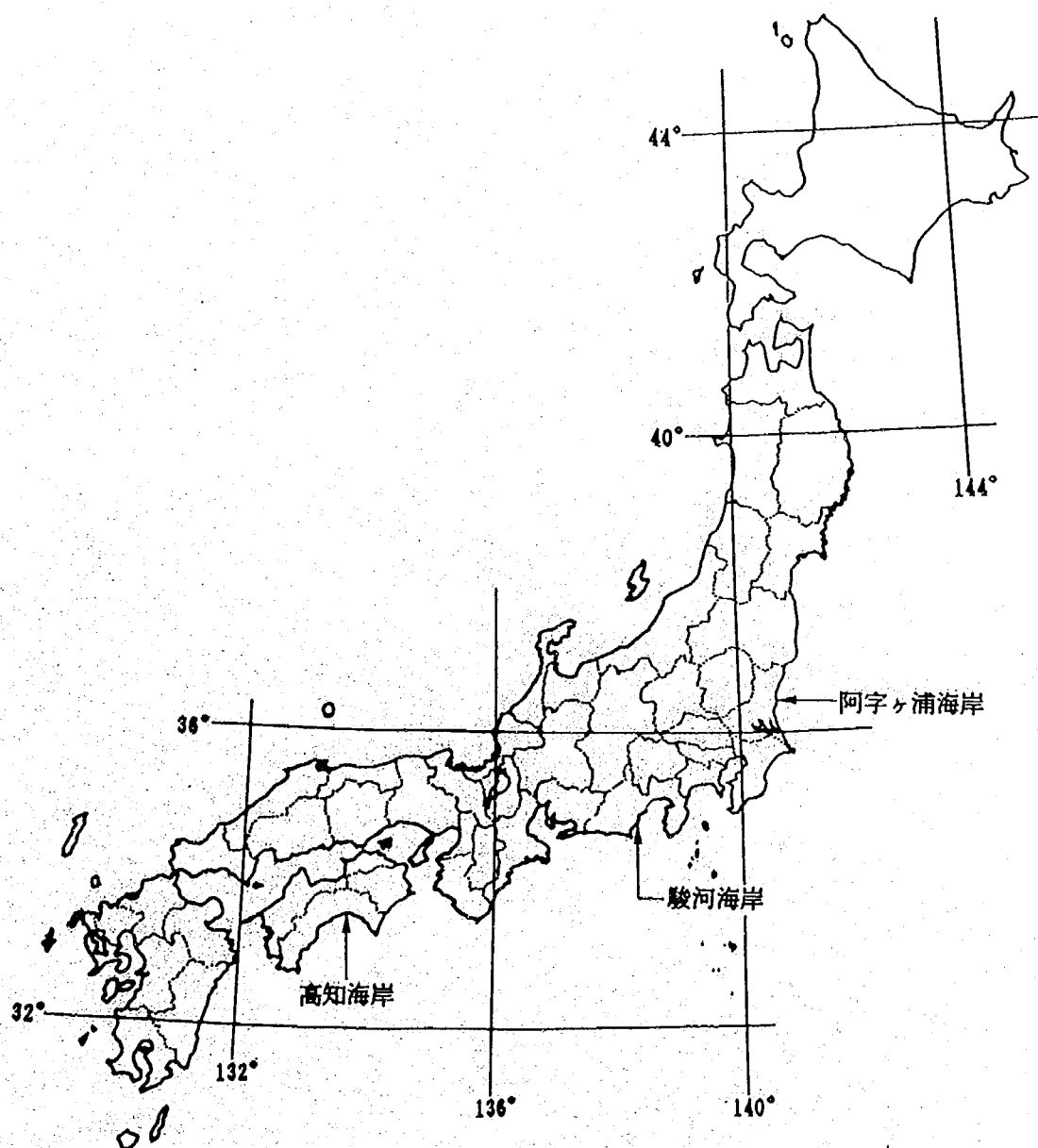
- No. 1 (1983) 皆生海岸, 深淺データ, 等深線距離
No. 2 (1984) 三沢海岸, 沿岸漂砂, 模型実験
No. 3 (1985) 茨城沿岸, 海浜変形, 汀線変化
No. 4 (1986) 三沢海岸, 霞ヶ浦, 海岸侵食
No. 5 (1987) 市振海岸, 海浜変形, 沿岸漂砂

- № 6 (1988) 海浜安定化工法, 人工リーフ, 海浜変形
№ 7 (1989) 高知海岸, 移動限界水深, 確率波
№ 8 (1990) 人工リーフ, ポケットビーチ, 例え話
№ 9 (1991) ポケットビーチ, Q & A, 地形変化の限界水深

〔海岸実務講義集〕：発行論文

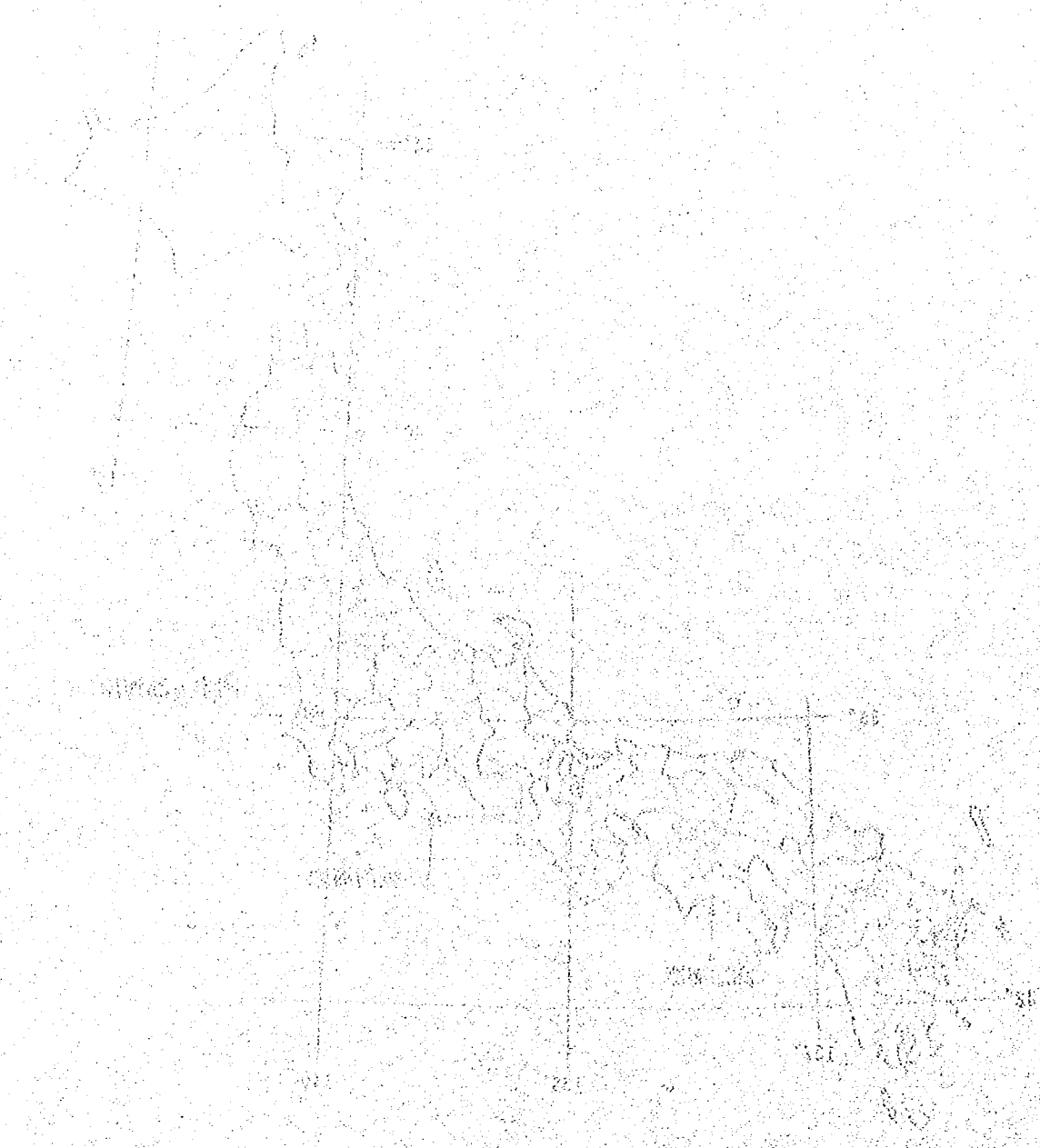
- 1) 宇多高明(1983)：深淺測量データの一解析法，第15回海岸実務講義集，pp. 27-34.
- 2) 宇多高明(1984)：沿岸漂砂遮断構造物による海浜変形，第16回海岸実務講義集，pp. 17-26.
- 3) 宇多高明(1985)：茨城県沿岸の海岸侵食について，第17回海岸実務講義集，pp. 45-58.
- 4) 宇多高明(1986)：侵食，堆積地形の断面特性について，第18回海岸実務講義集，pp. 33-45.
- 5) 宇多高明(1987)：新潟県市振海岸の侵食実態，第19回海岸実務講義集，pp. 47-58.
- 6) 宇多高明(1988)：海浜安定化工法について－人工リーフによる海浜の安定化－，第20回海岸実務講義集，pp. 71-81.
- 7) 宇多高明(1989)：波による移動限界水深を定める代表波の選定法，第21回海岸実務講義集，pp. 25-35.
- 8) 宇多高明(1990)：海岸技術の平易な解説(1)，第22回海岸実務講義集，pp. 27-34.
- 9) 宇多高明(1991)：海岸技術の平易な解説(2)，第23回海岸実務講義集，pp. 21-36.

(11) 海 岸



図－9 研究対象海岸の位置

11 08 (11)



11 08 (11)

〔海岸〕：地名別分類

阿字ヶ浦海岸	No. 2 (1983) リモセン, 海浜流
	No. 3 (1984) 海浜流, 現地観測
駿河海岸	No. 4 (1985) 三沢海岸, 沿岸漂砂
	No. 5 (1985) 海洋技術総合研究施設, 研究紹介
高知海岸	No.15 (1990) 海岸侵食, 沿岸漂砂
アメリカ	No.18 (1991) C S' 9 1, 砂嘴
台北	No. 9 (1987) 研究紹介, I C C E
西オーストラリア	No.17 (1991) 共同研究, ウェーブロック
モルディブ	No.10 (1988) 高潮災害, 被災状況
	No.13 (1989) バリ島, サンゴ礁
バリ島	No.13 (1989) モルディブ, サンゴ礁
米国の海岸	No. 1 (1982) 現地調査, 海浜変形モデル

〔海岸〕：内容別分類

《1》海岸調査

1.2 海浜流

№ 2 (1983) 阿字ヶ浦海岸, リモセン, 海浜流

№ 3 (1984) 阿字ヶ浦海岸, 海浜流, 現地観測

1.3 リモセン

№ 2 (1983) 阿字ヶ浦海岸, リモセン, 海浜流

《2》波浪 (津波含む)

№10 (1988) モルディブ, 高潮災害, 被災状況

№13 (1989) バリ島, モルディブ, サンゴ礁

《3》海浜変形

3.2 砂嘴

№18 (1991) アメリカ, CS'91, 砂嘴

3.3 砂浜

№ 4 (1985) 駿河海岸, 三沢海岸, 沿岸漂砂

№14 (1990) 海岸侵食, 全国実態, 分類

№15 (1990) 高知海岸, 海岸侵食, 沿岸漂砂

№19 (1991) 海岸工学, シリーズ, 海浜変形

《4》海岸構造物

4.2 離岸堤・消波堤

№ 7 (1986) 直枝, 離岸堤, 全国実態

4.3 人工リーフ

№ 8 (1987) 人工リーフ, 設計法, 海岸保全

4.7 海域制御構造物

№ 5 (1985) 駿河海岸, 海洋技術総合研究施設, 研究紹介

№ 6 (1986) 海域制御構造物, 消波効果, スリット

№11 (1988) 海域制御構造物, 研究紹介, 消波効果

№16 (1991) MMZ, 総プロ, 研究紹介

《5》海岸環境

№12 (1989) 海洋性レク, 沿岸域, 分類

№13 (1989) バリ島, モルディブ, サンゴ礁

《6》数値モデル

6.1 汀線変化モデル

No 1 (1982) 米国の海岸, 現地調査, 海浜変形モデル

《7》その他

No 9 (1987) 台北, I C C E, 研究紹介

No17 (1991) 西オーストラリア, 共同研究, ウェーブロック

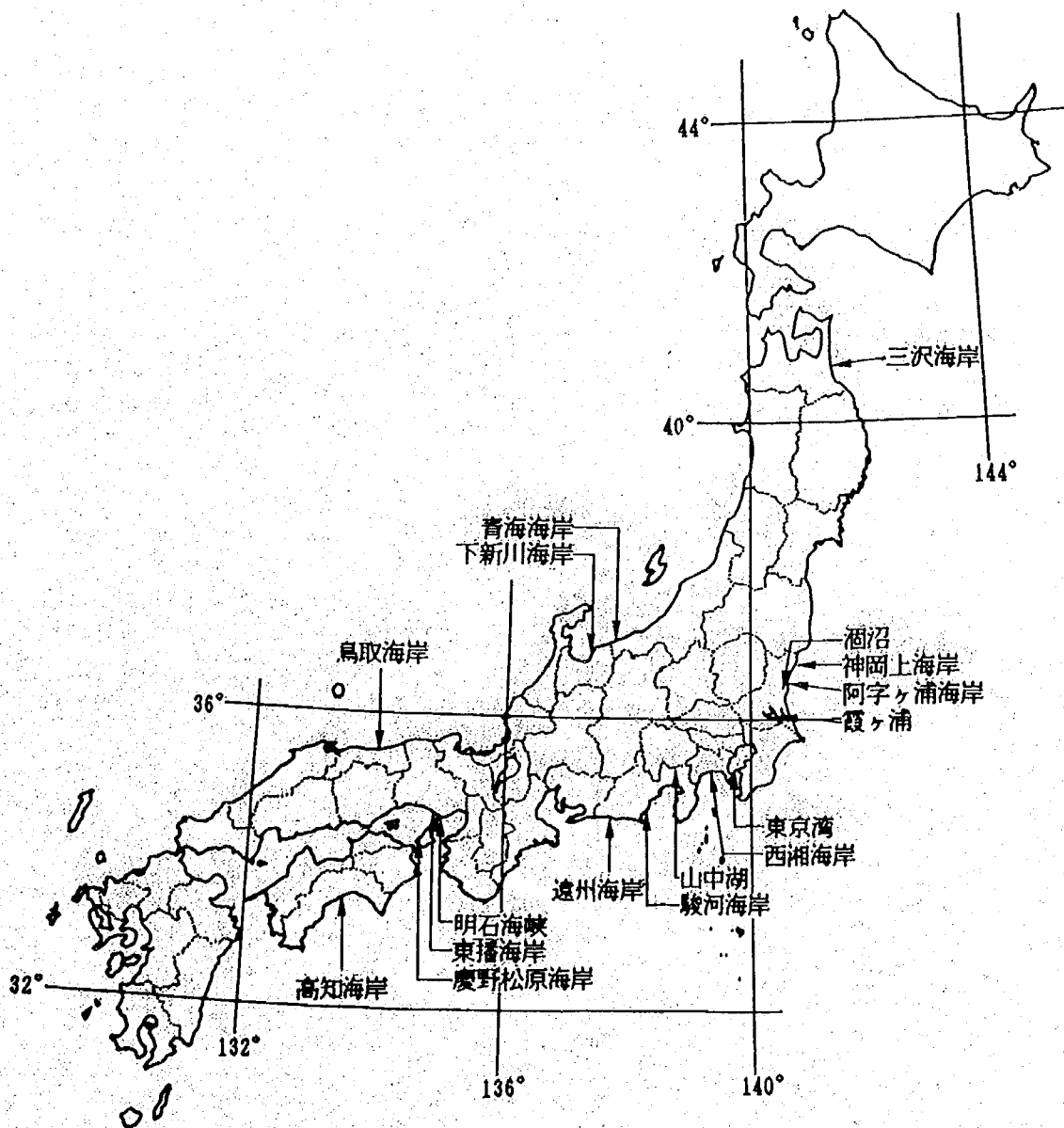
〔海岸〕：発行年別分類

- No. 1 (1982) 米国の海岸, 現地調査, 海浜変形モデル
- No. 2 (1983) 阿字ヶ浦海岸, リモセン, 海浜流
- No. 3 (1984) 阿字ヶ浦海岸, 海浜流, 現地観測
- No. 4 (1985) 駿河海岸, 三沢海岸, 沿岸漂砂
- No. 5 (1985) 駿河海岸, 海洋技術総合研究施設, 研究紹介
- No. 6 (1986) 海域制御構造物, 消波効果, スリット
- No. 7 (1986) 直技, 離岸堤, 全国実態
- No. 8 (1987) 人工リーフ, 設計法, 海岸保全
- No. 9 (1987) 台北, I C C E, 研究紹介
- No. 10 (1988) モルディブ, 高潮災害, 被災状況
- No. 11 (1988) 海域制御構造物, 研究紹介, 消波効果
- No. 12 (1989) 海洋性レク, 沿岸域, 分類
- No. 13 (1989) バリ島, モルディブ, サンゴ礁
- No. 14 (1990) 海岸侵食, 全国実態, 分類
- No. 15 (1990) 高知海岸, 海岸侵食, 沿岸漂砂
- No. 16 (1991) MMZ, 総プロ, 研究紹介
- No. 17 (1991) 西オーストラリア, 共同研究, ウェーブロック
- No. 18 (1991) アメリカ, C S ' 9 1, 砂嘴
- No. 19 (1991) 海岸工学, シリーズ, 海浜変形

[海岸] : 発行論文

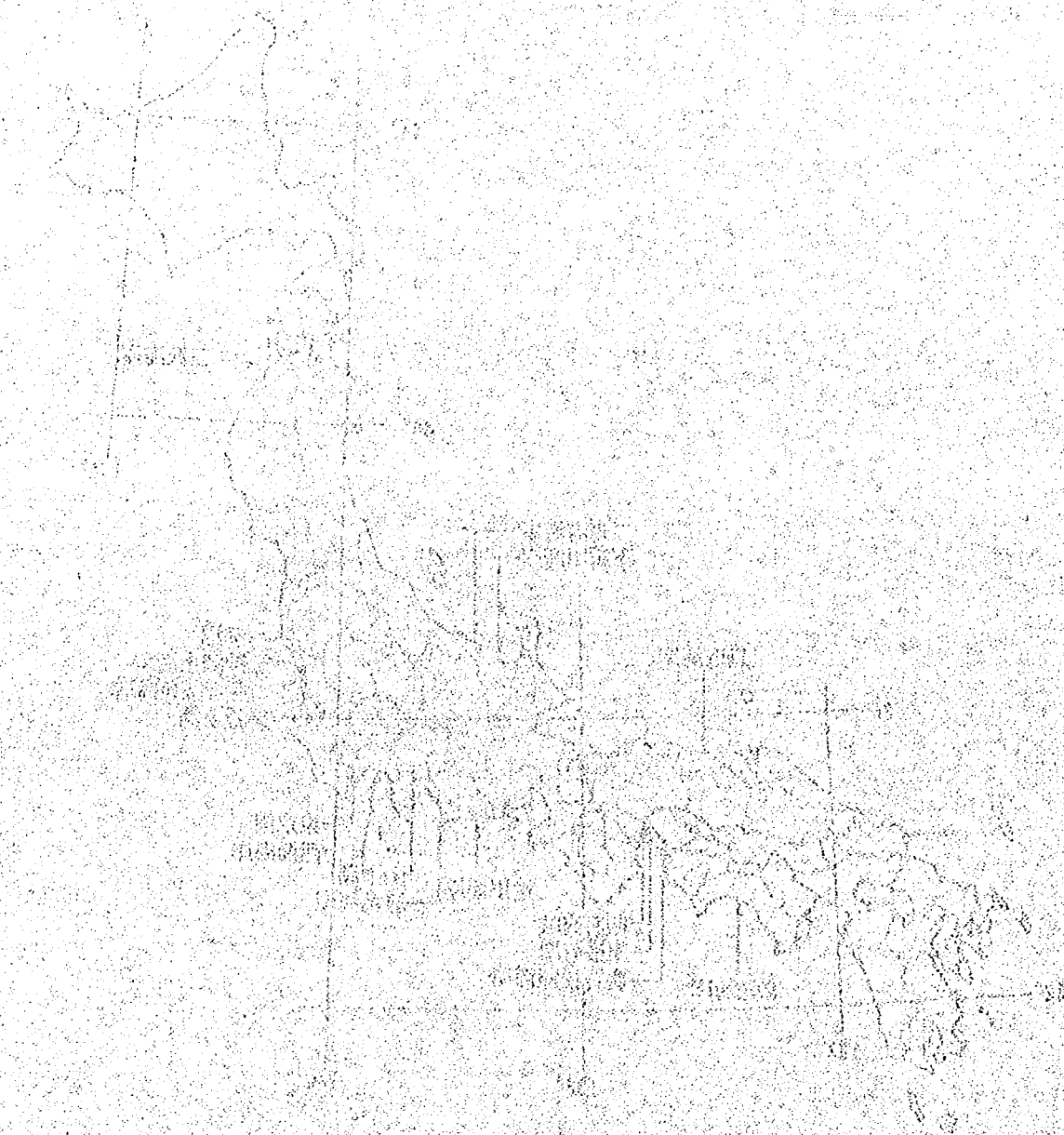
- 1) 宇多高明(1982): 米国の海岸の現地調査と新しい海浜変形モデルについて, 海岸, Vol. 22, pp. 58-65.
- 2) 宇多高明(1983): リモートセンシング技術の漂砂観測への応用, 海岸, Vol. 23, pp. 56-73.
- 3) 宇多高明(1984): 阿字ヶ浦における海浜流の現地観測, 海岸, Vol. 24, pp. 243-255.
- 4) 宇多高明(1985): 沿岸漂砂阻止構造物周辺の海浜変形, 海岸, Vol. 25, pp. 33-42.
- 5) 宇多高明・小俣 篤(1985): 海洋技術総合研究施設について, 海岸, Vol. 25, pp. 193-195.
- 6) 宇多高明(1986): 海域制御構造物の研究開発, 海岸, Vol. 26, pp. 48-57.
- 7) 清治真人・宇多高明・田中茂信(1986): 建設省技術研究会指定課題－離岸堤の効果及び安定性に関する研究－, 海岸, Vol. 26, pp. 158-172.
- 8) 宇多高明・小俣 篤(1987): 人工リーフの設計の考え方, 海岸, Vol. 27, pp. 67-76.
- 9) 宇多高明(1987): 第20回海岸工学国際会議に参加して, 海岸, Vol. 27, pp. 86-88.
- 10) 宇多高明(1988): モルディブにおける高潮災害, 海岸, Vol. 28, pp. 41-50.
- 11) 宇多高明・村井禎美(1988): 海域制御構造物の開発の現状, 海岸, Vol. 28, pp. 73-82.
- 12) 宇多高明・村井禎美(1989): 海洋性レクから見た全国沿岸域の開発ポテンシャル, 海岸, Vol. 29, pp. 10-20.
- 13) 宇多高明(1989): バリ島およびモルディブのサンゴ礁海岸における海岸災害, 海岸, Vol. 29, pp. 44-50.
- 14) 宇多高明(1990): 海岸侵食の全国実態と今後の対策のあり方について, 海岸, Vol. 30, pp. 14-20.
- 15) 宇多高明・山口 修・原 俊哉(1990): 台風8911, 8912号による高知海岸の海岸決壊, 海岸, Vol. 30, pp. 135-140.
- 16) 宇多高明・小俣 篤(1991): 海洋利用空間の創成・保全技術の開発研究の成果と今後の展望, 海岸, Vol. 31, pp. 12-19.
- 17) 宇多高明(1991): 西オーストラリア大学滞在記, 海岸, Vol. 31, pp. 47-51.
- 18) 宇多高明(1991): Coastal Sediments' 91報告とEdiz Hook 砂嘴の侵食調査, 海岸, Vol. 31, No.2, pp. 50-55.
- 19) 宇多高明(1991): 現場に役立つ海岸工学(その1), 海岸, Vol. 31, No.2, pp. 100-106.

(12) 年次学術講演会講演概要集



図一10 研究対象海岸の位置

THEORY OF THE EARTH



THEORY OF THE EARTH

〔年次学術講演会講演概要集〕：地名別分類

三沢海岸	No. 9 (1981) 海浜変形, 汀線変化
神岡上海岸	No.81 (1991) 海岸侵食, 汀線変化
潤沼	No.21 (1985) 親沢鼻, 砂嘴 No.24 (1986) 親沢鼻, アーマーコート
阿字ヶ浦海岸	No. 2 (1974) 現地観測, 蛍光砂調査 No. 5 (1979) リモセン, 水温測定 No. 6 (1979) 底質中央粒径, 長期変動 No. 8 (1980) 海水浴場, 水温・気温 No.10 (1982) 熱拡散係数, 水温 No.14 (1983) 汀線変化, 潮汐 No.38 (1987) 浮遊砂濃度, 現地観測 No.48 (1988) 現地観測, 浮遊砂
霞ヶ浦	No.15 (1984) 砂嘴, 湖浜変形 No.35 (1987) 排水樋管, 湖浜変形
東京湾	No. 4 (1978) 潮流, 現地観測
西湘海岸	No.11 (1982) 海浜変形, 汀線変化
山中湖	No.37 (1987) 湖浜変形, 鉤状分岐砂嘴 No.51 (1988) 湖浜地形, 砂嘴
駿河海岸	No.20 (1985) 海浜変形, 移動高 No.23 (1985) 海浜変形, 汀線変化モデル No.26 (1986) 海浜変形, 移動高 No.69 (1990) 海浜変形, 汀線変化 No.70 (1990) 海浜流, 模型実験
駿河湾西岸	No.64 (1989) 海浜変形, 汀線変化
遠州海岸	No.63 (1989) 赤羽根漁港, 海浜変形
明石海峡	No.22 (1985) 海浜変形, 沿岸漂砂
東播海岸	No.17 (1984) 養浜, うちあげ高
慶野松原海岸	No.36 (1987) 人工リーフ, 海浜変形
高知海岸	No.50 (1988) バー地形, 長期変動 No.62 (1989) 人工リーフ, 模型実験
鳥取海岸	No.49 (1988) 地形変化, 底質分布
下新川海岸	No.25 (1986) 海浜変形, 砂嘴
青海海岸	No.77 (1991) 緩傾斜堤, 施工法

[年次学術講演会講演概要集] : 内容別分類

《1》海岸調査

1.1 漂砂

Na 1 (1973) 振動流, 理論計算, 砂澁

Na 2 (1974) 阿字ヶ浦海岸, 現地観測, 蛍光砂調査

Na38 (1987) 阿字ヶ浦海岸, 浮遊砂濃度, 現地観測

Na48 (1988) 阿字ヶ浦海岸, 現地観測, 浮遊砂

1.2 海浜流

Na13 (1983) 湖, 海浜流, 理論計算

Na70 (1990) 駿河海岸, 海浜流, 模型実験

1.3 リモセン

Na 5 (1979) 阿字ヶ浦海岸, リモセン, 水温測定

Na10 (1982) 阿字ヶ浦海岸, 熱拡散係数, 水温

Na16 (1984) ランドサット, 濁水流出, 測得率

《2》波浪 (津波含む)

Na17 (1984) 東播海岸, 養浜, うちあげ高

Na18 (1985) 秋田沿岸, 日本海中部地震, 護岸

Na39 (1988) 非線形長波, マッハシステム, エッジボア

《3》海浜変形

3.2 砂嘴

Na15 (1984) 霞ヶ浦, 砂嘴, 湖浜変形

Na21 (1985) 瀬沼, 親沢鼻, 砂嘴

Na25 (1986) 下新川海岸, 海浜変形, 砂嘴

Na37 (1987) 山中湖, 湖浜変形, 鉤状分岐砂嘴

Na51 (1988) 山中湖, 湖浜地形, 砂嘴

Na68 (1990) 砂嘴, 模型実験, 海浜変形

3.3 砂浜

Na 6 (1979) 阿字ヶ浦海岸, 底質中央粒径, 長期変動

Na 7 (1980) 岸沖漂砂, 海浜変形タイプ, 模型実験

Na 9 (1981) 三沢海岸, 海浜変形, 汀線変化

Na11 (1982) 西湘海岸, 海浜変形, 汀線変化

Na12 (1982) 模型実験, 突堤, 海浜変形

Na14 (1983) 阿字ヶ浦海岸, 汀線変化, 潮汐

Na19 (1985) 沿岸漂砂, 海岸侵食, 限界水深

- №20 (1985) 駿河海岸, 海浜変形, 移動高
- №22 (1985) 明石海峡, 海浜変形, 沿岸漂砂
- №23 (1985) 駿河海岸, 海浜変形, 汀線変化モデル
- №25 (1986) 下新川海岸, 海浜変形, 砂嘴
- №26 (1986) 駿河海岸, 海浜変形, 移動高
- №36 (1987) 慶野松原海岸, 人工リーフ, 海浜変形
- №49 (1988) 鳥取海岸, 地形変化, 底質分布
- №50 (1988) 高知海岸, バー地形, 長期変動
- №53 (1989) 海岸護岸, 前浜消失, 反射波
- №62 (1989) 高知海岸, 人工リーフ, 模型実験
- №63 (1989) 遠州海岸, 赤羽根漁港, 海浜変形
- №64 (1989) 駿河湾西岸, 海浜変形, 汀線変化
- №68 (1990) 砂嘴, 模型実験, 海浜変形
- №69 (1990) 駿河海岸, 海浜変形, 汀線変化
- №81 (1991) 神岡上海岸, 海岸侵食, 汀線変化

3.4 湖浜

- №13 (1983) 湖, 海浜流, 理論計算
- №15 (1984) 霞ヶ浦, 砂嘴, 湖浜変形
- №21 (1985) 涸沼, 親沢鼻, 砂嘴
- №24 (1986) 涸沼, 親沢鼻, アーマーコート
- №35 (1987) 霞ヶ浦, 排水樋管, 湖浜変形
- №37 (1987) 山中湖, 湖浜変形, 鉤状分岐砂嘴
- №51 (1988) 山中湖, 湖浜地形, 砂嘴

《4》海岸構造物

4.1 突堤

- №12 (1982) 模型実験, 突堤, 海浜変形

4.3 人工リーフ

- №36 (1987) 慶野松原海岸, 人工リーフ, 海浜変形
- №62 (1989) 高知海岸, 人工リーフ, 模型実験
- №66 (1990) 人工リーフ, 模型実験, 養浜

4.5 養浜・サンドバイパス

- №17 (1984) 東播海岸, 養浜, うちあげ高
- №66 (1990) 人工リーフ, 模型実験, 養浜

4.6 緩傾斜堤

№56 (1989) 緩傾斜堤, うちあげ, 消波効果

№77 (1991) 青海海岸, 緩傾斜堤, 施工法

4.7 海域制御構造物

№27 (1987) 海域制御構造物, スリット, 消波効果

№28 (1987) 海域制御構造物, フレキシブルマウンド, 消波効果

№29 (1987) 海域制御構造物, 空気密閉式カーテンウォール, 消波効果

№30 (1987) 海域制御構造物, 透過水平板付きスリット, 消波効果

№31 (1987) 海域制御構造物, 空気潜袋, 消波効果

№32 (1987) 海域制御構造物, レンズマウンド, 消波効果

№33 (1987) 海域制御構造物, 海水交換, 海浜流

№34 (1987) 海洋技術総合研究施設, 洗掘, 現地調査

№40 (1988) 海域制御構造物, スリット, 波力

№41 (1988) 海域制御構造物, 研究紹介, 研究開発フロー

№42 (1988) 海域制御構造物, 不規則波, 消波効果

№43 (1988) 海域制御構造物, フレキシブルマウンド, 地震時付加質量

№44 (1988) 海域制御構造物, 鋼板セル, 消波効果

№45 (1988) 海域制御構造物, 複合消波, 消波効果

№46 (1988) 海域制御構造物, サーフ, 滑動実験

№47 (1988) 海域制御構造物, サーフ, 消波効果

№52 (1988) 海域制御構造物, 斜板消波潜堤, 洗掘

№54 (1989) 海域制御構造物, フレキシブルマウンド, 消波効果

№57 (1989) 海域制御構造物, スリット, 波力

№58 (1989) 海域制御構造物, サーフ, 波力

№59 (1989) 海域制御構造物, サーフ, 安定性

№60 (1989) 海域制御構造物, カルモス, 波力

№61 (1989) 海域制御構造物, 複合消波型, 消波効果

№65 (1990) 海域制御構造物, 鋼板セル, 耐力

№67 (1990) 海域制御構造物, レンズマウンド, 漂砂制御

№71 (1990) 海域制御構造物, サーフ, 消波効果

№72 (1990) 海域制御構造物, フレキシブルマウンド, 消波効果

№73 (1990) 海域制御構造物, スリット, 波浪場の計算

№75 (1990) 海域制御構造物, サーフ, 波力

№76 (1991) 新型離岸堤, 構造物の応答, 現地観測

№78 (1991) 新型離岸堤, 波力, 現地観測

《5》海岸環境

No.74 (1990) 海岸利用, 現地調査, 海岸環境

《6》数値モデル

6.1 汀線変化モデル

No.23 (1985) 駿河海岸, 海浜変形, 汀線変化モデル

6.3 等深線変化モデル

No.79 (1991) 等深線変化モデル, 護岸, 数値計算

No.80 (1991) 等深線変化モデル, 突堤, 数値計算

6.5 潮流・津波モデル

No.55 (1989) 数値計算, 波浪変形, 砕波帯

《7》その他

No. 3 (1977) 乱れ, 浮遊, 実験模型

No. 4 (1978) 東京湾, 潮流, 現地観測

No. 8 (1980) 阿字ヶ浦海岸, 海水浴場, 水温・気温

〔年次学術講演会講演概要集〕：発行年別分類

- No. 1 (1973) 振動流, 理論計算, 砂漣
- No. 2 (1974) 阿字ヶ浦海岸, 現地観測, 蛍光砂調査
- No. 3 (1977) 乱れ, 浮遊, 実験模型
- No. 4 (1978) 東京湾, 潮流, 現地観測
- No. 5 (1979) 阿字ヶ浦海岸, リモセン、水温測定
- No. 6 (1979) 阿字ヶ浦海岸, 底質中央粒径, 長期変動
- No. 7 (1980) 岸沖漂砂, 海浜変形タイプ, 模型実験
- No. 8 (1980) 阿字ヶ浦海岸, 海水浴場, 水温・気温
- No. 9 (1981) 三沢海岸, 海浜変形, 汀線変化
- No. 10 (1982) 阿字ヶ浦海岸, 熱拡散係数, 水温
- No. 11 (1982) 西湘海岸, 海浜変形, 汀線変化
- No. 12 (1982) 模型実験, 突堤, 海浜変形
- No. 13 (1983) 湖, 海浜流, 理論計算
- No. 14 (1983) 阿字ヶ浦海岸, 汀線変化, 潮汐
- No. 15 (1984) 霞ヶ浦, 砂嘴, 湖浜変形
- No. 16 (1984) ランドサット, 濁水流出, 測得率
- No. 17 (1984) 東播海岸, 養浜, うちあげ高
- No. 18 (1985) 秋田沿岸, 日本海中部地震津波, 護岸
- No. 19 (1985) 沿岸漂砂, 海岸侵食, 限界水深
- No. 20 (1985) 駿河海岸, 海浜変形, 移動高
- No. 21 (1985) 渦沼, 親沢鼻, 砂嘴
- No. 22 (1985) 明石海峡, 海浜変形, 沿岸漂砂
- No. 23 (1985) 駿河海岸, 海浜変形, 汀線変化モデル
- No. 24 (1986) 渦沼, 親沢鼻, アーマーコート
- No. 25 (1986) 下新川海岸, 海浜変形, 砂嘴
- No. 26 (1986) 駿河海岸, 海浜変形, 移動高
- No. 27 (1987) 海域制御構造物, スリット, 消波効果
- No. 28 (1987) 海域制御構造物, フレキシブルマウンド, 消波効果
- No. 29 (1987) 海域制御構造物, 空気密閉式カーテンウォール, 消波効果
- No. 30 (1987) 海域制御構造物, 透過水平板付きスリット, 消波効果
- No. 31 (1987) 海域制御構造物, 空気潜袋, 消波効果
- No. 32 (1987) 海域制御構造物, レンズマウンド, 消波効果
- No. 33 (1987) 海域制御構造物, 海水交換, 海浜流
- No. 34 (1987) 海洋技術総合研究施設, 洗掘, 現地調査
- No. 35 (1987) 霞ヶ浦, 排水樋管, 湖浜変形

- Na.36 (1987) 慶野松原海岸, 人工リーフ, 海浜変形
- Na.37 (1987) 山中湖, 湖浜変形, 鉤状分岐砂嘴
- Na.38 (1987) 阿字ヶ浦海岸, 浮遊砂濃度, 現地観測
- Na.39 (1988) 非線形長波, マッハシステム, エッジボア
- Na.40 (1988) 海域制御構造物, スリット, 波力
- Na.41 (1988) 海域制御構造物, 研究紹介, 研究開発フロー
- Na.42 (1988) 海域制御構造物, 不規則波, 消波効果
- Na.43 (1988) 海域制御構造物, フレキシブルマウンド, 地震時付加質量
- Na.44 (1988) 海域制御構造物, 鋼板セル, 消波効果
- Na.45 (1988) 海域制御構造物, 複合消波, 消波効果
- Na.46 (1988) 海域制御構造物, サーフ, 滑動実験
- Na.47 (1988) 海域制御構造物, サーフ, 消波効果
- Na.48 (1988) 阿字ヶ浦海岸, 現地観測, 浮遊砂
- Na.49 (1988) 鳥取海岸, 地形変化, 底質分布
- Na.50 (1988) 高知海岸, バー地形, 長期変動
- Na.51 (1988) 山中湖, 湖浜地形, 砂嘴
- Na.52 (1988) 海域制御構造物, 斜板消波潜堤, 洗掘
- Na.53 (1989) 海岸護岸, 前浜消失, 反射波
- Na.54 (1989) 海域制御構造物, フレキシブルマウンド, 消波効果
- Na.55 (1989) 数値計算, 波浪変形, 碎波帯
- Na.56 (1989) 緩傾斜堤, うちあげ, 消波効果
- Na.57 (1989) 海域制御構造物, スリット, 波力
- Na.58 (1989) 海域制御構造物, サーフ, 波力
- Na.59 (1989) 海域制御構造物, サーフ, 安定性
- Na.60 (1989) 海域制御構造物, カルモス, 波力
- Na.61 (1989) 海域制御構造物, 複合消波, 消波効果
- Na.62 (1989) 高知海岸, 人工リーフ, 模型実験
- Na.63 (1989) 遠州海岸, 赤羽根漁港, 海浜変形
- Na.64 (1989) 駿河湾西岸, 海浜変形, 汀線変化
- Na.65 (1990) 海域制御構造物, 鋼板セル, 耐力
- Na.66 (1990) 人工リーフ, 模型実験, 養浜
- Na.67 (1990) 海域制御構造物, レンズマウンド, 漂砂制御
- Na.68 (1990) 砂嘴, 模型実験, 海浜変形
- Na.69 (1990) 駿河海岸, 海浜変形, 汀線変化
- Na.70 (1990) 駿河海岸, 海浜流, 模型実験
- Na.71 (1990) 海域制御構造物, サーフ, 消波効果

- No.72 (1990) 海域制御構造物, フレキシブルマウンド, 消波効果
No.73 (1990) 海域制御構造物, スリット, 波浪場の計算
No.74 (1990) 海岸利用, 現地調査, 海岸環境
No.75 (1990) 海域制御構造物, サーフ, 波力
No.76 (1991) 新型離岸堤, 構造物の応答, 現地観測
No.77 (1991) 青海海岸, 緩傾斜堤, 施工法
No.78 (1991) 新型離岸堤, 波力, 現地観測
No.79 (1991) 等深線変化モデル, 護岸, 数値計算
No.80 (1991) 等深線変化モデル, 突堤, 数値計算
No.81 (1991) 神岡上海岸, 海岸侵食, 汀線変化

【年次学術講演会講演概要集】：発行論文

- 1) 宇多高明・日野幹雄(1973)：波状曲面上の振動層流解，第28回年次学術講演会講演概要集，pp. 90-91.
- 2) 橋本 宏・白波瀬正道・宇多高明(1974)：栈橋を利用した漂砂観測，第29回年次学術講演会講演概要集，pp. 101-102.
- 3) 橋本 宏・宇多高明(1977)：乱れと浮遊に関する実験，第32回年次学術講演会講演概要集，pp. 1-2.
- 4) 橋本 宏・宇多高明(1978)：東京湾における潮流・密度の現地観測，第33回年次学術講演会講演概要集，pp. 794-795.
- 5) 橋本 宏・宇多高明(1979)：リモートセンシングによる砕波帯の水温分布の測定，第34回年次学術講演会講演概要集，pp. 551-552.
- 6) 橋本 宏・宇多高明・足立 茂(1979)：阿字ヶ浦における底質特性，第34回年次学術講演会講演概要集，pp. 657-658.
- 7) 宇多高明・橋本 宏(1980)：岸沖漂砂による地形変化の無次元表示について，第35回年次学術講演会講演概要集，pp. 97-98.
- 8) 竹淵 勉・宇多高明・橋本 宏(1980)：海水浴場の持つ自然特性に関する一考察，第35回年次学術講演会講演概要集，pp. 103-104.
- 9) 橋本 宏・宇多高明・竹淵 勉(1981)：三沢漁港周辺の海浜変形の解析（第2報），第36回年次学術講演会講演概要集，pp. 839-840.
- 10) 橋本 宏・宇多高明・新行内利隆(1982)：海岸線付近における陸－海間の熱拡散の観測，第37回年次学術講演会講演概要集，pp. 339-340.
- 11) 宇多高明(1982)：等深線変化の解析による漂砂の実態把握，第37回年次学術講演会講演概要集，pp. 737-738.
- 12) 橋本 宏・宇多高明・竹淵 勉(1982)：等深線長の変化と海浜断面形状の変化の関係について，第37回年次学術講演会講演概要集，pp. 739-740.
- 13) 宇多高明・山本幸次(1983)：円形湖内における海浜循環流，第38回年次学術講演会講演概要集，pp. 179-180.
- 14) 橋本 宏・宇多高明・竹淵 勉(1983)：潮位変化が岸沖方向漂砂に及ぼす影響，第38回年次学術講演会講演概要集，pp. 203-204.
- 15) 宇多高明・古川博一・竹淵 勉(1984)：湖内にできた砂嘴の変形過程，第39回年次学術講演会講演概要集，pp. 187-188.
- 16) 宇多高明・古川博一・竹淵 勉(1984)：ランドサットによる濁水流出の測得率，第39回年次学術講演会講演概要集，pp. 205-206.
- 17) 宇多高明・山本幸次(1984)：養浜による打ち上げ高減少効果，第39回年次学術講演会講演概要集，pp. 343-344.
- 18) 宇多高明・小俣 篤・横山揚久(1985)：津波による中小河川の護岸倒壊に関する実験的考察，第

40回年次学術講演会講演概要集, pp. 593-594.

- 19) 宇多高明・小俣 篤(1985): 沿岸漂砂による侵食限界水深の算定, 第40回年次学術講演会講演概要集, pp. 603-604.
- 20) 宇多高明・古川博一・筒井保博(1985): 現地海岸における平均海浜断面の決定法, 第40回年次学術講演会講演概要集, pp. 607-608.
- 21) 宇多高明・竹淵 勉・山本幸次(1985): 湖内にできた砂嘴の変形について, 第40回年次学術講演会講演概要集, pp. 621-622.
- 22) 伊藤新一郎・北川 信・宇多高明(1985): 明石海峡松帆崎周辺の海浜地形変化特性に関する一考察, 第40回年次学術講演会講演概要集, pp. 625-626.
- 23) 宇多高明・山本幸次(1985): 漂砂阻止構造物下手の海浜変形, 第40回年次学術講演会講演概要集, pp. 641-642.
- 24) 宇多高明・酒井佳治(1986): アーマーコートによる侵食防止効果, 第41回年次学術講演会講演概要集, pp. 573-574.
- 25) 宇多高明・山本幸次(1986): 下新川海岸の地形学特性について, 第41回年次学術講演会講演概要集, pp. 585-586.
- 26) 中山 修・宇多高明(1986): 駿河海岸南部における海浜地形変化特性, 第41回年次学術講演会講演概要集, pp. 587-588.
- 27) 萩原運弘・宇多高明・村井禎美・岡 幸夫(1987): スリット型海域制御構造物の透過および反射特性に関する実験的研究, 第42回年次学術講演会講演概要集, pp. 530-531.
- 28) 田中正博・三俣正和・清川哲志・大山 巧・宇多高明・村井禎美(1987): 可撓性膜人工礁による波浪の制御特性, 第42回年次学術講演会講演概要集, pp. 534-535.
- 29) 大山 巧・清川哲志・宇多高明・村井禎美(1987): 空気密閉式カーテンウォール堤の反射率低減に関する模型実験, 第42回年次学術講演会講演概要集, pp. 538-539.
- 30) 国栖広志・福山博信・宇多高明・村井禎美(1987): 透過水平板付スリット堤の消波特性, 第42回年次学術講演会講演概要集, pp. 550-551.
- 31) 本田陽一・湊隆次郎・沖 政和・宇多高明・村井禎美(1987): 空気潜袋式海域制御構造物の消波特性, 第42回年次学術講演会講演概要集, pp. 562-563.
- 32) 松永博史・芳田利春・倉田克彦・宇多高明・村井禎美(1987): 球面浅瀬の消波特性について, 第42回年次学術講演会講演概要集, pp. 564-565.
- 33) 宇多高明・村井禎美・松尾和男(1987): 海域制御構造物の海水交換機能に関する実験, 第42回年次学術講演会講演概要集, pp. 570-571.
- 34) 宇多高明・堤 博志・村井禎美・藤原隆一(1987): 駿河湾海洋施設周りの洗掘実態, 第42回年次学術講演会講演概要集, pp. 622-623.
- 35) 宇多高明・酒井佳治・山本幸次(1987): 霞ヶ浦浮島1号排水樋管周りの湖浜地形変化, 第42回年次学術講演会講演概要集, pp. 628-629.
- 36) 宇多高明・酒井佳治(1987): 慶野松原海岸人工リーフ周りの海浜変形, 第42回年次学術講演会講演概要集, pp. 634-635.

- 演概要集, pp. 634-635.
- 37) 宇多高明・山本幸次・酒井佳治(1987): 鉤状分岐砂嘴の発達過程に関する実験的研究, 第42回年次学術講演会講演概要集, pp. 642-643.
- 38) 宇多高明・小俣 篤・竹渕 勉(1987): 一波で観測した浮遊砂濃度の鉛直分布, 第42回年次学術講演会講演概要集, pp. 646-647.
- 39) 宇多高明・小俣 篤・横山揚久(1988): Mach stemとedge bore に関する実験的研究, 第43回年次学術講演会講演概要集, pp. 602-603.
- 40) 萩原運弘・藤原隆男・宇多高明・村井禎美(1988): スリット型海域制御構造物の波力特性, 第43回年次学術講演会講演概要集, pp. 616-617.
- 41) 宇多高明・村井禎美(1988): 海域制御構造物の開発に係わる諸問題, 第43回年次学術講演会講演概要集, pp. 632-633.
- 42) 宇多高明・村井禎美・藤原隆一・武中信之(1988): 不規則波作用下での海域制御構造物の消波効果, 第43回年次学術講演会講演概要集, pp. 634-635.
- 43) 大山 巧・田中正博・清川哲志・宇多高明・村井禎美(1988): フレキシブルマウンドの地震時付加質量特性, 第43回年次学術講演会講演概要集, pp. 640-641.
- 44) 北村卓也・宇多高明・村井禎美・萩野秀雄(1988): 鋼板セル式海域制御構造物に関する実験的研究, 第43回年次学術講演会講演概要集, pp. 664-665.
- 45) 西牧 均・佐藤敏文・宇多高明・村井禎美・木村哲夫・高橋陽一(1988): 複合消波板を有する海域制御構造物の消波特性と波力, 第43回年次学術講演会講演概要集, pp. 666-667.
- 46) 清水正巳・小山文男・湊 隆次郎・本田陽一・藤川富夫・渡会英明・宇多高明・村井禎美(1988): 斜板を有する新型潜堤(SURF)の滑動安定性, 第43回年次学術講演会講演概要集, pp. 672-673.
- 47) 小山文男・中塚健司・清水正巳・勝井秀博・宇多高明・村井禎美(1988): 斜板を有する新型潜堤(SURF)の消波特性, 第43回年次学術講演会講演概要集, pp. 674-675.
- 48) 宇多高明・小俣 篤・竹渕 勉・斉藤友伸(1988): 浮遊砂の碎波帯内における輸送機構に関する地観測, 第43回年次学術講演会講演概要集, pp. 732-733.
- 49) 宇多高明・福井次郎・竺原章之(1988): 鳥取海岸沖の地形変化と底質変化の関係, 第43回年次学術講演会講演概要集, pp. 752-753.
- 50) 宇多高明・武中信之(1988): 高知海岸における大規模なバー・トラフ地形の形成, 第43回年次学術講演会講演概要集, pp. 754-755.
- 51) 宇多高明・山本幸次(1988): 山中湖内に見られる湖浜地形の特徴, 第43回年次学術講演会講演概要集, pp. 756-757.
- 52) 宇多高明・村井禎美・山本幸次・館 克彦(1988): 斜板消波潜堤の洗掘に関する実験的検討, 第43回年次学術講演会講演概要集, pp. 764-765.
- 53) 宇多高明(1989): 海岸護岸や消波工の存在は前浜消失の誘因となり得るか?, 第44回年次学術講演会講演概要集, pp. 42-43.
- 54) 田中正博・大山 巧・清川哲志・宇多高明・村井禎美(1989): フレキシブルマウンドによる波浪

- 制御, 第44回年次学術講演会講演概要集, pp. 44-45.
- 55) 宇多高明・小俣 篤・羽成英臣(1989): 砕波帯および打ち上げ領域における波浪波形の数値計算, 第44回年次学術講演会講演概要集, pp. 606-607.
- 56) 宇多高明・小俣 篤・横山揚久(1989): 緩傾斜堤の新しい法面形状に関する検討, 第44回年次学術講演会講演概要集, pp. 654-655.
- 57) 荻原運弘・藤原隆男・宇多高明・村井禎美(1989): スリット型海域制御構造物の砕波力実験, 第44回年次学術講演会講演概要集, pp. 664-665.
- 58) 加藤雅也・渡会英明・石野和男・上野成三・湊隆次郎・本田陽一・宇多高明・村井禎美(1989): 斜板を有する新型潜堤(SURF)の消波特性(2)-没水比と消波効果の関係-, 第44回年次学術講演会講演概要集, pp. 680-681.
- 59) 上野成三・石野和男・小山文男・加藤雅也・宇多高明・村井禎美(1989): 斜板消波潜堤 (SURF) のマウンド被覆石の安定性について, 第44回年次学術講演会講演概要集, pp. 682-683.
- 60) 佐藤敏文・高橋陽一・宇多高明・村井禎美(1989): 消波板を複合配置した海域制御構造物の波力特性, 第44回年次学術講演会講演概要集, pp. 684-685.
- 61) 藤沢康雄・林 秀郎・宇多高明・村井禎美・増田光一(1989): 複合消波機能を有する海域制御構造物の消波特性に関する実験的研究, 第44回年次学術講演会講演概要集, pp. 686-687.
- 62) 宇多高明・坂野 章・竹淵 勉(1989): 人工リーフ周りの流れと地形変化に関する検討, 第44回年次学術講演会講演概要集, pp. 736-737.
- 63) 宇多高明・山本幸次(1989): 遠州海岸、赤羽根漁港周辺の海浜変形, 第44回年次学術講演会講演概要集, pp. 780-781.
- 64) 宇多高明・舘 克彦(1989): 駿河湾西岸の海浜変形実態, 第44回年次学術講演会講演概要集, pp. 782-783.
- 65) 神谷光昭・荻野秀雄・宇多高明(1990): 根入れ鋼板セル型海域制御構造物の静的耐力, 第45回年次学術講演会講演概要集, pp. 140-141.
- 66) 宇多高明・坂野 章(1990): 波が斜め入射する条件下における人工リーフの養浜砂流出防止効果, 第45回年次学術講演会講演概要集, pp. 650-651.
- 67) 藤原隆一・吉田利春・宇多高明・小俣 篤(1990): レンズマウンド周辺の地形変化に関する実験的検討, 第45回年次学術講演会講演概要集, pp. 652-653.
- 68) 宇多高明・伊藤弘之・横山揚久(1990): 海岸線急変部に形成された砂嘴周りの漂砂特性, 第45回年次学術講演会講演概要集, pp. 668-669.
- 69) 宇多高明・中村瑛佳・大石英雄(1990): 駿河海岸の和田鼻砂嘴周辺の海浜変形, 第45回年次学術講演会講演概要集, pp. 670-671.
- 70) 宇多高明・伊藤弘之・横山揚久(1990): 駿河海岸の和田鼻砂嘴周辺の海浜流と構造物によるその制御, 第45回年次学術講演会講演概要集, pp. 684-685.
- 71) 加藤雅也・渡会英明・石野和男・上野成三・沖 正和・斉藤栄一・宇多高明・小俣 篤(1990): 斜板を有する新型潜堤(SURF)の消波特性(3)-不規則波実験-, 第45回年次学術講演会講演概要

集, pp. 688-689.

- 72) 田中正博・大山 巧・清川哲志・堀 哲郎・宇多高明・小俣篤(1990): マウンド付きフレキシブルマウンドの消波特性, 第45回年次学術講演会講演概要集, pp. 694-695.
- 73) 土田 充・萩原運弘・藤原隆一・宇多高明・山本幸次(1990): スリット型海域制御構造物周辺の波高分布計算, 第45回年次学術講演会講演概要集, pp. 696-697.
- 74) 宇多高明・浅対 享・小俣 篤・羽成英臣(1990): 地域, 季節, 時刻の相違による海岸利用状況の変化, 第45回年次学術講演会講演概要集, pp. 728-729.
- 75) 斉藤栄一・沖 政和・石野和男・上野成三・渡会英明・加藤雅也・宇多高明・小俣 篤(1990): 斜板消波潜堤(SURF)に作用する波圧の特性, 第45回年次学術講演会講演概要集, pp. 794-795.
- 76) 木全宏之・横山功一・宇多高明(1991): 有脚式離岸堤の波浪時応答に関する現地観測, 第46回年次学術講演会講演概要集, pp. 848-849.
- 77) 宇多高明・野口賢二・柳沢 修(1991): 緩傾斜堤の望ましい施工法に関する一提案, 第46回年次学術講演会講演概要集, pp. 858-859.
- 78) 萩原運弘・横山功一・宇多高明(1991): 有脚式離岸堤の現地波圧データの解析, 第46回年次学術講演会講演概要集, pp. 908-909.
- 79) 宇多高明・山本幸次・河野茂樹(1991): 等深線変化モデルによる護岸周辺の地形変化予測, 第46回年次学術講演会講演概要集, pp. 1036-1037.
- 80) 宇多高明・山本幸次・河野茂樹(1991): 等深線変化モデルによる突堤周辺の地形変化予測, 第46回年次学術講演会講演概要集, pp. 1038-1039.
- 81) 宇多高明・野口賢二(1991): 茨城県北部, 神岡上海岸の侵食実態, 第46回年次学術講演会講演概要集, pp. 1044-1045.

(13) 河 川

101 (11)

〔河川〕：発行年別分類

No. 1 (1988) スペイン, 海岸事情, I C C E

No. 2 (1989) サンゴ礁海岸, ウォーターフロント, 海岸保全

No. 3 (1990) 九十九里海岸, MMZ構想, 海岸利用

No. 4 (1990) 米国西海岸, 海岸事情, 海岸利用

[河 川] : 発 行 論 文

- 1) 宇多高明(1988): スペインの海岸事情, 河川, No507, pp. 56-62.
- 2) 宇多高明(1989): サンゴ礁海岸でのウォーターフロント利用と海岸保全, 河川, No519, pp. 30-35.
- 3) 宇多高明・半田真理子(1990): マリン・マルチ・ゾーン構想の実海域を対象としたケース・スタディ
河川, No531, pp. 53-61.
- 4) 宇多高明(1990): 米国西海岸の海岸事情, 河川, No531, pp. 80-86.

(14) Coastal Eng. in Japan

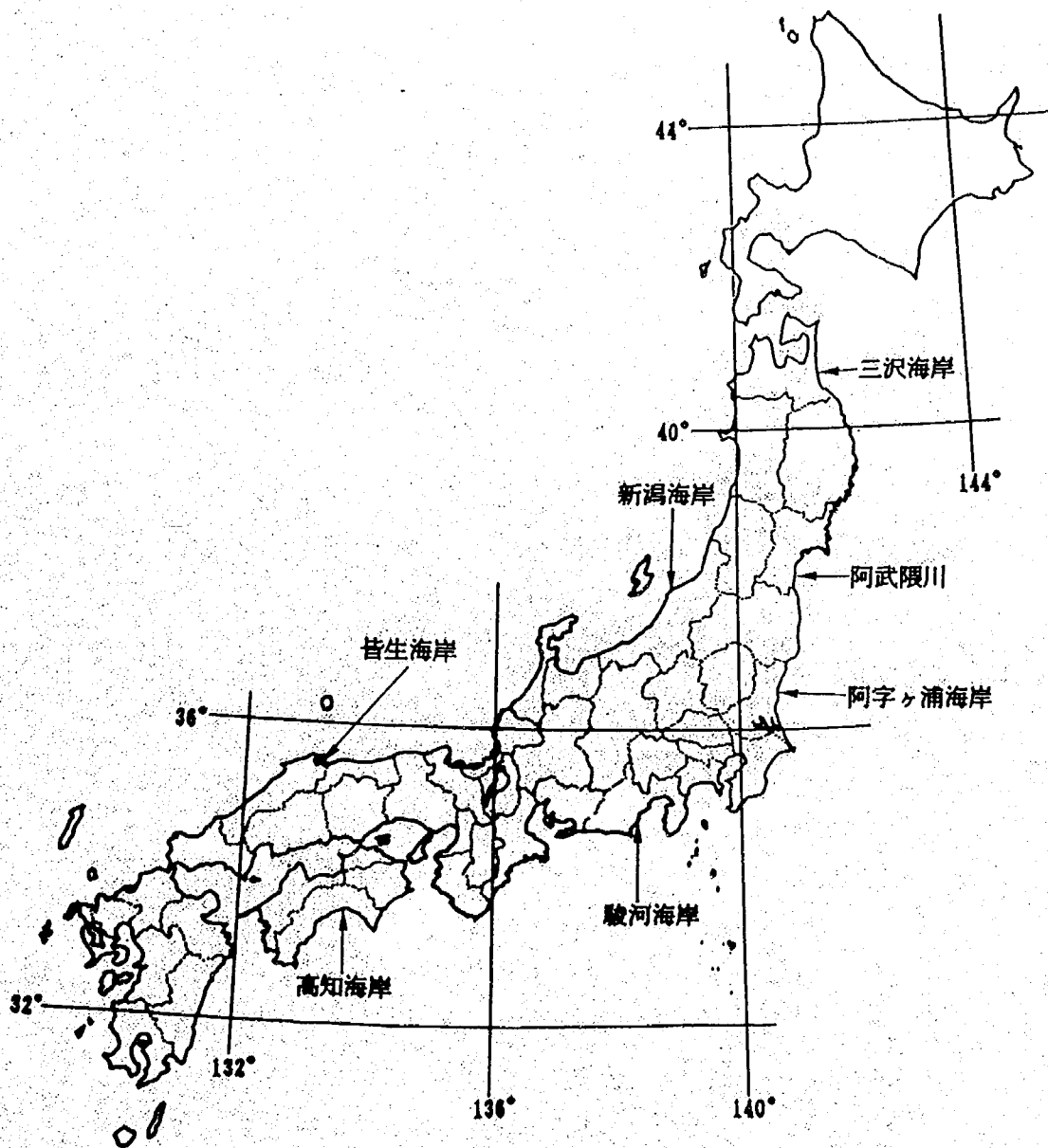
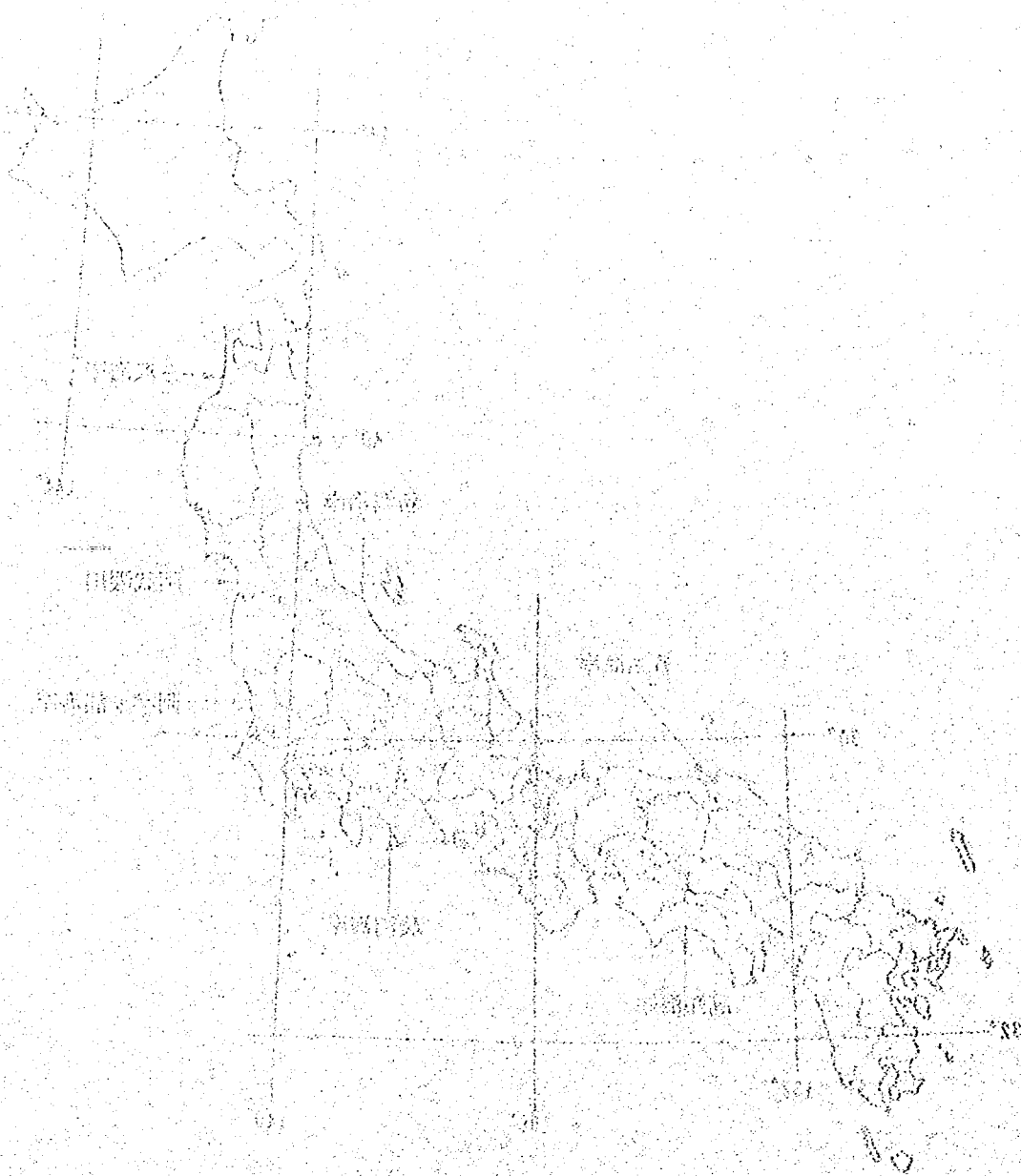


図-11 研究対象海岸の位置

Map of the Republic of China (1)



中華民國地圖 第一圖

[Coastal ENG. in JAPAN] : 地名別分類

三沢海岸	No. 2 (1980) 固有関数, 海浜変形
阿武隈川河口	No.13 (1989) 河口砂州, 洪水流
阿字ヶ浦海岸	No. 1 (1979) 固有関数, 海浜変形
	No. 3 (1982) 熱拡散係数, 水温
	No. 5 (1983) リモセン, 海浜流
	No.15 (1990) 現地観測, 前浜地形
駿河海岸	No. 7 (1985) 海岸侵食, 海浜変形
	No.11 (1988) 海底谷, 土砂損失
高知海岸	No. 8 (1986) 海底掘削, 海浜変形
皆生海岸	No.14 (1989) 離岸堤, 漂砂
新潟海岸	No.16 (1991) 人工リーフ, 消波効果

[Coastal ENG. in JAPAN] : 内容別分類

《1》海岸調査

1.1 漂砂

No.14 (1989) 皆生海岸, 離岸堤, 漂砂

1.2 海浜流

No. 5 (1983) 阿字ヶ浦海岸, リモセン, 海浜流

No. 6 (1984) ヘッドランド, 海浜流, 循環流

1.3 リモセン

No. 3 (1982) 阿字ヶ浦海岸, 熱拡散係数, 水温

No. 5 (1983) 阿字ヶ浦海岸, リモセン, 海浜流

《2》波浪 (津波含む)

No.10 (1988) 津波, 数値計算, うちあげ

《3》海浜変形

3.1 河口

No.13 (1989) 阿武隈川河口, 河口砂州, 洪水流

3.2 砂嘴

No. 4 (1983) 砂嘴, 海浜変形モデル, 汀線変化

3.3 砂浜

No. 1 (1979) 阿字ヶ浦海岸, 固有関数, 海浜変形

No. 2 (1980) 三沢海岸, 固有関数, 海浜変形

No. 4 (1983) 砂嘴, 海浜変形モデル, 汀線変化

No. 7 (1985) 駿河海岸, 海岸侵食, 海浜変形

No. 8 (1986) 高知海岸, 海底掘削, 海浜変形

No.11 (1988) 駿河海岸, 海底谷, 土砂損失

No.14 (1989) 皆生海岸, 離岸堤, 漂砂

No.15 (1990) 阿字ヶ浦海岸, 現地観測, 前浜地形

《4》海岸構造物

4.2 離岸堤・消波堤

№ 9 (1987) 離岸堤, 消波効果, 安定性

№14 (1989) 皆生海岸, 離岸堤, 漂砂

4.3 人工リーフ

№16 (1991) 新潟海岸, 人工リーフ, 消波効果

4.4 ヘッドランド (人工岬)

№ 6 (1984) ヘッドランド, 海浜流, 循環流

4.7 海域制御構造物

№12 (1989) 海域制御構造物, フレキシブルマウンド, 消波効果

[Coastal ENG. in JAPAN] : 発行年別分類

- No. 1 (1979) 阿字ヶ浦海岸, 固有関数, 海浜変形
- No. 2 (1980) 三沢海岸, 固有関数, 海浜変形
- No. 3 (1982) 阿字ヶ浦海岸, 熱拡散係数, 水温
- No. 4 (1983) 砂嘴, 海浜変形モデル, 汀線変化
- No. 5 (1983) 阿字ヶ浦海岸, リモセン, 海浜流
- No. 6 (1984) ヘッドランド, 海浜流, 循環流
- No. 7 (1985) 駿河海岸, 海岸侵食, 海浜変形
- No. 8 (1986) 高知海岸, 海底掘削, 海浜変形
- No. 9 (1987) 離岸堤, 消波効果, 安定性
- No. 10 (1988) 津波, 数値計算, うちあげ
- No. 11 (1988) 駿河海岸, 海底谷, 土砂損失
- No. 12 (1989) 海域制御構造物, フレキシブルマウンド, 消波効果
- No. 13 (1989) 阿武隈川河口, 河口砂州, 洪水流
- No. 14 (1989) 皆生海岸, 離岸堤, 漂砂
- No. 15 (1990) 阿字ヶ浦海岸, 現地観測, 前浜地形
- No. 16 (1991) 新潟海岸, 人工リーフ, 消波効果

[Coastal Eng. in Japan] : 発行論文

- 1) Hashimoto, H. and T. Uda (1979) : Analysis of beach profile changes at Agigaura by empirical eigenfunctions, Coastal Eng. in Japan, Vol. 22, pp. 47-57.
- 2) Hashimoto, H. and T. Uda (1980) : An application of an empirical prediction model of beach profile change to the Ogawarako Coast, Coastal Eng. in Japan, Vol. 23, pp. 191-204.
- 3) Hashimoto, H. and T. Uda (1982) : Measurement of the thermal diffusion coefficient near the surf zone by a thermal imagery, Coastal Eng. in Japan, Vol. 25, pp. 239-250.
- 4) Uda, T. (1983) : Predictive model of planform change of a spit at a river mouth, Coastal Eng. in Japan, Vol. 26, pp. 137-150.
- 5) Uda, T. and H. Hashimoto (1983) : Field investigation of nearshore circulation by a remote sensing technique, Coastal Eng. in Japan, Vol. 26, pp. 209-218.
- 6) Uda, T. (1984) : Nearshore circulation around an artificial headland due to oblique wave incidence, Coastal Eng. in Japan, Vol. 27, pp. 165-178.
- 7) Uda, T. and T. Takeuchi (1985) : An analysis of beach erosion in Suruga Coast, Coastal Eng. in Japan, Vol. 28, pp. 161-172.
- 8) Uda, T., C. Agemori and N. Chujo (1986) : Beach changes caused by offshore dredging, Coastal Eng. in Japan, Vol. 29, pp. 215-226.
- 9) Seiji, M., T. Uda and S. Tanaka (1987) : Statistical study on the effect and stability of detached breakwaters, Coastal Eng. in Japan, Vol. 30, No. 1, pp. 131-141.
- 10) Uda, T., A. Omata, Y. Yokoyama and S. Yamaki (1988) : Numerical Simulation and experiment on Tsunami Run-up, Coastal Eng. in Japan, Vol. 31, No. 1, pp. 87-104.
- 11) Uda, T., H. Tsutsumi and A. Omata (1988) : Field investigation of sediment movement into a submarine canyon off the Suruga Coast, Coastal Eng. in Japan, Vol. 31, No. 2, pp. 289-303.
- 12) Ohya, T., M. Tanaka, T. Kiyokawa, T. Uda and Y. Murai (1989) : Transmission and reflection characteristics of waves over a submerged flexible mound, Coastal Eng. in Japan, Vol. 32, No. 1, pp. 53-68.
- 13) Sasaki, T., T. Uda and K. Tone (1989) : Field investigation of disintegration process of a river mouth bar due to flood flow at Abukuma River, Coastal Eng. in Japan, Vol. 32, No. 1, pp. 133-147.
- 14) Kaji, T., T. Uda and Y. Suyama (1989) : Field Investigation of nearshore current and littoral transport around detached breakwaters on the Kaike Coast, Coastal Eng. in Japan, Vol. 32, No. 2, pp. 173-186.
- 15) Uda, T. and A. Omata (1990) : Process of berm formation and predominant factors determining foreshore change, Coastal Eng. in Japan, Vol. 33, No. 1, pp. 63-72.
- 16) Hamaguchi, T., T. Uda, C. Inoue and A. Igarashi (1991) : Field experiment on wave-dissipating effect of artificial reefs on the Niigata Coast, Coastal Eng. in Japan, Vol. 34, No. 1, pp. 51-65.

(15) ICCE

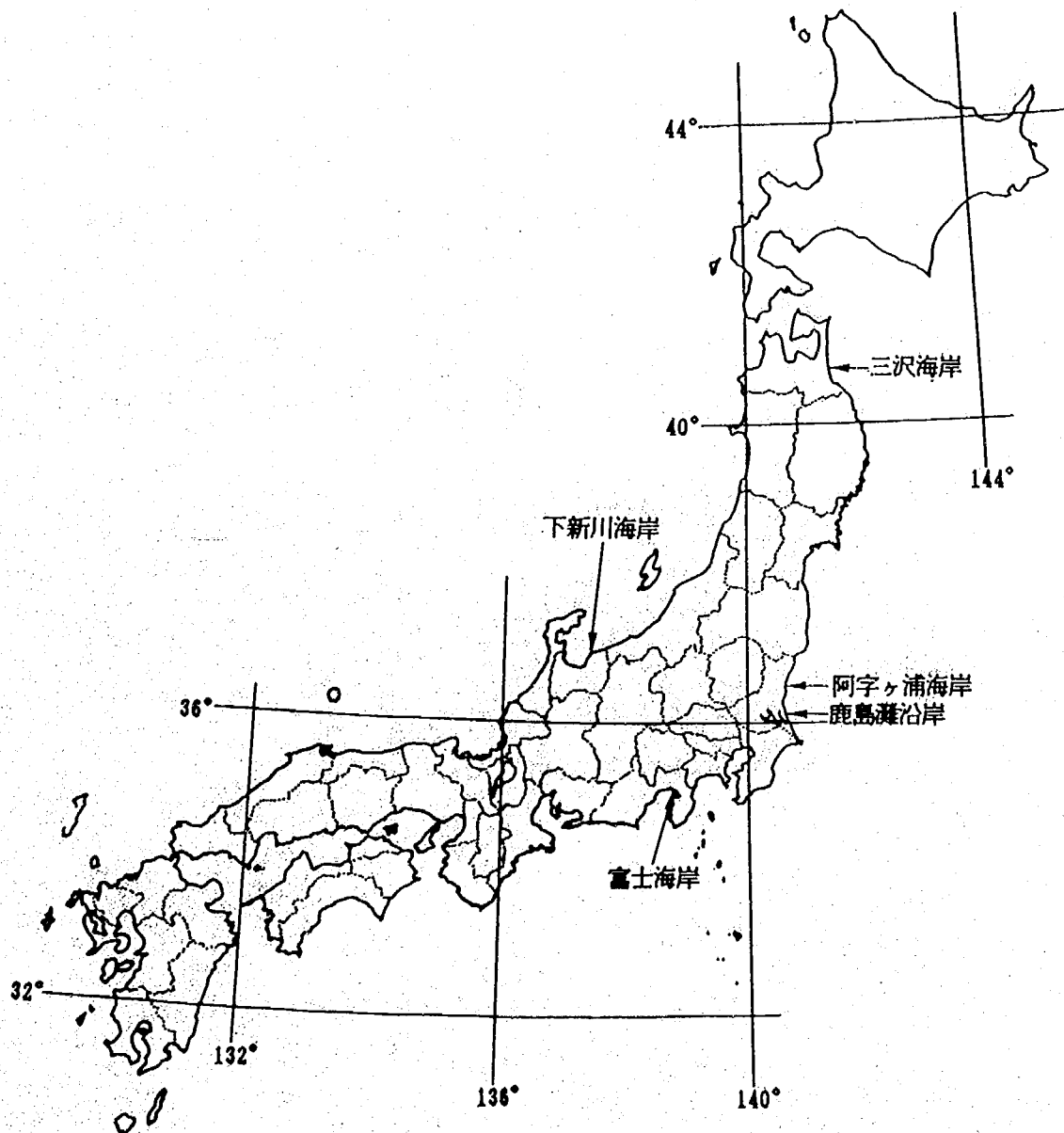
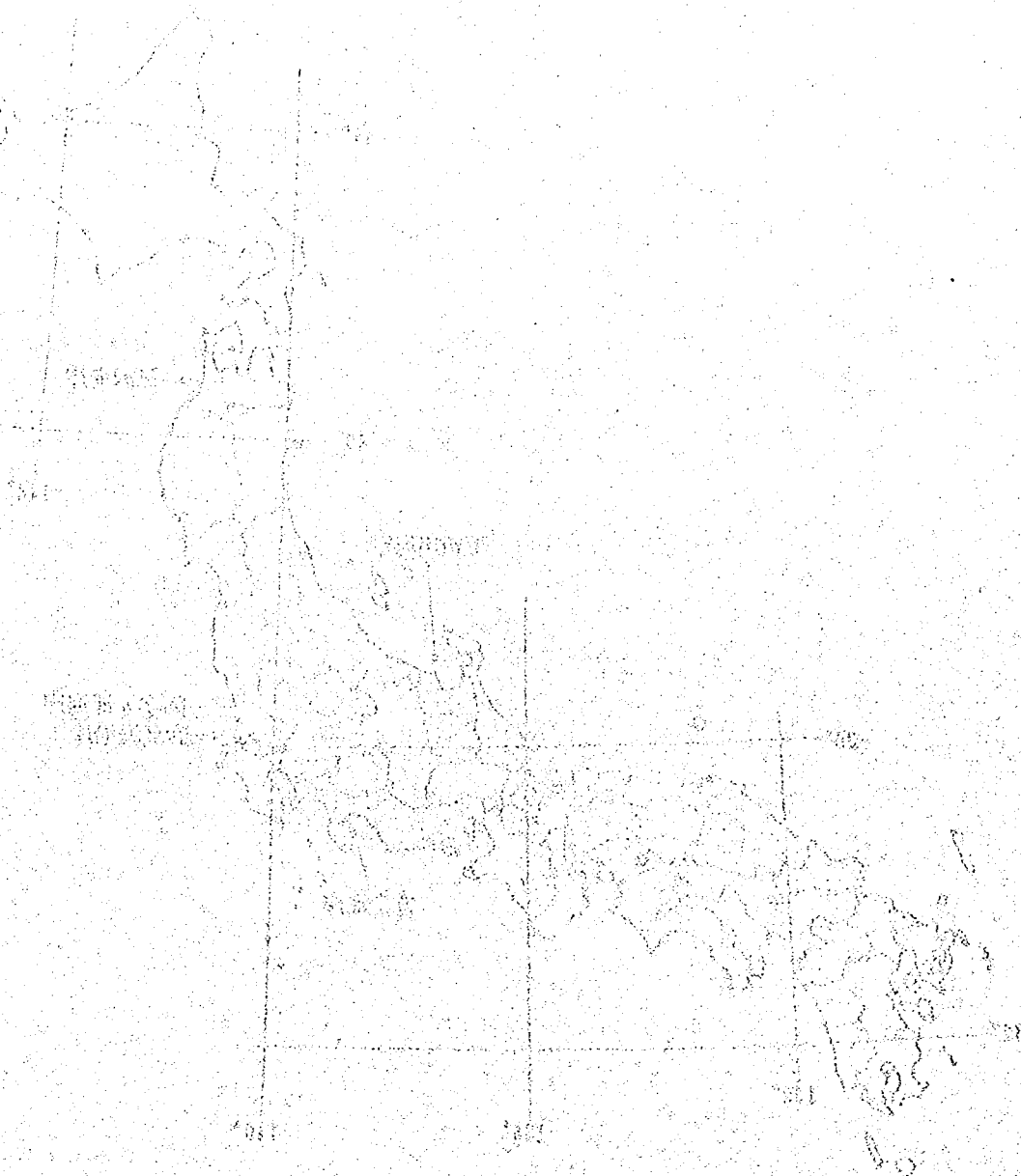


図-12 研究対象海岸の位置

100.00



[I C C E] : 地名別分類

- 三沢海岸 No. 2 (1982) 経験的海浜変形モデル, 海浜変形
阿字ヶ浦海岸 No. 1 (1982) 海浜変形, 固有関数
鹿島灘沿岸 No. 5 (1986) 海岸侵食, 底質粒径
 No. 8 (1988) ヘッドランド, 海浜変形
富士海岸 No. 4 (1986) 離岸堤, ブロック散乱
 No. 6 (1988) 海浜変形, 等深線変化モデル
下新川海岸 No. 3 (1986) 離岸堤, サンドバイパス

[I C C E] : 内容別分類

《 3 》海浜変形

3.3 砂浜

- No. 1 (1982) 阿字ヶ浦海岸, 海浜変形, 固有関数
No. 2 (1982) 三沢海岸, 経済的海浜変形モデル, 海浜変形
No. 5 (1986) 鹿島灘沿岸, 海岸侵食, 底質粒径
No. 6 (1988) 富士海岸, 海浜変形, 等深線変化モデル
No. 8 (1988) 鹿島灘, ヘッドランド, 海浜変形

《 4 》海岸構造物

4.2 離岸堤・消波堤

- No. 3 (1986) 下新川海岸, 離岸堤, サンドバイパス
No. 4 (1986) 富士海岸, 離岸堤, ブロック散乱
No. 7 (1988) 離岸堤, 全国実態, 統計分析

4.4 ヘッドランド (人工岬)

- No. 8 (1988) 鹿島灘, ヘッドランド, 海浜変形

4.5 養浜・サンドバイパス

- No. 3 (1986) 下新川海岸, 離岸堤, サンドバイパス

《 6 》数値モデル

6.2 経験的海浜変形モデル

- No. 2 (1982) 三沢海岸, 経験的海浜変形モデル, 海浜変形

6.3 等深線変化モデル

- No. 6 (1988) 富士海岸, 海浜変形, 等深線変化モデル

[I C C E] : 発行年別分類

- No. 1 (1982) 阿字ヶ浦海岸, 海浜変形, 固有関数
- No. 2 (1982) 三沢海岸, 経験的海浜変形モデル, 海浜変形
- No. 3 (1986) 下新川海岸, 離岸堤, サンドバイパス
- No. 4 (1986) 富士海岸, 離岸堤, ブロック散乱
- No. 5 (1986) 鹿島灘沿岸, 海岸侵食, 底質粒径
- No. 6 (1988) 富士海岸, 海浜変形, 等深線変化モデル
- No. 7 (1988) 離岸堤, 全国実態, 統計分析
- No. 8 (1988) 鹿島灘沿岸, ヘッドランド, 海浜変形

[I C C E] : 発行論文集

- 1) Hashimoto, H. and T. Uda (1982): Field investigation of beach profile changes and the analysis using empirical eigenfunctions, Proc. 18th ICCE, pp. 1369-1384.
- 2) Uda, T. and H. Hashimoto (1982): Description of beach changes using an empirical predictive model of beach profile changes, Proc. 18th ICCE, pp. 1405-1418.
- 3) Suyama, H., T. Uda and T. Yoshimura (1986): Beach change around detached breakwaters due to artificial nourishment of bypassed sand, Proc. 20th ICCE, pp. 1565-1579.
- 4) Kohno, H., T. Uda and Y. Yabusaki (1986): On the scattering of concrete armour units of detached breakwaters due to waves, Proc. 20th ICCE, pp. 1972-1986.
- 5) Uda, T., M. Sumiya and Y. Kobayashi (1986): Analysis of beach erosion around large-scale coastal structures, Proc. 20th ICCE, pp. 2329-2343.
- 6) Ohishi, H., T. Uda, Y. Murakami and M. Watanabe (1988): Prediction of 3-D beach changes on the Fuji Coast, Proc. 21st ICCE, pp. 1937-1951.
- 7) Uda, T. (1988): Statistical analysis of detached breakwaters in Japan, Proc. 21st ICCE, pp. 2028-2042.
- 8) Uda, T., M. Sumiya and H. Sakuramoto (1988): Stabilization of coast by construction of headlands on the Kashimanada Coast, Japan, Proc. 21st ICCE, pp. 2791-2805.

(16) Coastal Sediments.

CHARGE (10150) (01)

[Coastal Sediments] : 内容別分類

《3》海浜変形

3.2 砂嘴

No. 2 (1991) 砂嘴, 海浜変形, 模型実験

3.3 砂浜

No. 1 (1987) 三沢海岸, 等深線変化モデル, 海浜変形

No. 2 (1991) 砂嘴, 海浜変形, 模型実験

No. 3 (1991) 海岸侵食, 全国実態, 分類

《6》数値モデル

6.3 等深線変化モデル

No. 1 (1987) 三沢海岸, 等深線変化モデル, 海浜変形

[Coastal Sediments] : 発行年別分類

No. 1 (1987) 三沢海岸, 等深線変化モデル, 海浜変形

No. 2 (1991) 砂嘴, 海浜変形, 模型実験

No. 3 (1991) 海岸侵食, 全国実態, 分類

[Coastal Sediments] : 発行論文

- 1) Uda, T. and H. Saito(1987): Beach erosion on the Ogawarako Coast and prediction of shoreline evolution, Proc. Coastal Sediments '87, Vol.1, pp.484-499.
- 2) Uda, T. and K. Yamamoto(1991): Spit formation in lake and bay, Proc. Coastal Sediments '91, Vol.2, pp.1651-1665.
- 3) Uda, T.(1991): Beach erosion in Japan and its classification, Proc. Coastal Sediments '91, Vol.2, pp.1856-1870.

(17) 水工学に関する夏期研修会講義集

STANDARD OPERATING PROCEDURE (SOP)

〔水工学に関する夏期研修会〕：内容別分類

《3》海浜変形

3.3 砂浜

No 1 (1984) 皆生海岸，深淺データ，等深線距離

《5》海岸環境

No 2 (1989) ウォーターフロント，適地選定，水温・気温

〔水工学に関する夏期研修会〕：発行年別分類

No 1 (1984) 皆生海岸，深淺データ，等深線距離

No 2 (1989) ウォーターフロント，適地選定，水温・気温

[水工学に関する夏期研修会] : 発行論文

- 1) 宇多高明(1984): 深淺測量データを利用した海浜地形変化の解析法, 第20回水工学に関する夏期研修会講義集, pp. B-8-1~B-8-17.
- 2) 宇多高明(1989): ワークフロントの活用と保全, 第25回水工学に関する夏期研修会講義集, pp. B-7-1~B-7-12.

(18) 水理講演会論文集

第 5 章 第 2 節 第 2 項 (2)

[水理講演会論文集] : 内容別分類

《1》海岸調査

1.2 海浜流

No. 1 (1978) 海浜流, 模型実験, 数値計算

No. 2 (1979) 海浜流, 模型実験, 数値計算

No. 3 (1979) 海浜流, 模型実験, 海浜変形

No. 5 (1980) 阿字ヶ浦海岸, リモセン, 海浜流

1.3 リモセン

No. 5 (1980) 阿字ヶ浦海岸, リモセン, 海浜流

《3》海浜変形

3.1 河口

No. 7 (1983) 河口, 模型実験, 海浜変形モデル

No. 9 (1989) 相模川河口, 洪水, 河口デルタ

3.3 砂浜

No. 3 (1979) 海浜流, 模型実験, 海浜変形

No. 4 (1980) 人工海浜, 養浜, 海浜変形

No. 6 (1981) 人工海浜, 養浜, 海浜変形

No. 7 (1983) 河口, 模型実験, 海浜変形モデル

No. 8 (1987) 移動床, 模型実験, 実験精度

《4》海岸構造物

4.5 養浜・サンドバイパス

No. 4 (1980) 人工海浜, 養浜, 海浜変形

No. 6 (1981) 人工海浜, 養浜, 海浜変形

〔水理講演会論文集〕：発行年別分類

- № 1 (1978) 海浜流, 模型実験, 数値計算
- № 2 (1979) 海浜流, 模型実験, 数値計算
- № 3 (1979) 海浜流, 模型実験, 海浜変形
- № 4 (1980) 人工海浜, 養浜, 海浜変形
- № 5 (1980) 阿字ヶ浦海岸, リモセン, 海浜流
- № 6 (1981) 人工海浜, 養浜, 海浜変形
- № 7 (1983) 河口, 模型実験, 海浜変形モデル
- № 8 (1987) 移動床, 模型実験, 実験精度
- № 9 (1989) 相模川河口, 洪水, 河口デルタ

[水理講演会論文集] : 発行論文

- 1) 橋本 宏・宇多高明・林 敏夫(1978) : 海浜流の再現性に関する研究, 第22回水理講演会論文集, pp. 147-154.
- 2) 橋本 宏・宇多高明(1979) : 波と流れの干渉による波動と流れの場の変化, 第23回水理講演会論文集, pp. 35-40.
- 3) 橋本 宏・宇多高明・林 敏夫(1979) : 海岸構造物周辺の海浜流と地形変化の特性, 第23回水理講演会論文集, pp. 181-186.
- 4) 田中常義・宇多高明・小池 博・伊藤 広(1980) : 養浜の現地実験とその追跡調査について, 第24回水理講演会論文集, pp. 209-214.
- 5) 宇多高明・橋本 宏(1980) : リモートセンシングによる海底地形・海浜流の同時観測, 第24回水理講演会論文集, pp. 215-220.
- 6) 田中常義・宇多高明・笠原 実・伊藤 広(1981) : 人工海浜の建設と施工後の追跡調査, 第25回水理講演会論文集, pp. 521-526.
- 7) 宇多高明(1983) : 河口内の矩形砂州の変形実験とその変形予測, 第27回水理講演会論文集, pp. 773-779.
- 8) 宇多高明・小俣 篤・山本幸次(1987) : 海岸移動床平面実験における地形測定の精度の検討, 第31回水理講演会論文集, pp. 749-754.
- 9) 宇多高明(1989) : 洪水流と波による相模川河口デルタの変形実態の調査, 第33回水理講演会論文集, pp. 307-312.

(19) 諸 論 文

1000 1000 1000

[諸論文] : 内容別分類

[海洋科学]

《 3 》 海浜変形

3.3 砂浜

No 1 (1984) 皆生海岸, 海浜変形, 深淺データ

《 4 》 海洋構造物

4.3 人工リーフ

No 2 (1988) 人工リーフ, 消波効果, 海浜流

[河川]

《 5 》 海岸環境

No 1 (1988) スペイン, 海岸事情, I C C E

No 2 (1989) サンゴ礁海岸, ウォーターフロント, 海岸保全

No 3 (1990) 九十九里海岸, M M Z 構想, 海岸利用

No 4 (1990) 米国西海岸, 海岸事情, 海岸利用

[河川レビュー]

《 3 》 海浜変形

3.3 砂浜

No 1 (1985) 海岸侵食, 三沢海岸, 大洗海岸

[地質と調査]

《 2 》 波浪 (津波含む)

No 1 (1986) 伊勢湾, 高潮, 伊勢湾台風

[I A H R]

《 1 》 海岸調査

1.3 リモセン

No 1 (1985) 阿字ヶ浦海岸, リモセン, 熱映像

[Coastal & Port Eng. in Developing Countries]

《 3 》 海浜変形

3.3 砂浜

No 1 (1987) 鹿島灘沿岸, 海岸侵食, 被災状況

[海藻魚礁ニュース]

《4》海岸構造物

4.3 人工リーフ

No 1 (1988) 人工リーフ, 消波効果, 海浜流

[水理公式集例題集]

《4》海岸構造物

4.1 突堤

No 1 (1988) 突堤, 汀線変化, 例題

[沿岸域]

《5》海岸環境

No 1 (1989) モルディブ, サング礁海岸, 海岸災害

[河川・海岸シンポジウム講演集]

《3》海浜変形

3.3 砂浜

No 1 (1989) 移動限界水深, 確率波, 現地データ

[地理]

《3》海浜変形

3.3 砂浜

No 1 (1990) 海岸侵食, 全国実態, 分類

[EMEC S '90]

《4》海岸構造物

4.5 養浜・サンドバイパス

No 1 (1991) 東播海岸, 養浜, 海浜変形

[土木学会誌]

《4》海岸構造物

4.7 海域制御構造物

No 1 (1991) MMZ構想, 研究紹介, 総プロ

[土木計画学研究・講演集]

《5》海岸環境

No. 1 (1991) 海岸環境, 温熱環境, 指標

[森林航測]

《1》海岸調査

1.3 リモセン

No. 1 (1991) 空中写真, リーフ, 筋目模様

[諸論文] : 発行年別分類

[海洋科学]

No. 1 (1984) 皆生海岸, 海浜変形, 深淺データ

No. 2 (1988) 人工リーフ, 消波効果, 海浜流

[河川レビュー]

No. 3 (1985) 海岸侵食, 三沢海岸, 大洗海岸

[地質と調査]

No. 4 (1986) 伊勢湾, 高潮, 伊勢湾台風

[I A H R]

No. 5 (1985) 阿字ヶ浦海岸, リモートセンシング, 熱映像

[Coastal & Port Eng. in Developing Countries]

No. 6 (1987) 鹿島灘沿岸, 海岸侵食, 被災状況

[海藻魚礁ニュース]

No. 7 (1988) 人工リーフ, 消波効果, 海浜流

[水理公式集例題集]

No. 8 (1988) 突堤, 汀線変化, 例題

[沿岸域]

No. 9 (1989) モルディブ, サンゴ礁海岸, 海岸災害

[河川・海岸シンポジウム講演集]

No. 10 (1989) 移動限界水深, 確率波, 現地データ

[地理]

No. 11 (1990) 海岸侵食, 全国実態, 分類

[E M E C S ' 9 0]

No. 12 (1991) 東播海岸, 養浜, 海浜変形

[土木学会誌]

No.13 (1991) MMZ構想, 研究紹介, 総プロ

[土木計画学研究・講演集]

No.14 (1991) 海岸環境, 温熱環境, 指標

[森林航測]

No.15 (1991) 空中写真, リーフ, 筋目模様

〔諸論文〕：発行論文

- 1) 宇多高明(1984): 海浜変形機構, 海洋科学, Vol.169, pp.402-408.
- 2) 宇多高明・小俣 篤(1988): 人工リーフの機能と効果, 海洋科学, Vol.216, pp.383-388.
- 3) 宇多高明(1985): 構造物の周りで進行する海岸侵食, 河川レビュー, Vol.14, No.53, pp.32-39.
- 4) 宇多高明(1986): 高潮と侵食の災害と対策, 地質と調査, '86 第4号, pp.23-32.
- 5) Uda, T., and H. Hashimoto (1985): Field investigation of nearshore circulation by a remote sensing technique, Proc.21st IAHR CONGRESS, Vol.4, pp.192-196.
- 6) Uda, T. and M. Sumiya (1987): Analysis of beach erosion along the Kashimanada Coast, Japan, Proc. Coastal & Port Eng. in Developing Countries, pp.348-362.
- 7) 宇多高明・小俣 篤(1988): 人工リーフについて, 海藻魚礁ニュース, No.9, pp.18-25.
- 8) 宇多高明(1988): 突堤周辺の汀線形状の変化, 水理公式集例題集, pp.278-280.
- 9) 宇多高明(1989): 熱帯のサンゴ礁海岸における海岸災害, 沿岸域, Vol.1, No.2, pp.54-59.
- 10) 宇多高明(1989): 海浜過程への確率概念の応用, 土木学会第3回河川・海岸シンポジウム講演集, pp.39-48.
- 11) 宇多高明(1990): わが国の海岸侵食の現状とその問題点, 地理, Vol.35, No.6, pp.34-43.
- 12) Kadomatsu T., T. Uda and K. Fujiwara(1991): Beach Nourishment and Field Observation of Beach Changes on the Toban Coast Facing Seto Inland Sea, Marine Pollution Bulletin, Vol.23, Environmental Management and Appropriate Use of Enclosed Coastal Seas(EMECS '90), pp.155-159.
- 13) 宇多高明(1991): 海洋利用空間の創成・保全技術の開発－MMZ構想－, 土木学会誌, Vol.76, No.6, pp.18-19.
- 14) 宇多高明・小俣 篤・浅対 享(1991): 海岸環境に適用可能な温熱指標, 土木計画学研究・講演集, No.14(1), pp.509-516.
- 15) 宇多高明(1991): 私の実践ノート－海岸工学－, (さまざまな分野での空中写真利用), 日本林業技術協会, 森林航測, No.165, pp.10-13.

海岸研究室発表論文の目録と
その検索法

ISSN 0386-5878
土木研究所資料第3090号
平成4年2月(1992)

要 旨

海岸研究室長 宇 多 高 明

1973年より1992年1月末までに、土木研究所海岸研究室より発表された論文の目録と、その検索法を示す。

キーワード：海岸研究室，発表論文，目録，論文キーワード



郵便はがき

四十一円切
手をはって
下さい。

305-□□

茨城県つくば市大字旭一番地
建設省土木研究所
海岸研究室 行

No. _____

No. _____

配布先氏名

配布先住所



土木研究所資料第 3090 号 部

上記のとおり受領しました。

所 属 (住所)

氏 名 印